

- 魯(ろ・亀井) → 南溟(なんめい・亀井、儒医/詩人) 3 2 3 7
- 魯(ろ・小山) → 梅千丸(うめぼしまる・壺中庵、狂歌/狂詩) D 1 2 4 2
- 魯(ろ・牧村) → 東山(とうざん・牧村まきむら、文筆家) E 3 1 5 1
- 魯(ろ・石原/石) → 哲庵(ていあん・石原、儒/詩/医) 3 0 2 3
- 魯(ろ・高梨) → 紅葉(こうよう・高梨たかなし/高、儒者/詩) L 1 9 4 9
- 魯(ろ・渡辺) → 樵山(しょうざん・渡辺わたなべ、藩儒) S 2 2 5 6
- 魯(ろ・鈴木) → 蓼処(りょうしょ・鈴木すずき、藩士/儒/詩) I 4 9 0 4
- 魯(ろ・広川) → 晴軒(せいけん・広川ひろかわ、商家/洋学者) I 2 4 0 1
- 魯(ろ・高橋) → 築水(らくすい・高橋たかはし/宮原、藩士/詩歌) D 4 8 5 5
- 魯(ろ・吉田) → 穉(ひつじ・吉田よしだ/待井、歌人) J 3 7 9 0
- 輅(ろ・田辺) → 明庵(めいあん・田辺たなべ、儒者) 4 3 0 5
- 盧(ろ・早川) → 忠顕(ただあき・早川はやかわ/源、藩士/国学) Z 2 6 0 1
- 盧(ろ/いおり・中里) → 常嶽(つねおか・中里なかざと、商家/歌人) B 2 9 7 8
- 5200 **露庵**(ろあん・西垣にしがき、名;政在/別号;今陵) 1720-1800 81 肥後熊本藩八代城代松井家の家臣;儒者;郷校八代伝習館創設に尽力、新田開墾に功績、詩歌を嗜む、「露庵遺稿」、桐斎の父
- 5201 **蘆庵**(ろあん・小沢おざわ/本姓;平、名;玄仲はるなか、大和松山藩士小沢実郡さねくに男) 1723-1801 79歳、母;曾和家の女由佐、大阪で浪人の子として生、1739頃京の鷹司家に出仕、本庄勝明の養子/実父没後旧姓小沢に復帰、歌:冷泉為村門/破門;京地下歌人として活動、浪人として歌指導のみを業;生活困窮、犬山の成瀬家京屋敷留守役となる、[ただごと歌]を提唱主張;平安和歌四天王の1(澄月・伴蒿蹊・慈延と)、宣長・秋成と交流、その歌論は香川景樹に継承、1781「難蔵山集」/90「布留ふるの中道」「蘆かび」「塵ひち」著、1796「振分髪」/97「十牛和歌論義」「袖中和歌六帖」/1800「蘆庵翁隨筆」、「和歌六義」「名所便覧」/家集「六帖詠草」「六帖詠草拾遺」「蘆庵家集」、「蘆菴翁和歌」外著多数、[大井川月と花とのおぼろ夜にひとりかすまぬ浪の音かな](六帖詠草;春歌145、伴資芳と京のならび岡・御室・大井の川辺に遊ぶ;蓮法法師も来あふ)、[七十は人かずならぬ我も経ぬ君は千歳のよはひ重ねよ](六帖詠草;雑1812、1799年[寛政11]伊勢の本居宣長の七十を祝う歌;蘆庵この時77歳、宣長の返歌;ななそぢは数にもあらず過しこし君にひかれてわれも千代へむ、宣長は1801年に72歳没・蘆庵も同年の没79歳)、[蘆庵(;号)の通称/別号]通称;帯刀/大学、別号;観荷堂/凶南亭/孤鷗/七十童/八九童、法号;寂照院
- 5212 **魯庵**(ろあん・佐々木ささき/修姓;左) 1733-82 50 京の儒者/詩;竜草廬門、1765混沌詩社結成に参加、平沢旭山の勧めで医学を修学;肥前蓮池藩主鍋島直寛の侍医;1772江戸に赴任、昌平黌入、旭山と親交/赤松春庵・頼春水と交流、「魯庵詩集」「魯庵小隱集」著、[魯庵(;号)の名/字/法号]名;鳳、字;子岳、法号;神翁麗通公長居士
- 5213 **魯庵**(ろあん・石川いしかわ、町医水野玄宅2男) 1773-1841 69 岐阜の儒者;尾張藩儒の石川香山門、香山の養嗣子、1794尾張藩校明倫堂学生/典籍見習/1827奥詰;江戸に赴く、世子の侍読、藩邸内の学問所総裁、藩主に諫言;容れられず在府を解任;書物奉行に降格、「魯庵詩集」「学規診解」「道経図解問答」「道燈」/1838「道経図解」著、[魯庵(;号)の名/字/通称/別号]名;居貞/嘉貞、字;公幹、通称;順次、別号;纂己叟
- 5214 **魯庵**(ろあん・曾根そね、藤四郎俊徳男) 1814-1868 戦死 55 羽前米沢藩士;1829家督継嗣;侍組に属す;25石/儒者1834興讓館助読/62友子堂読長/67塾生教育に尽力の功で加贈、私塾も開設、門弟多数、戊辰戦争に前線出陣を志願;越後大黒村に戦死、1841「魯菴詩集」「魯菴文集」、「曾根魯庵文集」「四書匯編」著、[魯庵(;号)の名/字/通称]名;鳳/俊臣、字;元瑞、通称;敬一郎/宮次
- 魯庵(ろあん・岡、公翼) → 澹斎(たんさい・岡おか、医者/詩人/本草) T 2 6 4 8

魯庵(ろあん・渡辺)	→	昌亭(しょうてい・渡辺わたなべ、医者)	K 2 2 9 7
魯庵(ろあん・小原)	→	正路(正道まさみち・小原おはら、藩士/歌)	M 4 0 0 4
魯庵(ろあん・小原)	→	氏益(うじます・小原おはら、藩士/絵師)	C 1 2 7 2
蘆庵(ろあん)	→	武因(たけより・荒木田/榎倉、神職/連歌)	Q 2 6 7 7
蘆庵(呂庵ろあん)	→	季吟(きぎん・北村、古典学/俳/歌人)	1 6 0 6
蘆庵(ろあん・八隅)	→	景山(けいざん・八隅やすみ、医者)	F 1 8 7 9
驢庵(ろあん・半井)	→	瑞策(ずいさく・半井なからい/和気、医者)	E 2 3 5 5
驢庵(ろあん・半井)	→	瑞寿(ずいじゅ・半井なからい/和気、医;典薬頭)	E 2 3 6 6
驢庵(ろあん・半井)	→	成明(なりあきら・半井なからい、幕医)	H 3 2 0 2
鱸庵(ろあん・大津)	→	唯雪(ただゆき・大津おおつ/村田、藩士/歌)	W 2 6 1 7
露庵(ろあん;号)	→	無了(むりょう;法諱・浄界;字、真言僧)	D 4 2 2 6
露庵(ろあん・富岡)	→	有佐(ゆうさ・富岡とみおか、俳人)	B 4 6 6 8
露庵(ろあん)	→	巽我(そんが、俳人)	E 2 5 6 7

- 5215 **蘆庵一馬**(ろあんいちば、姓;茅根ちのね)?-? 江戸小石川の狂歌作者;芍薬亭長根門、のち水戸備前町住、轡連判者、1823「狂歌力くらべ」編/24「狂歌役者画像集」編、[蘆庵一馬(;号)の通称/別号]通称;六左衛門、別号;万物子

蘆庵門の四天王(ろあんもんのにしんのう);小沢蘆庵門下のすぐれた4人の歌人

→	敬儀(たかひり・田山)1766-1814	D 2 6 4 7
→	布淑(のぶよし・小川)1756-1820	C 3 5 3 4
→	黙軒(もくけん・前波まえば)1745-1818	4 4 7 7
→	勝義(かつよし・小野)1742-1804	F 1 5 4 9

蘆惟親(ろいしん) → 広川(こうせん・鈴木/蘆、儒/詩文) K 1 9 2 0

- 5216 **蘆陰**(ろいん・近藤こんどう/修姓;膝、正名男)1688-1750**63歳** 母;石黒政澄女、幕臣;祖父正吉以来右筆の家、1698(元禄11/12歳)家督継嗣;幕臣/1725表右筆/43書物奉行、漢学者;詩文、読書家;老子関係の研究、妻;石黒政朝女、1720「儒宗定論」31「老子本義」40「老子答問書」「蘆陰稿」著、1749「老子本義徴」編、「老子本義或問」「學術編」「築田系図」著、[蘆陰(;号)の名/字/通称/法号]名;舜政、字;淳民、通称;源次郎、法号;保持院

- 5217 **芦隠**(ろいん) ?-? 俳;1773几董「明鳥」入
[ほととぎす舟さし向し淀の端はた](あけ鳥)

- 5218 **魯隠**(ろいん・山形やまがた) ?-? 江中期伊賀の俳人;長齋門、大坂尼崎町一丁目住、柿壺社に属す、1797「涼舟の記」98「気比」「みちゆきふり」編、1806「このあき集」校訂、「乙女」編、[魯隠(;号)の名/通称/別号]名;長康、通称;加嶋屋用助/要助、別号;縄海子/縄海主人

蘆隠(ろいん・長島)	→	千秋(ちあき・長島ながしま、歌人)	N 2 8 2 2
芦隠軒(ろいんけん)	→	白鶴(はくこう・大矢、俳人)	F 3 6 2 0
蘆陰舎(ろいんしゃ・大魯)	→	大魯(たいろ・吉分[別]、俳人)	C 2 6 3 7
蘆陰舎(2世ろいんしゃ)	→	百堂(ひやくどう・田辺、商家/俳人)	E 3 7 6 9
蘆陰舎(3世ろいんしゃ)	→	百堂(2世ひやくどう・田辺、初世百堂男/俳人)	E 3 7 7 0
蘆陰社(ろいんしゃ)	→	芙蓉花(ふようか・一本亭、狂歌/俳人)	E 3 8 5 3
芦陰舎(ろいんしゃ)	→	竹斎(ちくさい・芦陰舎、俳人)	D 2 8 0 5
寵(ろう)	→	寵(ちよう、源精女、歌人)	H 2 8 0 6
老(ろう;一字名;)	→	通茂(みちしげ/みちもち・中院なかのいん/源、廷臣/歌学)	4 1 0 6
胤(ろう・鈴木)	→	胤(あきら・鈴木、儒/国学/歌人)	1 0 1 3
朗(ろう・荒居)	→	朗(あきら・荒居あらい、藩士/歌人)	G 1 0 8 7
朗(ろう/あきら・栗田)	→	逸斎(いつさい・栗田あわた、儒/詩人)	H 1 1 1 7
朗(ろう/あきら・渡辺)	→	去何(きよか・渡辺わたなべ、国学者/俳人)	H 1 6 1 0
朗(ろう/あきら・梶)	→	琴梧(きんご、梶あがた、儒者)	Q 1 6 8 7
鐘(ろう・宮沢/源)	→	通魏(みちたか・宮沢、医/国学)	B 4 1 7 1
老安(ろうあん・宮島)	→	老安(としやす・宮島みやじま/藤原、国学者)	W 3 1 6 2

- 朧庵(ろうあん) → 再和坊(さいわぼう・河村、医者/俳人) B 2 0 1 8
 朗一(ろういち・熊本) → 華山(かざん・熊本くもと/熊ゆう、儒者/詩) L 1 5 7 0
 5219 老雨(ろうう) ? - ? 俳人;1782蕪村「花鳥篇」1句入、
 [そとは見せじときぬかづけ置く](花鳥篇;宗因[ほととぎす]の歌仙;第26句)、
 (前句;まめの粉のすてあやまてる小豆餅/雪居)
 老雨(ろうう・雨森) → 精斎(せいさい・雨森あめのもり/妹尾、藩儒) 2 4 7 6
 老迂(ろうう・糟谷) → 昇(しょう・糟谷かすや、医者/国学) U 2 2 7 5
 老迂斎(ろううさい) → 青城(せいじょう・山本、家老/儒者) C 2 4 2 6
 老雲(ろううん) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 浪雲庵主(ろうんあんしゅ) → 逸然(いつねん;道号・性融しょうゆう;法諱、画僧) J 1 1 2 4
 5220 閨苑(ろうえん・林はやし、名;新)?- ?(40歳未満没) 江後期大阪の絵師;福原五岳門、
 明人画風を慕い和泉堺の豪家所蔵の明画を臨模し風趣を会得したという、
 「京都諸寺宝物画記」「京師諸寺什物画記」著、
 [閨苑(;号)の通称] 秀蔵/秋蔵しゅうぞう
 老園(ろうえん) → 篤老(とくろう/あつおい・飯田、医/俳人)
 老猿(ろうえん・渡辺) → 眞菅(ますが・渡辺わたなべ、神職/歌人) T 4 0 8 1
 滝園(ろうえん) → 貞起(さだおき・萩原はぎはら、商家/歌人) F 2 0 2 4
 滝園(ろうえん・黒田) → 清綱(きよつな・黒田くろだ/源、藩士/歌人) U 1 6 2 7
 老蛭子(ろうえんし) → 兼利(かねとし・諏訪すわ、藩家老/歌人) O 1 5 7 1
 老鶯巢(ろうおうそう) → 蓼太(りょうた・大島/吉川、俳人) 4 9 2 0
 老鶯巢(ろうおうそう) → 宜麦(ぎばく・川路、俳人) 1 6 2 5
 老鶯巢(2世ろうおうそう) → 青蛾(せいが・田村たむら、俳人) H 2 4 6 7
 老鶯巢(5世ろうおうそう) → 雀志(じゃくし・斎藤さいとう、俳人) G 2 1 1 7
 楼鶯居(ろうおうきよ) → 烏川(うせん、俳人) C 1 2 9 8
 C5274 浪音(ろうおん) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [大堰川岩越す水のくれなゐは嵐の山のもみぢなりけり](大江戸倭歌;秋995/紅葉移水)
 5202 浪化(ろうか、名;正丸、真宗大谷派本願寺14世琢如男) 1671-1703³³ 母;広橋兼賢女、京の生、
 1677(7歳)得度/越中井波の瑞泉寺11世、俳諧;1691「卯辰集」初出、1694芭蕉門、支考と親友、
 去来と親交、1695「有磯海・となみ山」(浪花集)95-97「風月藻」98「続有磯海」「風雅戊寅集」、
 1699「風雅己卯集」1701「そこの花」編/02「玉まつり」、「壬申日記」「随門記」「秘問集」外多数、
 北陸蕉門の代表と目されたが若くして金沢で病没;33歳、
 追善;「霜のひかり」「白扇集」(支考編)、のちに「浪化上人発句集」が編まれる、
 [永き日や太鼓のうらの虻の音]、
 (浪化上人発句集/1697[元禄10]3月16日庄村光教寺前の遅桜見んと出づ/日永と静寂)、
 [浪化(;号)の法諱/別号]法諱;常照/晴研/晴寛、
 別号;自遣堂/応々山人/休々山人/司晨楼主人、法号;応眞院常照、16世一如の弟、
 息子桃化も俳人 → 桃化(とうか、真宗僧/俳人) B 3 1 6 8
 5221 弄花(ろうか) ? - ? 江中期俳人;柳居門、1737(元文2)「捲簾まさすだれ」編、
 駿河の沢雉・林泉・上総の君山と交流、
 [弄花(;号)の別号] 悟陰/青山陰/掃月閑人
 弄花(ろうか・野村) → 信我(しんが・野村のむら/本姓;源、俳人) N 2 2 5 7
 浪化(3世ろうか・杉谷堂) → 井波(せいは・杉谷堂、俳人) C 2 4 7 4
 5222 弄我(瞬我ろうが) ? - ? 大阪の俳人;不二社中、
 1773几董「あけ鳥」1句/76「続明鳥」3句入、
 [旅人の互いに名乗る夜寒かな](あけ鳥;228/暖を囲み歓談)
 老我(ろうが・森田) → 元夢(げんむ・森田、俳人) D 1 8 1 1
 臘晦(ろうかい・中田) → 正朔(まさもと・中田なかた/沢潟、神職) R 4 0 1 3
 老鶴(ろうかく・村田) → 橋彦(はしひこ・村田、国学者) E 3 6 3 7
 老鶴翁(ろうかくおう) → 三休子(さんきゅうし・梅花軒、上坂/中沢、藩士/随筆) M 2 0 0 2

- 弄花軒(ろうかけん) → 肖柏(しょうはく・牡丹花、連歌) 2 2 0 2
 弄花軒(ろうかけん) → 以立(いりゅう・清池/肖柏亭、医/漢学) B 1 1 9 4
 弄花軒(ろうかけん) → 政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人) B 4 0 1 0
 弄花軒(ろうかけん) → 祖能(そのう・和田わた、国学者/歌人) E 2 5 1 3
 浪花軒(ろうかけん) → 常因(つねより・紀、怪談蒐集/読本作者) E 2 9 2 8
 弄瓦軒(ろうかけん) → 元彊(もとたけ・上田うえた、医者/歌人) C 4 4 8 9
 浪華亭(ろうかてい) → 常因(つねより・紀、怪談蒐集/読本作者) E 2 9 2 8
 老臥仏(ろうがぶつ;号) → 月坡(げつぱ;道号・道印、曹洞僧/詩) H 1 8 3 2
 弄花坊(ろうかぼう) → 志条(しじょう・狭川さがわ、俳人) T 2 1 8 1
 老臥遊(ろうがゆう;号) → 明極(めいきよく;道号・即証、曹洞僧) 4 3 1 3
 弄花老人(ろうかりうじん) → 肖柏(しょうはく・牡丹花、連歌) 2 2 0 2
 瑯環閣(ろうかんかく) → 儀(ただし・小山こやま、国学/儒者/詩人) F 2 6 1 1
- 5223 弄翰子(ろうかんし・姓名不詳)?- ? 「平安人物志」の書肆が慣習で使用した名か?;
 1768(明和5)-1867(慶応3)「平安人物志」初-九版(;近世後期京の文芸家名寄なせ)
- 5224 老驥(ろうき・渋谷しぶや、名;敬信、別号;荊山)?-? 江中期陸奥の儒者、
 1773(安永2)「荊山集」著(;大坂の佐々木泉明校正)、「草案集」「詩学或問」「出处進退論」著、
 「道体筆語集」著
 老鬼(ろうき・神吉) → 弘範(ひろのり・神吉かんき、本陣主人/国学) G 3 7 8 9
 滝吉(ろうきち・山崎/亀岩) → 雲山(うんざん・山崎やまさき、絵師/書) D 1 2 7 3
 老橘井(ろうきつせい) → 東瓦(とうが・山本、醸造家/俳人) B 3 1 7 5
 老牛居(ろうぎゅうきよ) → 澹泊(たんぱく・安積あさか、儒者/史家) 2 6 9 5
 朧橋子(ろうきょうし) → 田鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6
 弄玉(ろうぎよく・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
 朗薫園(ろうくんえん) → 暁邨(ぎょうそん・星ほし、絵師/歌人) V 1 6 0 8
 老駒(ろうく・土屋) → 牧亭駒人(ぼくていこまんど、狂歌/歌人) D 3 9 7 4
- 5225 老愚(ろうぐ・麻谷) ? - ? 1829(文政12)江戸大火について滝川利教の聞書:「己丑記」著
 老愚(ろうぐ) → 公助(こうじよ;法諱、天台僧/連歌) J 1 9 6 8
 朗薫園(ろうくんえん) → 暁邨(ぎょうそん・星ほし、絵師/歌人) V 1 6 0 8
 狼溪(ろうけい・伊藤) → 亀谷(きこく・伊藤/平たいら、幕臣/書家) K 1 6 3 6
 老桂窩(初世ろうけいか) → 羅人(らじん・山口、書肆/俳人) B 4 8 4 1
 老桂窩(2世ろうけいか) → 波光(はこう・山口、羅人門俳人) E 3 6 2 4
- 5226 潦月(ろうげつ) ? - ? 俳人;1689「あら野」1句入、
 [引立てて馬に飲まする清水かな](あら野;巻四/自分の嬉しさを馬にも味わわせたい)
 弄月(ろうげつ・三輪) → 執斎(しっさい・三輪みわ/沢村/大村/真野、儒者/歌) E 2 1 8 8
 臘月庵(ろうげつあん) → 宗室(そうじつ・千せん、茶人;裏千家) B 2 5 7 3
 弄月園(ろうげつえん) → 唼風(ざんぷう・庄司しょうじ、俳人) R 1 6 1 4
 弄月井(ろうげつせい) → 西塙(せいお・福井ふくい、俳人) H 2 4 4 7
 弄月斎(ろうげつせい) → 則綱(のりつな・渡辺わたなべ、藩主/越中守/歌) G 3 5 7 2
 臘月亭(ろうげつてい) → 有人(あるんど・山々亭、人情/落語) C 1 0 0 6
 廊軒(ろうげん・松浦) → 熙(ひろむ・松浦まつら、藩主/農地改革) H 3 7 4 5
 勞謙(ろうけん・間部) → 詮実(あきざね・間部まなべ、藩主/随筆) G 1 0 5 8
 聾玄(ろうげん;法諱) → 要中(ようちゅう;道号・通玄;法諱、黄檗僧) B 4 7 4 6
- 5227 弄幻子(ろうげんし、通称;湖東学摩訶衍沙門)?-? 1709存 近江の学僧、1710/11刊「仏神感應録」著
 朗源天真禅師(ろうげんてんしんぜんじ) → 宗園(そうえん;法諱・春屋;道号、臨濟僧) G 2 5 3 1
 狼玄楼(ろうげんろう) → 玄楼(げんろう;道号・奥竜、曹洞僧) N 1 8 1 5
- C5258 老狐(ろうこ・姓;生、芒蔭庵、李岱男)?-? 江戸小石川俳人;江戸座李岱側点者、
 1848沾山せんざん7世「俳諧觸はいかいけい」点句入
 浪江(ろうこう/なみえ・上野) → 麿谷(きゅうこく・上野うえの、儒者) M 1 6 5 8
 浪江(ろうこう/なみえ・秋山) → 惟恭(これいや・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2
 浪江(ろうこう・花形) → 参行(さんぎょう・伊藤いとう、富士講行者) M 2 0 0 5

- 陋巷处士(ろうこうしょ) → 思齋(しさい・西塚にしづか、儒者) T 2 1 5 0
 老香堂(ろうこうどう) → 侃齋(かんさい・石川いしかわ、絵師) D 1 5 6 7
 螻蛄館主人(ろうこかんしゅじん/けらのや-) → 重賢(しげかた・小野/伴、廷臣/歌) C 2 1 0 7
 5228 老谷(ろうこく・木原きはら/本姓;柴沼)1824-8360 常陸土浦の儒者;藤森弘庵門/江戸昌平黌に修学、
 和漢学/詩文に長ず、土浦藩儒に登用、維新後;埼玉県の中学・師範学校校長、
 「扈從録」著、「老谷遺稿」、
 [老谷(;号)の名/字/通称]名;元礼、字;節夫、通称;雄吉
 老吾軒(ろうごけん・佐藤) → 一齋(いっさい・佐藤、儒者) 1 1 2 2
 潦湖齋(螻蛄才ろうこさい) → 青千(せいせん・景山かげやま/田中、俳人) J 2 4 0 5
 臘居士(ろうこじ) → 玄武坊(げんぶぼう・神谷かみや/水野、俳人) C 1 8 9 9
 陋齋(ろうさい・井口) → 機山(きざん・井口いぐち、儒者) K 1 6 6 2
 漏齋(ろうさい・阿部) → 玄達(げんたつ・阿部/井上、医者) L 1 8 0 0
 豊齋(ろうさい・桂川) → 月居(げつきよ・江森、俳人) 1 8 0 7
 隴西逸民(ろうさいいつみん) → 梅溪(ばいけい・李り、漢学者) B 3 6 0 0
 老蚕(ろうさん、老蚕窓) → 冬映(とうえい・牧、俳人) B 3 1 2 9
 5232 老山(ろうざん;道号・要玄ようげん;法諱)?-1719 名古屋曹洞宗万松寺住持/愚光自謙の法嗣、
 「万松老山和尚遺稿」(1724刊)
 5229 老山(ろうざん;号、別号;雪松)?- ? 江前期新潟の俳人、
 1700(元禄13)撰集「名所百物語」編
 5230 老山(ろうざん・友椎庵ゆうすいあん)?- ? 大阪俳人;1776几董「続明烏」1句入、
 [三線しやみせんに散るも桜の夕べかな](続明烏;甲160、
 能因の[入相の鐘に花ぞ散りける;新古今116]を踏まえ鐘を三味線に替える)
 5231 老山(ろうざん・柴山しばやま、本姓;菅原/修姓;菅)?-? 美濃大野郡揖斐の儒者;山本北山門、
 詩に長ず;1814「浩然齋詩話」編、妻は卜部家の菊(字;女華・長生/号;金英、詩画を嗜む)、
 [老山(;号)の名/字/通称/別号]名;琴、字;氷清/太古、通称;司、別号;海棠園主
 琴(きん・柴山) → 老山(ろうざん・柴山/菅原/菅、儒/詩) 5 2 3 1
 老山(ろうざん) → 燕村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 隴山(ろうざん・長沼) → 安定(やすさだ・長沼ながぬま、和算家) B 4 5 5 0
 老杉園主人(ろうさんえんしゅじん) → 楡邨(すぎむら・小杉こすぎ、国学/歌人) B 2 3 6 6
 老山子(ろうざんし) → 一醉(いっすい・老山子、俳人) E 1 1 4 7
 弄山亭(ろうざんてい) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0
 朗子(ろうし・朝岡) → 正章(まさあき・朝岡あさおか、儒者/歌/俳) B 4 0 0 5
 弄時庵(ろうじあん) → 斗雪(とせつ・入江、俳人) O 3 1 3 4
 老資園(ろうしえん・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1
 弄之軒(ろうしけん) → 雷枝(らいし・為田ためだ、俳人) 4 8 4 9
 C5275 浪秀(ろうしゅう・平野ひらの) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [一かたにおもひさだめて吹く風のうしや此ごろおとづれもせぬ](大江戸倭歌;恋1523)
 浪秀(ろうしゅう→なみほ・広岡) → 正恭(まさたか・広岡ひろおか/藤原、神職/尊皇) S 4 0 1 7
 浪緒(ろうしよ・藤田) → 浪緒(なみお・藤田ふじた、藩士/歌人) G 3 2 8 9
 老鋤(ろうじよ・菊池) → 沖満(おきみつ・菊池きくち、神職/国学) D 1 4 9 2
 滝上(ろうじよ;号) → 目云(もくうん;法諱、真宗本願寺派学僧) 4 4 6 8
 弄松[樟]閣(ろうしゅうかく) → 只丸(しがん・鴨水子、真宗僧/俳人) B 2 1 4 1
 老松館(ろうしゅうかん) → 長順(ながより・今村、医者/俳人) G 3 2 5 8
 老少年(ろうしゅうねん) → 不転(ふてん・普天ふてん、俳人) D 3 8 4 9
 滝津(ろうしん・黒川) → 滝津(たきつ・黒川くろかわ、歌人) N 2 6 8 8
 老森庵(ろうしんあん) → 傘狂(さんきやう・大野おの、俳人) E 2 0 2 1
 老人亭(ろうじんてい) → 宝水(ほうすい・鈴木、薬種商/俳人) B 3 9 9 3
 浪穂(ろうすい・宮崎) → 浪穂(なみほ・宮崎みやざき/安元、神職) K 3 2 9 0
 浪穂翁(ろうすいおう) → 尹賢(いんけん・宮野みやの、儒者) I 1 1 5 0

- 老贅子(ろうぜい) → 尚白(しょうはく・江左、医/俳人) 2 2 0 3
 弄世堂(ろうせいどう) → 六市(ろくいち・弄世堂、談義本) 5 2 7 5
 狼藉天柱(ろうぜきてんちゅう) → 青岐(せいき・上野うえの、商家/俳人) 2 4 9 5
- 5233 **楼川**(初世ろうせん・谷口たにぐち) 1699-1782 84 江戸神田の俳人:白峰門/のち祇空門、神田内を転住、1736頃珪琳の援助で立机/江戸座宗匠、1745紀逸らと湖十「江戸廿歌仙」参加;独吟歌仙入、以後江戸其角座存義側点者となる、1739「歳旦帳」編、1751「辛未歳旦」編、1754竹翁「誹諧童の的」点句入、58「八百里紀行」著、72几董「其雪影」入、1776「夜の幾久見」79「由くれない」編、追善集「松の葉」(;息鶏口編)、[揚屋出て大門を出て秋の暮](其雪影;巻尾46)、[楼川(;号)の通称/別号]通称;伏見屋四郎右衛門、別号;壺竜(;初号)/無事庵/木樨庵(もくせいあん)/神田居、法号;楼川居士
 妻; → 田女(でんじょ・眉斎、俳人) D 3 0 8 1
 息(養子); → 鶏口(けいこう・獅子眠、俳人) 1 8 5 3
- C5260 **老仙**(ろうせん・姓;生食、壺中庵)?-? 江中期対馬の生/京住の俳人;淡々門、1729隆志「誹諧草結」1句入(;219)、[渾沌(こんとん)のひらけてたゆし冬至梅(とうじばい)](草結/天地開闢[春]直前の気力乏しい花)
- 5234 **老泉**(ろうせん・江村むら) 1735- 1814 80 歳 土佐高知藩士;勘定頭役、軍法を修学、書;江戸の関鳳岡門、帰国後;藩士に教授、「老泉雑記」著、[老泉(;号)の名/字/通称]名;重胤、字;震/致福、通称;兵太夫/弥三
- 5235 **老泉**(ろうせん・松沢まつざわ、初世庄次郎男) 1769-1822 54 江戸書肆、父は神田佐久間町で書物店経営、父没後;浅草新寺町に店を再興、考証学的著作、吉田篁墩・亀田鵬斎・屋代弘賢の愛顧を受、1792「密宗著人目録」編/化政期に念斎「先哲叢談」出版、1818(文政元)日記「堂前隱宅記」著、典籍研究;1819「彙刻書目外集」/21-22「旧刊書目」、「誹諧早引大全」「経籍答問」著、外多数、[老泉(;号)の名/字/通称/別号]名;麦、字;土屑、通称;和泉屋庄次郎2世(2代目)、別号;成楊/一貫二麦居士、屋号;慶元堂
- 5236 **浪仙**(ろうせん・沈ちん/しん、名;筠いん) 1802-62 61 歳 江後期;中国清の乍浦の詩人、1857長ちよう梅外「梅外詩鈔」入(詩の評語及び巻末に跋代りの題詩入)、河野鉄兜(てつとう)と交流
- 楼川(2世ろうせん) → 一馬(いちば・貞松斎、米沢、華道家/俳) G 1 1 3 7
 弄泉堂(ろうせんどう) → 松濤(しょうとう・江川えがわ、儒者/歌人) L 2 2 1 3
 老素(ろうそ・小野田) → 素寧(もとやす・小野田おのだ/雲井、医/詩歌/画) J 4 4 4 9
 老鼠(ろうそ) → 湖十(初世こじゅう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1
 老鼠(ろうそ) → 湖十(3世こじゅう・深川、2世養子/俳人) C 1 9 8 4
 老鼠(ろうそ・鏡池庵) → 湖十(5世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 6
 弄叟(ろうそう・田中) → 芳洲(ほうしゅう・田中/中島、医者/和算) B 3 9 4 1
 朗窓(ろうそう・深川) → 宝井(ほうせい・深川、俳人) D 3 9 4 2
 老鼠肝(ろうそかん) → 湖十(初世こじゅう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1
 老鼠肝(ろうそかん) → 螺窓(らそう・穂積ほづみ/深川、俳人) B 4 8 4 4
 老足(ろうそく・国枝) → 松宇(しょうう・国枝くにえだ、蠟燭商/儒者) G 2 2 9 5
 老鼠軒(ろうそけん) → 寸知(すんち・山庄さんしょう、絵師) C 2 3 6 3
 老鼠堂(ろうそどう) → 永機(えいき・穂積、7世其角堂) 1 3 2 0
 老大虫(ろうだいちゅう) → 水簾(すいれん;号、俳人) F 2 3 1 8
- 5237 **朗湛**(朗堪ろうたん;法諱・号;水月)?-1781 融通念仏僧/出家後;撰津大念仏寺通照門、のち撰津観音寺住;融通念仏を弘通、1705「観無量寿経疏妙棟鈔管見」78「両祖師絵史伝」著、「融通円門章講案」「再興尊者編年略」著
- 5238 **老樗**(ろうちゅう・青木あおき、名;順道) 1827-89 63 代々岐阜の医者/儒者;豊後日田の広瀬淡窓門、塾長となる/帰郷後家業(医者)の傍ら私塾開設、詩賦を嗜む、「夜雨寮筆記」著、三宅樅台・木蘇大夢・江馬細香・小原鉄心と交流、[老樗(;号)の字/法号]字;益、法号;静寿院
- 5239 **朗澄**(ろうちよう;法諱・字;文泉房) 1131-1208 78 近江の真言宗石山寺北坊の住僧、阿闍梨観祐門、宰相阿闍梨淳観・内山真乘房亮恵・勸修寺実任・醍醐寺座主勝賢に師事、

1178(治承2)石山寺阿闍梨となる、「石文抄」「文泉抄」「石山相承」「諸尊法私記」著、
「諸尊口伝集」「十八道等口訣」著、1186「範賢灌頂記」編、
[朗澄の通称] 本願上綱

- 老鳥(ろうちよう) → 蓼太(りょうた・大島/吉川、俳人) 4 9 2 0
楼釣叟(ろうちようそう) → 武英(たけひで・早川、藩士/樺太開拓) O 2 6 6 8
老樗軒(ろうちよげん) → 樗軒(ちよげん・中尾なかお、商家/鑑定) K 2 8 3 6
5241 鷺鳥亭(ろうてい) ? - ? 洒落本作者;1779(安永8)「呼子鳥よぶこどり」著
隴亭(ろうてい・北原) → 台眠(たいみん・北原、俳人) L 2 6 0 7
潦亭(ろうてい・池田) → 木蔭(こかげ・池田いけだ、狂歌) Q 1 9 3 2
老庭(ろうてい・江口) → 孤月(こげつ・江口、太白堂6世/俳人) C 1 9 4 4
5242 老田(ろうでん・塩谷しおのや) 1825-1890 66 周防の儒者;岩国藩儒の玉乃九華・二宮錦水門、
1845豊後日田広瀬淡窓の咸宜かき園に修学、53岩国藩養老館助教/63教授、
1871福岡大参事;73退官、「老田遺稿」、
[老田(;号)の名/字/通称]名;処、字;古侯、通称;鼎助
老饜生(ろうとうせい) → 鳳湫(ほうしゅう・久野/;藤原/膝、儒者) B 3 9 3 8
老南(ろうなん;号) → 神興(じんこう;法諱、徳母院/大谷派僧) O 2 2 3 4
5243 朗然(ろうねん;字・乗円;法諱、号;玄々、俗姓;岡本) 1628-73 46 大坂の僧;初め松花堂昭乗門;密教、
真言僧;智積院で隆長・宥貞・運敵門/奥義を受、宥雄門;諸儀軌を伝受、書画;昭乗門、
洛西鳴滝の蓮華寺中興の祖、のち六波羅蜜寺12世、「資道什物記」著
朗然(ろうねん;号) → 大瀛(だいえい;法諱、真宗僧) J 2 6 1 8
滝之助(ろうのすけ・川端) → 玉章(ぎよくしょう・川端かわはた、画家) B 1 6 5 4
5244 老梅(ろうばい・上倉かみくら、宗重男) 1701-68 68歳 幕臣;1717家督継嗣/御留守居番の与力/御勘定、
1746代官職/56飛騨高山代官/1761(宝暦11)辞職;小普請、風流人;俳人/歌人、
1760「俳夜燈」編、「十奇蹤詩歌」著、1764飛騨の名所十景に歌を添え津野滄洲に作詩させる、
[老梅(;号)の名/通称/別号]名;信門のぶかど、通称;重五郎/彦左衛門、別号;富山亭
老梅居(ろうばいきよ) → 綾雄(あやお・鈴木すずき、藩士/俳人) H 1 0 7 6
狼狽窟(初世ろうばいくつ) → 土卵(とらん・富とみ、廷臣/洒落本/俳) R 3 1 8 1
狼狽窟(2世ろうばいくつ) → 土籃(とらん・富とみ、土卵男、廷臣/俳) R 3 1 8 2
狼狽山人(ろうばいさんじん) → 土卵(とらん・富、洒落本/雑俳) R 3 1 8 1
老梅舎(ろうばいしゃ・吟叟) → 眞琴(まこと・宮永みやなが、神職/和漢学) T 4 0 0 2
老梅書屋(ろうばいしよおく) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/討幕) N 2 6 7 9
老馬人(ろうばじん) → 元甫(もととし・藤堂とうどう、藩士/地誌家) D 4 4 2 9
老俳仙(ろうばいせん) → 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人) Q 2 6 3 3
老柏(ろうはく・田所) → 顕周(あきかね・田所たどころ/海野、庄屋/歌) G 1 0 8 5
老柏舎(ろうはくしゃ/老柏主人) → 八悟(はちご・田所たどころ/田、俳人) E 3 6 8 4
老婆居士(ろうばこじ) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7
臘八(ろうはち・奥野) → 安興(やすおき・奥野おくの、鍛冶職/国学/歌) F 4 5 5 9
浪尾(ろうび・波多野) → 浪尾(なみお・波多野はたの/黒山、歌人) O 3 2 3 0
弄風庵(ろうふうあん) → 文東(ぶんとう・楓谷庵、俳人) G 3 8 2 9
老平(ろうへい・土屋) → 老平(としひら・土屋つちや/武居、歌/史家) V 3 1 7 7
豊米(ろうべい) → 木米(もくべい・青木あおき、陶工) B 4 4 1 0
老米虫(ろうべいちゅう;号) → 天桂(てんけい;道号・伝尊;法諱、曹洞僧) D 3 0 3 9
C5257 良弁(ろうべん/りょうべん、金鐘[金鷲]こんしゅ行者/金鷲菩薩) 689-773 85 華嚴僧第2祖;740新羅僧審祥門、
初め法相僧;義淵門、734綱索堂(金鐘寺)建立、東大寺創建と大仏落成に尽力;初代別当、
773僧正、2歳時に鷲に攫われ二月堂の杉に置かれ義淵に育てられたという良弁杉伝説あり
朗弁(老弁ろうべん;字) → 日省(にっしょう;法諱・智寂院、日蓮僧) E 3 3 2 4
浪甫(ろうほ・田辺) → 百堂(2世ひゃくどう・田辺、商家/俳人) E 3 7 7 0
老甫(老圃ろうほ・皆川) → 広照(ひろてる・皆川みながわ、武将/藩主) G 3 7 4 7
老圃(ろうほ・安積) → 澹泊(たんぱく・安積あさか、儒者/史家) 2 6 9 5
老圃(ろうほ・松前) → 広長(ひろなが・松前、藩家老/修史事業) G 3 7 5 9

- 老圃堂(ろうぼどう) → 木庵(もくあん・那波なば、儒者) 4 4 0 3
 老邁(ろうまい・大塚) → 嘉樹(よしき・大塚おつか蒼梧、故実家) D 4 7 0 3
 螻丸(ろうまる;狂歌号) → 也右(やゆう・横井、俳人) 4 5 1 7
 5245 暮眠堂(ろうみんどう) ? - ? 江前期伊勢俳人;1685一有「あけ鴉」3吟入
 [暮秋の松自然と涙こぼれけり](あけ鴉;三吟[暮眠堂・一有・雷枝]の発句)
 老茂(ろうも) → 茂睡(茂妥もすい・戸田/渡辺、歌人) 4 4 0 5
 朗誉(ろうよ;法諱) → 蔵叟(ぞうぞう;道号・朗誉ろうよ、臨濟僧) I 2 5 3 4
 漏落子(ろうらくし) → 眞道(まみち・津田つだ、洋学者/法学) K 4 0 1 2
 老螺蛤(ろうらごう;号) → 天桂(てんけい;道号・伝尊;法諱、曹洞僧) D 3 0 3 9
 C5268 老卵(ろうらん;法諱、道号;父幼ふよう/南桂[溪]なんけい、丸谷九兵衛男) 1724-1805⁸² 出羽鶴岡の曹洞僧、
 1733(10歳)出家;総穩寺石門門/天桂伝尊門;嗣法、1779周防玖河善住寺開山、
 1787周防洞泉寺住寺/1803鶴岡破鏡庵に退隱、1775「千里一鞭」編/91「正法眼蔵那一宝」、
 「野干鳴」「天桂和尚詠歌」「衣内珠」「獅子吼」「報恩編辨耕」「永平元禪師語録辨解」
 老蘭(ろうらん) → 老蘭(おいらん、絵師) C 1 4 2 8
 老狸窟(ろうりくつ) → 鷺白(ろはく・黒岩くろいわ、宿経堂/俳人) C 5 2 3 4
 老柳(ろうりゅう・原) → 健(たけし・原はら/戸田、医者/国学/歌) Z 2 6 1 0
 老竜庵(ろうりゅうあん) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5
 老竜軒(ろうりゅうけん) → 栗斎(りつさい・内山う/本源、儒者/俳人) B 4 9 8 9
 老竜斎(ろうりゅうさい) → 富秋(とみあき・渡辺、船問屋/国学者) O 3 1 7 9
 老蓮(ろうれん・鈴木) → 芙蓉(ふよう・鈴木/木下、絵師/詩文) E 3 8 4 9
 5246 朗廬(ろうろ・阪谷さかたに、良哉3男) 1822-81^{60歳} 備中川上郡九名村の大庄屋の生、
 儒者:大阪の奥野小山門/次に大塩中斎門;陽明学を修学、江戸で昌谷精溪・古賀侗庵門、
 嘉永1848-54頃帰郷;桜溪村塾を開設/1853郷校興讓館館長;子弟に教授、1868広島藩賓帥、
 廃藩後は陸軍省・文部省・司法省に出仕、1866「備中国旧一橋領阪谷氏意見書」著、
 詩文:「田舎話」「朗廬文集」「朗廬全集」著、「左伝私鈔」「偷間小説」「東遊雑記」「北陸放情」著
 [朗廬(;号)の名/字/通称/別号]名;素しろし、字;子綯、通称;素三郎/希八郎、
 別号:興讓書院、法号;幽遠院
 老々庵(ろうろうあん) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 老々庵(ろうろうあん) → 野楊(やよう・軽森かるもり、藩士/俳人) E 4 5 3 3
 老々軒(ろうろうけん) → 好昌(よしまさ・錦戸にしきど、国学者) O 4 7 4 0
 廬雲(ろうん;字・憲栄) → 憲栄(けんえい;法諱・泰巖、真宗僧) H 1 8 8 4
 5247 路曳(ろえい) ? - ? 京の俳人;几董門/春夜楼最古参の1人、
 1773几董「明鳥」6句/76「続明鳥」5句入、
 [発心の人見送るや木槿垣むくげがき](続明鳥;乙513/無常を悟る人を送る場;槿花一日の栄)
 露園(ろえん/ふきぞの) → 祐訓(すけのり・梅内うめない、藩士/古蹟調査) G 2 3 9 6
 露園(ろえん/ふきぞの) → 常典(つねのり・山田/平井、国学/歌人) D 2 9 2 0
 露園(ろえん/ふきぞの) → 信経(のぶつね・二渡ふたわたり、歌人) J 3 5 9 1
 露円(露園ろえん・富岡) → 有佐(ゆうさ・富岡とみおか、俳人) B 4 6 6 8
 露園(ろえん・村山) → 守雄(もりお・村山/三井、藩士/歌人) F 4 4 2 0
 露園(ろえん・岸本) → 由豆流(ゆずる・岸本/平/朝田、国学者) 4 6 1 3
 蘆園(ろえん・二見) → 清六(せいろく・二見ふたみ/島川、藩士/神職) O 2 4 4 4
 櫛園(ろえん) → 葆光(かほみつ・三田さんだ、幕臣/歌人) O 1 5 9 8
 櫛園(ろえん・田中) → 寅亮(とらすけ・田中たなか、藩士/尊王派) R 3 1 7 6
 芦燕(ろえん;俳名) → 仁左衛門(7世にざえもん・片岡、歌舞伎役者) 3 3 1 7
 露円知月尼(ろえんちげつに;法号) → 智月(ちげつ、山岡/河合、尼/俳人) E 2 8 0 2
 蘆翁(ろおう・山室) → 了慶(りょうけい・山室やまむろ法橋、歌人) M 4 9 5 4
 蘆翁(ろおう・桐淵) → 貞山(ていざん・桐淵きりぶち、医者/俳人) 3 0 9 1
 蘆翁(ろおう・檜崎) → 景海(かげうみ・檜崎ならさき、藩士/国学/歌) K 1 5 7 9
 芦翁(ろおう・難波) → 義材(よしき・難波なんば、医者/詩歌人) D 4 7 0 6
 芦翁舎(ろおうしゃ) → 奇仙(くせん・植野うゑの、俳人) F 1 6 6 3

- 5248 蘆屋(ろおく/あしのや・高安たかやす/修姓;高) ?-?(1800頃没) 大阪の商人/1793頃まで富商:晩年零落、
儒者;菅甘谷門/中井竹山門、書家、1775「甘谷先生遺稿」版下筆、77「会約」81「東話」著、
1784「小説字彙」編(秋水園主人)、85「訳文要訣附録」88「新歌ふくろ」91「琴曲筑波山」著、
1795「非なるべし」96「都会節用百家通雅俗類字両点」97「和漢年契」著、
高安其斎「訳文要訣」も蘆屋著説あり、
[蘆屋(;号)の名/字/通称/別号]名;和ちやう、字;載陽/春民、
通称;庄次郎/荘次郎/荘二郎/秋水園主人、別号;半時庵、屋号;今田屋?
- 5249 蘆屋(ろおく・宗像むなかた、名;洋/字;聖謨せいぼ) ?-? 江後期筑前の書家/江戸の下谷竹門通に住、
「雲霞帖」著
呂音堂(ろおんどう) → 木因(ぼくいん・谷、俳人) 3 9 6 1
- 5250 魯可(ろか) ? - ? 俳人;芭蕉・史邦・沾圃と四吟歌仙;1696里圃「翁草」入
- 5251 露荷(ろか) ? - ? 江戸の俳人;芭蕉門、1688嵐雪「若水」歌仙に参可
- 5252 呂笏(ろか・巢雲窟) ? - ? 出羽の地誌家/俳人;
1710「三山雅集さんざんがしゅう」を發起(修験僧東水編;出羽三山近辺の地誌・故実・歌・俳諧入)
蘆花(ろか・進藤) → 香塙(こう・進藤しんどう、僧/詩人) H 1 9 3 8
蘆花(ろか・大橋) → 卓丈(たくじょう・大橋/石橋、俳人) O 2 6 0 6
- C5261 露牙(ろが) ? - ? 江戸俳人;其角座点者、1754竹翁「誹諧童の的」点句入
- C5273 爐解(ろかい・岡田おかだ) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[時雨にも露にも色はなきものをいかに染めぬる山のもみぢ葉](大江戸倭歌;秋988)
- 5253 芦涯(ろがい・大杏屋、別号;春翠台) ?-? 江中後期寛政1789-1800頃京の俳人:暁台きょうたい門、
師の臨終に侍る/關更一派として双林寺芭蕉堂の奉納句集に収載、1791「花供養」編、
1793(寛政5)師一周忌追善集「落梅花」天巻桃睡と共編(地巻;臥央編)
鷺外(ろがい・川辺) → 御楯(みたて・川辺かわべ/古賀、藩士/絵師) I 4 1 7 2
魯贖(ろがい・渡辺) → 富秋(とみあき・渡辺、船問屋/国学者) O 3 1 7 9
芦華園(ろかえん) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1
蘆花翁(ろかおう) → 知石(ちせき・鈴鹿、神道/俳人) E 2 8 5 2
- 5254 芦角(ろかく) 1657頃? - ? 1713存 京の俳人:芭蕉門、
1691林鴻「京羽二重」入/1692季範「きさらぎ」入、1695芭蕉追悼集「こがらし」壺中と共編、
1693壺中「弓」両吟百韻入/1702轍士「花見車弓」入/03月尋「とてしも」入;口語調の句、
[脇ざしや花のもどりに撫でてみる](花見車;157/京羽二重入/何となく頼りがい)
[春雨や音快き板庇いたびさし](きさらぎ)
- 5255 芦鶴(ろかく、曲肱斎) ? - ? 江中期大和奈良の商家?/俳人、
1710(宝永7)「奈良ふくろ角ふくろ角」編(言水の後援;大和俳人中心の撰集)、
1735(享保20)「絵の具皿」編(;江戸俳壇諸家の句と自作[箱根紀行])
- C5254 芦角(ろかく) ? - ? 江中期;備後尾道の俳人;1727木而「藪の井」入
- 5256 芦角(ろかく) ? - ? 大坂安堂寺町の商家大和屋主人/俳人;
1773几董「明鳥」7句入、
[寒梅や念者ねんじやを見舞ふ枕上]、
(あけ鳥;118/念者は男色兄分/薄着の伊達男;風邪を引いたか)
- B5282 芦角(ろかく・末守すえもり、通称;半左衛門) ?-? 江後期安藝豊田郡南方の俳人:
1825篤老「巖島奉納集三編」入、1827朝暉「桜麻さくらあさ」入、
[うめ散てをさなこころのすたりけり](「巖島奉納集三編」入)
- 5257 芦角(ろかく) ? - ? 江後期三河岡崎の俳人:卓池社中、
1862(文久2)卓池17回忌・秋挙37回忌追善集「はなておけ」塞馬と共編
- C5277 芦角(ろかく・香川かがわ) ? - 1863 江後期;遠江榛原郡須々木の儒者;家塾を開設、
修験者の無量院を継嗣、子弟教育;読書を指導
蘆鶴(ろかく・金子) → 照泰(てるやす・金子、地誌/絵師) D 3 0 0 2
魯嶽(ろかく・古屋) → 太郎兵衛(たろべえ・古屋、商家/読書家) T 2 6 7 5
蘆鶴舎(ろかくしや) → 橋彦(はしひこ・村田、国学者) E 3 6 3 7

- 露霞窓(ろかそう) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、麦阿、俳人) D 4 9 3 3
 露霞窓(2世ろかそう) → 鳥酔(ちようすい・白井、俳人) 2 8 2 4
 5258 芦竿(ろかん) ? - ? 備中倉敷の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 5259 鷺貫(ろかん、別号;綾川観(りょうせんかん)?-? 江中期俳人;柳居門、1735「夏山伏」西奴と共編
 5260 芦官(ろかん) ? - ? 江中期俳人;1772几董「其雪影」入、
 [竹は寝て雪また雪の里続き](其雪影)
 鷺貫(ろかん・森田) → 雪哉(雪斎せつさい・森田もりた、俳人) K 2 4 9 7
 5261 呂丸(露丸ろがん・因司/近藤)?-1693(:40歳未滿客死) 出羽羽黒山麓門前街手向村の染物業、
 主に山伏の法衣を染める、俳人:1689芭蕉門、芭蕉を案内:「三日月日記」を受、
 1689芭蕉「呂丸聞書七日草」、1693(元禄6)京で客死、編著句集はないが多くの句集に入、
 1690其角「花摘」/91路通「勸進牒」入、1694「炭俵」1句/98「続猿蓑」2句/「三山雅集」入、
 [かなしさの胸に折れ込む枯野かな](炭俵:下巻)
 [消安し都の土ぞ春の雪](辞世句)
 [呂丸(;号)の通称/別号]通称;左吉、別号;啗柏堂とうはくどう
 5262 蘆岸(ろがん・伊藤いとう、竹坡2男)1805-6157歳 儒(家学)を修学:蘆汀の跡継嗣;伊藤梅宇家6代目、
 備後福山藩校弘道館の教授、1831(天保2)「昼錦詩草」、「東峯時代古義堂詩集」著、
 「蘆岸遺稿」あり、
 [蘆岸(;号)の名/字/諡号]名;良有、字;格佐、諡号;幽讓先生
 露丸(ろがん) → 露丸(つゆまる、18c俳点者) E 2 9 3 7
 芦丸(ろがん・藤田) → 芦丸(あしまる、藤田、東淵舎、雑俳) E 1 0 4 0
 露寒軒(ろかんげん) → 茂睡(もすい・戸田、歌人) 4 4 0 5
 爐間恒斎(ろかんこうさい) → 参和(さんな・唐来とうらい、戯作者/狂歌) 2 0 5 4
 芦間山人(ろかんさんじん) → 墨僊(ぼくせん・沼尻ぬまじり/中村、天文家) D 3 9 6 2
 蘆丸舎(初世ろがんしゃ) → 貞山(ていざん・桐淵きりぶち、医/俳人) 3 0 9 1
 蘆丸舎(2世ろがんしゃ) → 貞屋(ていおく・熊谷/金原、俳人) 3 0 4 0
 蘆岸舎(ろがんしゃ) → 白扇(はくせん・村井、商家/俳人) D 3 6 5 2
 蘆驥(ろき) → 驥(き・蘆ろ/栗崎、通事) J 1 6 4 7
 路菊(ろきく・寺町) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
 魯佶(呂佶ろきつ・田宮) → 橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/隨筆) I 1 6 6 4
 盧橘庵(ろきつあん) → 橘庵(きつあん・田宮、戯作者/隨筆) I 1 6 6 4
 5263 魯丸(ろきゅう・堀部ほりべ) ? - 1743 美濃加茂郡下蜂屋村の旧家2男、兄と甥は庄屋を務める、
 俳人:内藤丈草門;唯一の門人、蜂屋の茶磨山に孤耕庵を結び隠遁、
 師丈草没後;尾張名古屋の露川門、惟然・支考と交流、
 1704「幻之庵まぼろしのほ」編(師丈草の臨終に会えず悔みと報恩を籠めた追善集)、
 1706(宝永3)前年春江州から九州行脚「春の鹿集上」編(下巻は散佚)、
 1710丈草7回忌追悼集「鳩法華」編、
 1716(享保元)丈草「寝ころび草」共編/跋/刊(;田中方舟所有、詳細は方舟ほうしゅう→B3933)、
 1727俳諧紀行「雪の白河」編(北陸から奥の細道の逆旅紀行;途中丈草23回忌法要)、
 [魯丸(;号)の通称/別号]通称;佐七郎、別号;孤耕庵/茶磨坊/曇花坊
 5264 露鳩(ろきゅう) ? - ? 下野宇都宮の俳人;
 1744蕪村「寛保四甲子かんぼうよんかつし歳旦歳暮吟」入
 露休(ろきゅう;法名) → 五郎兵衛(ごろうべえ・露、日蓮僧/嘶家) 1 9 5 2
 5265 露牛(ろきゅう・赤荻あかおぎ、別号;花麦庵)?-? 江中期江戸の俳人;1716-36頃湖十門/のち露沾門、
 1734「俳格類篇」著
 5266 路牛(ろきゅう・日高ひだか、五明男)?-? 日向城ヶ崎の酒造業/代々俳人;父[1749-1820]門、
 1797(寛政9)蝶夢3回忌追善興行に父と参加、1818父の古稀賀集「松賀左根」兄明之と共編、
 1822父3回忌追善「もとの月夜」編
 5267 露牛(ろきゅう・宮崎みやざき、寸松男)1774-182249 陸奥の豪商;津軽藩御用達、俳人:石黒宗石門、
 香道・狂歌・囲碁・蹴鞠を嗜む、「地ごく耳」著、
 [露牛(;号)の通称/別号]通称;忠兵衛、別号;葛松居/有竹

- 露牛(ろぎゅう) → 路友(ろゆう・平賀屋、書肆/俳人) C 5 2 4 7
 呂牛(ろぎゅう・太田) → 午庵(ごあん・太田おた、藩士/詩文) H 1 9 0 5
 呂求子(ろきゅうし) → 見隆(けんりゅう・藤井ふじい、医者) M 1 8 8 0
 盧魚庵(ろぎょあん) → 太老(たいろう・鈴木すずき、俳人) C 2 6 4 0
- 5268 魯郷(ろきょう) ? - ? 大阪の俳人;鳥酔門、1757鳥酔「夏炉一路」入
 5269 鷺喬(ろきょう・山本やまと、別号;市中庵/陳軒)?-? 江中期安永天明1772-89頃山城伏見の俳人:
 蕪村・太祇と交流、1773几董「続明烏」4句入、1776(安永5)「曙草子」77「丁酉帖」「丁酉載」編、
 1782(天明2)俳辞書「俳題正名はいだいせいめい」編、83維駒「五車反古」1句、江涯「仮日記」1句入、
 [惜しや春旅せで過ぎし我はなほ](続明烏;甲176)
- 5270 鷺橋(ろきょう) ? - ? 江後期近江神崎郡山上の俳人:芭蕉句碑を建立、
 1815(文化12)「あきのそら」編/15「歌仙墳」編
- 5271 魯恭(ろきょう・小山こやま、魯水6男)1776-1833 58 信濃小諸の俳人;父門/のち佐久の池田家副門、
 江戸の倉田葛三門、信濃佐久地方で俳諧の一家を成す、晩年の一茶と交流、
 静庵禅師に参禅/糠塚山に観月堂を建て桜を植え月花を楽しむ、1825(文政8)「糠塚集」編、
 [魯恭(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;彦太郎/太吉、名;信成、通称;藤兵衛、別号;温斎
 鷺橋(ろきょう・西) → 逸史(いっし・西にし・藩士/系譜制作) J 1 1 5 7
- 5272 芦暁(ろぎょう) ? - ? 江後期;羽前山形の俳人;雑俳、
 川柳;1803てつ磨「俳風最上土産」;評入
 路暁(ろぎょう;俳名) → 菊之丞(4世きくのじょう・瀬川、歌伎役者) B 1 6 0 2
 鮎郷釣徒(ろきょうちゅうと) → 正与(まさとも・新保しんぼう/朝妻、国学/神職) Q 4 0 2 9
- 5240 露玉(ろぎよく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」入、
 [恋止やめてこがれ死ねとは強異見こはいけん](若みどり/目を覚まさせる荒療治)
- 5273 魯玉(ろぎよく・桜井さくらい) ? - ? 大和郡山の俳人:
 1753(宝暦3)芭蕉「嗟峨日記」編/71(明和8)「辛卯両節吟」編/73(安永2)「俳諧むかし鑑」編、
 [魯玉(;号)の名/別号]名;顕忠、別号;魯玉楼/隠鱗庵
- 5274 路玉(ろぎよく・別号;耽楽亭/耽流亭)?-? 陸前仙台の俳人、
 芭蕉133忌追善集;1826(文政9)「百みそちとせの手向」編纂、「橋柱集」編
 露玉(ろぎよく・鈴木) → 一嘯(2世いっしょう・所縁亭、華道家) H 1 1 3 6
 魯玉楼(ろぎよくろう) → 魯玉(ろぎよく・桜井さくらい、俳人) 5 2 7 3
 呂琴(ろきん・黒田) → 家満(いえみつ・黒田くろだ、国学者) K 1 1 2 3
 ろく(大澤) → 六女(ろくじょ・大澤、俳人) 5 2 9 2
 禄(ろく・小原/中川) → 漁村(ぎよそん・中川なかがわ、藩士/儒者) P 1 6 7 8
 禄(ろく・小野) → 済(せい・小野おの、国学・歌人/陶芸) O 2 4 0 2
 麓(ろく・林) → 正謙(まさかた・林はやし、藩士/国学) R 4 0 9 2
 麓蛙亭(ろくあてい) → 直武(なおたけ・小田野おだの、絵師) B 3 2 5 2
- C5281 六阿(ろくあ;法諱) ? - ? 江中期;浄土僧、
 美濃赤坂の浄土宗鎮西派天清院の住僧、歌人;宮川松堅門、
 1722松堅[倭譚五十人一首]入・内海頭糺[同追加](2首)入、
 [世にうとく蔦はひかゝり軒ふりて秋のあつまる宿と見ゆらむ](五十人一首;43)、
 [年をへて老その森の生ひしげる木ずゑは夏の若葉なりけり]、
 (倭譚五十人一首追加;新樹/老蘇の森;近江蒲生郡安土の歌枕)
 六庵(ろくあん・中林) → 玄智(げんち:通称・中林、医者/歌) L 1 8 0 7
 六庵(ろくあん) → 嵐外(らんがい・辻つじ/山本、商家/俳人) B 4 8 6 5
 六庵(2世ろくあん) → 此一(いち・加賀美/加々美/於曾、藩士/嵐外門俳人) P 2 1 5 8
 麓庵(ろくあん) → 暮来(ぼらい・岡崎おかざき、俳人) E 3 9 7 9
 麓庵(禁庵ろくあん・山本) → 杉芽(すぎが・山本やまと、開国説/俳人) L 2 0 8 7
 麓庵(ろくあん・山本) → 輪田丸(わだまる・山本、醸造業/狂歌) 5 3 4 2
 麓庵(ろくあん・池田) → 木蔭(こかげ・池田いけだ、狂歌) Q 1 9 3 2
 鹿庵(ろくあん) → 巽我(そんが、俳人) E 2 5 6 7
- 5275 六市(ろくいち・弄世堂ろうせいどう)?-? 談義本作者;1771「遊婦多数奇ゆふだすき」蔵版/著?;雪成序

- 5276 **六因義覚房** (ろくいんぎかくぼう)?- ? 華嚴僧;高山寺僧/歌;明恵(高弁)門、明恵上人集4首入
 [かりごろもこずえもちらぬ山かげにながめわぶる秋の夜の月]
 (明恵上人集;27/師の高尾の住房で曇る空に月をしのぶを詠む)
 六寅居(ろくいんきよ) → 吳逸(ごいつ・津田、俳人) 1 9 5 9
 六隠乞士(ろくいんこっし) → 蓮体(れんたい・惟宝いほう、真言僧/説話集) B 5 1 2 6
 六右衛門(ろくえもん・黒田) → 倫忠(のりただ・黒田/樽井、藩士/故実) E 3 5 9 6
 六右衛門(ろくえもん・三井) → 秋風(しゅうふう・三井みつ、商人/俳人) I 2 1 2 3
 六右衛門(ろくえもん・金子/山田) → 近房(ちかふさ・山田/金子、藩士/郷土史家) B 2 8 7 6
 六右衛門(ろくえもん・西山) → 則休(のりやす・西山、藩士/武道家) G 3 5 0 6
 六右衛門(ろくえもん・山崎) → 義故(よしもと・山崎やまさき、藩士/書家) H 4 7 6 9
 六右衛門(ろくえもん・三村) → 春門(はるかど・三村、名主/画/狂歌) G 3 6 2 0
 六右衛門(ろくえもん・中沢) → 鴻洲(こうしゅう・中沢なかざわ、詩人/心学) J 1 9 5 1
 六右衛門(ろくえもん・原沢) → 李朗(りろう・原沢はらさわ、庄屋/俳人) J 4 9 9 2
 六右衛門(ろくえもん・池田屋/中沢) → 凡化(ほんげ・中沢なかざわ、俳人) F 3 9 2 8
 六右衛門(ろくえもん・金谷) → 静台(せいたい・金谷かなや/源、儒者) J 2 4 1 5
 六右衛門(ろくえもん・石川) → 忠房(ただふさ・石川/伊丹、幕臣/記録) F 2 6 7 7
 六右衛門(ろくえもん・小豆沢) → 良充(よしみつ・小豆沢あずきざわ、歌人) L 4 7 2 7
 六右衛門(ろくえもん・西山) → 隆従(たかより・西山、藩士/歌人) N 2 6 8 2
 六右衛門(ろくえもん・大島) → 為籠(ためちか・大島おおしま、藩士/歌人) W 2 6 1 4
 六右衛門(ろくえもん・山田) → 乙麿(おとまる・山田やまだ、藩士/歌人) E 1 4 2 3
 六右衛門(ろくえもん・小山) → 六郎(ろくろう・小山おやま、勤王家) B 5 2 2 0
 六右衛門(ろくえもん・三浦) → 命助(めいすけ・三浦、商業/一揆指導) 4 3 2 3
 六右衛門(ろくえもん・下里) → 延隆(のぶたか・下里しもと、町役/国学) I 3 5 7 1
 六右衛門(ろくえもん・篤垣屋) → 良樹(よしき・原はら、国学者/歌人) O 4 7 6 5
- 5277 **鹿垣** (ろくえん・臼杵うすき) 1772- 1813 42歳 周防徳山の儒者;徳山藩儒役藍泉門/亀井南冥門、
 さらに細井平洲門、尾張藩に出仕/のち長門長府藩儒;藩校敬業館の教授/督学、
 「鹿垣詩文遺稿」、
 [鹿垣(;号)の名/字/通称]名;辰、字;子商、通称;太仲
 麓園(ろくえん・板倉/坂本) → 種員(たねかず・柳下亭、長編合巻作者) 2 6 4 2
 鹿猿居(ろくえんきよ) → 元貞(もとさだ・野阪のさか、神職/和学) K 4 4 9 1
- 5278 **六翁** (ろくおう) ?- ? 俳人;1690可休「物見車」点入
 六王(ろくおう・伊藤) → 参行(さんぎょう・伊藤いとう、富士講行者) M 2 0 0 5
 六翁(ろくおう・宗) → 重計(しげかず・宗そう、藩士/国学者) Z 2 1 2 3
 碌翁(ろくおう・中村) → 直眩(なおあき・中村なかむら/山梨、医者/歌) O 3 2 1 0
 鹿苑院殿(ろくおんいんど) → 義満(よしみつ・足利/源、3代将軍/北山文化) H 4 7 5 0
 鹿苑舎(ろくおんしゃ) → 淋山(りんざん;号・鹿苑舎、僧/俳人) K 4 9 3 4
 六華(ろくか) → 光尊(こうそん・大谷おおたに、西本願寺法主) Q 1 9 5 2
 六雅(ろくが・神谷) → 為政(ためまさ・神谷かみや、国学者/詩歌) S 2 6 7 8
 六牙庵(ろくがあん・三枝/辻/源) → 守静(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人) F 4 4 3 6
 六外庵(ろくがいあん) → 茶雷(ちらい・板東ぼんどう、藩士/俳人) F 2 8 6 2
 六牙院(ろくがいん) → 日潮(にっしょう;法諱・海音、日蓮僧) F 3 3 2 0
 六花苑(ろくかえん) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7
 六花亭富雪(ろくかていとみゆき) → 六花亭富雪(りっかていとみゆき、絵師) B 4 9 6 4
 六華坊(ろくかぼう) → 子鷹(しやう・松村、俳人) Q 2 2 6 4
- 5279 **鹿衡** (ろくがん・紀き/修姓;石)?- ? 天明寛政1781-1801頃京の篆刻家;永田観鷲門、
 書にも長ず/六如より詩を贈与、1791「利其器斎印譜」著、「本朝古印続録」編、
 [鹿衡(;号)の名/字/通称/別号]名;止、字;子基/仲敬、通称;西村敬蔵、別号;三学
 六漢老人(ろくかんろうじん) → 椽斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7
 六氣庵(ろくきあん・川村) → 碩布(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) 2 4 1 1
 六氣所(ろくきしょ・川村) → 碩布(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) 2 4 1 1

- 六及堂(ろくきゅうどう) → 縁信(よりのぶ・東とう/石野/平、国学者) J 4 7 4 0
- 六橋(ろくきょう/りつきょう?) → 悦岩(悦巖えつがん・東念、臨濟僧/詩) F 1 3 5 2
- 六橋園(ろくきょうえん) → 渡(わたる・六橋園ろくきょうえん、狂歌作者) 5 3 4 5
- 禄行三志(-三思ろくぎょうさんし) → 三志(さんし・小谷おたに、富士講行者) M 2 0 3 0
- 鹿古(ろくこ・浅野) → 鹿古(しかふる・浅野あさの、藩士/俳人) P 2 1 8 4
- 六合(ろくごう) → 六合(りくごう・茶屋喜三郎、俳人) 4 9 7 1
- 六合庵(六合菴ろくごうあん) → 茶山(ちやざん・松岡、俳人) F 2 8 5 4
- 六合庵(ろくごうあん・津田) → 正生(まさなり・津田つだ、商家/地誌家) F 4 0 4 0
- 六郷庵木斎(ろくごうあんぼくさい) → 兎毛(とも・関せき、藩士/狂歌/詩) P 3 1 0 3
- 鹿吼子(ろくこうし) → 蒲丈(ほじょう・豊津とよ、俳人) E 3 9 2 9
- 六郷史氏(ろくごうしし) → 秋陽(しゅうよう・吉村/小田、儒者/詩人) E 2 1 1 2
- 六合亭(ろくごうてい・津田) → 正生(まさなり・津田つだ、商家/地誌家) F 4 0 4 0
- 六合亭龍山(ろくごうていちゅうざん) → 宣陽(のぶはる・高島たかしま/沢、代官/歌) I 3 5 9 4
- 六郷漁翁(ろくごうのぎょおう) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
- 5280 麓谷(ろくこく/ろっこく・谷たに、名;本修、本教男) 1729-1809⁸¹ 江戸下谷の儒者;入江南溟門/詩人、田安家の家臣、文晁・安之・文啓の父、娘婿;仲田祭堂・菅原洞斎、1794「麓谷初集」95「谷麓谷詩」1809「麓谷二集」著・「麓谷遺稿」、[麓谷(;号)の字/通称]字;務卿、通称;十次郎
- 鹿谷(ろくこく・勝田) → 鹿谷(ろっこく・勝田かつた、藩の儒者/詩) C 5 2 1 5
- 六五郎(ろくごろう・速水) → 忠正(ただまさ・速水はやみ/藤原、歌人) U 2 6 2 7
- 5281 禄斎(ろくさい・宮川みやがわ) 1784-1845⁶² 越後柏崎の農業;豪農/蒲原郡紫雲寺村大中島に移住、詩・書・画を嗜む;館柳湾・巻菱湖・原松洲と交流、1815(文化12)「雲湖詩巻」著、[禄斎(;号)の名/字/通称/別号]名;需、字;其義、通称;儀右衛門、別号;雲湖
- 5282 六斎(ろくさい・岩瀬いわせ) ? - ? 江後期文政嘉永1818-54頃上州桐生の惣糸業、多芸;狂歌作者/彫技に長ず、1829(文政12)「玉藻のはな」53(嘉永6)「阿房物語」著、[六斎(;号)の名/通称/別号]名;成美、通称;金七郎、別号;一輔
- 鹿斎(ろくさい) → 猪鹿斎(ちよろくさい、狂詩)
- 鹿柴贅人(ろくさいぼうじん) → 贅人(ぼうじん・鹿柴/魚籃先生、農業/漢文) B 3 9 8 4
- 5283 六左衛門(ろくざえもん・前川まえかわ、号;崇文堂) ?-? 江後期江戸の書物問屋、唐和本・仏書・石刻書販売、文化1804-18頃南鞘町伝兵衛店住/文政1818-30頃日本橋南三丁目新右衛門町に移住、1802(享和2)「文翰用文章」著
- C5272 六左衛門(ろくざえもん・桑山くわやま、別名;元柔) ?-1862 幕臣/左衛門尉、1861(文久元)外国奉行、のち奈良奉行、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[のどかなる春の心か桜花たえてみぬめの浦のあけぼの](大江戸倭歌;春196)
- 六左衛門(ろくざえもん・尾藤) → 頼氏(よりうじ・尾藤びとう/藤原、武将/歌人) I 4 7 4 4
- 六左衛門(ろくざえもん・吉田) → 重勝(しげかつ・吉田よしだ、弓術家) Q 2 1 8 0
- 六左衛門(ろくざえもん・吉田) → 友次(ゆうじ・吉田よしだ、俳人) C 4 6 1 7
- 六左衛門(ろくざえもん・板倉) → 重道(しげみち・板倉いたくら、藩主/詩) S 2 1 7 7
- 六左衛門(ろくざえもん・蜂屋) → 可広(よしひろ・蜂屋はちや/源、藩士) G 4 7 5 7
- 六左衛門(ろくざえもん・羽太) → 正平(まさひら・羽太はぶと、幕臣/和学) R 4 0 5 8
- 六左衛門(ろくざえもん・猪子) → 一興(かずおき・猪子いのこ、幕臣/国学) T 1 5 5 7
- 六左衛門(ろくざえもん・巨瀬) → 至信(ゆきのぶ・巨瀬こせ、旗本/藩士/幕臣/歌) G 4 6 8 2
- 六左衛門(ろくざえもん・水野) → 勝成(かつなり・水野みずの、藩主/殖産) N 1 5 6 6
- 六左衛門(ろくざえもん・金子/山田) → 近房(ちかふさ・山田/金子、藩士/郷土史家) B 2 8 7 6
- 六左衛門(ろくざえもん・奥山) → 華嶽(かがく・奥山/藤、藩士/儒者) H 1 5 2 1
- 六左衛門(ろくざえもん・巨勢) → 利和(としより・巨勢こせ/松平、幕臣/歌) O 3 1 2 2
- 六左衛門(ろくざえもん・巨勢) → 金峰(きんぼう・巨勢こせ、幕臣/歌人) S 1 6 9 8
- 六左衛門(ろくざえもん・堀田) → 沙羅(しやら・堀田ほった、幕臣/俳人) G 2 1 5 6
- 六左衛門(ろくざえもん・山崎) → 義故(よしもと・山崎やまさき、藩士/書家) H 4 7 6 9
- 六左衛門(ろくざえもん・堺屋) → 霞夫(かふ・芦田、醸造業/俳人) D 1 5 1 9

六左衛門(ろくざえもん・柏木/大塚)→丈水(じょうすい・大塚/柏木、俳人) K 2 2 1 6
 六左衛門(ろくざえもん・金子)→得処(とくしょ・金子かねこ、儒者) K 3 1 9 5
 六左衛門(ろくざえもん・茅根ちのね)→蘆庵一馬(ろあんいちば、狂歌作者) 5 2 1 5
 六左衛門(ろくざえもん・内藤)→閑斎(かんさい・内藤ないとう、儒者) H 1 5 6 1
 六左衛門(ろくざえもん・多賀)→文柳(ぶんりゅう・多賀たが、俳人) G 3 8 7 0
 六左衛門(ろくざえもん・中川)→希雲(きうん・中川なかがわ、醸造/歌・俳人) U 1 6 9 0
 六左衛門(ろくざえもん・三好)→想山(しょうざん・三好みよし、藩士/書家) J 2 2 3 0
 六左衛門(ろくざえもん・赤井)→水雄(みずお・赤井あかい、神職/国学者) 4 1 9 2
 六左衛門(ろくざえもん・高島)→直之(なおゆき・高島たかしま/金須、和漢学) N 3 2 7 3
 六左衛門(ろくざえもん・藤田)→容斎(ようさい・藤田ふじた、儒/教育者/詩) B 4 7 0 0
 六朔(ろくさく・菊池) → 長秋(ながあき・菊池さくち、農政/和漢学) L 3 2 8 6
 六三郎(ろくさぶろう・河崎屋)→元史(げんし、別号;常庵、俳人) J 1 8 3 7
 六三郎(ろくさぶろう・松田) → 定晴(さだはる・松田まつだ、官吏/和学) P 2 0 4 1
 六三郎(ろくさぶろう・小川) → 月麿(つきまる・喜多川きたがわ、絵師) 2 9 5 9
 六三郎(ろくさぶろう・山内)→隄雲(ていうん;号・山内まやうち、蘭医) 3 0 3 3
 録三郎(ろくさぶろう・関根)→延年(のぶとし・関根せきね、藩士/詩人) I 3 5 8 3
 録三郎(ろくさぶろう・矢部)→直記(なおり・矢部やべ、藩士/国学/歌) P 3 2 1 4

5284 酈山(ろくざん/ふざん・小田村おだむら/旧姓;山本) 1703-66⁶⁴ 周防酈郡の山本家の生、
 周防三田尻警固方小田村清道の養子、儒者;河野養哲門/長門萩藩校明倫館入学、
 山県周南門、江戸で荻生徂徠門、服部南郭・平野金華と交流、帰郷;萩藩の儒員、
 「酈山集」、都下大先生と称される、藍田の養父、
 [酈山(;号)の名/字/通称/別号]名;公望、字;望之、通称;権三郎/文甫/文助/伊助、
 別号;鹿門

5285 鹿山(ろくざん、別号;馬耳庵/朴阿仏) 1754-1827^{74歳} 下総佐倉の俳人/詩歌人:
 「葉月の夢」著(没後1828/文政11刊)、「詩歌集」「発句集」著

5286 録山(ろくざん・松田まつだ/本姓;源、玄々堂保居男) 1837-1903⁶⁷ 京の銅版画師:父初世玄々堂門、
 嘉永1848-54頃より諸国名所や歴史画を創作、幕末期に紀州・水戸などの藩札制作、
 維新後1870東京で政府の官札・切手・印紙など製作、英国の技術を修得;民間印刷業経営、
 高橋由一・五姓田義松・山本芳翠ら画家も出入、石田有年の師、
 1865(元治2)「大日本国細図」編、「日本名所図絵」「銅板極細図」「銅板細図」著、
 [録山(;号)の幼名/名/通称別号]幼名;民弥/亀之助、名;敦知/敦朝あつとも、
 通称;弥十郎/儀十郎、別号;玄々堂2世/蘭香亭/清泉堂、旧姓;松本

鹿山(ろくざん・立川) → 従(まさる・立川たつかわ/たち、心学/歌人) Q 4 0 8 5

六杉園(ろくさんえん) → 古蔭(ふるかげ・小谷こたに、国学/書家/神職) E 3 8 6 5

5287 録山人信普(ろくざんじんしんぷ、別号;弾沙彌) ?-? 江中期洒落本・噺本・黄表紙作者:
 1790(寛政2)「そこぬけ釜」「異鬮本」「勸善富蔵雀」「染直大名島」、1802「文武久茶釜」著
 → 録山人信舩(ろくざんじんしんぷ)と同一か

5288 録山人信舩(ろくざんじんしんぷ) ? - ? 江中期戯作者:
 1785(天明5)「鬼通意嘘島物語」「星月夜坊主道行」著
 → 録山人信普(ろくざんじんしんぷ)と同一か

5289 六枳(ろくじ;号・眞恵しんえ;法諱、演慈院琢玄男) 1688-1745⁵⁸ 近江海津郡福善寺円智の養子、
 真宗大谷派14世琢如(光瑛)の孫、1709越前福井の真宗大谷派本瑞寺住職/福善寺兼務、
 1734(享保19)福善寺に退隠、俳人:各務支考・盧元坊門、1735「卯花笠」玄駁・抛遠と共編、
 福井俳壇三公(三傑)の1(韋吹・玄駁と)、1741(寛保元)再び本瑞寺住職、
 [六枳(;号)の幼名/別号]幼名;克丸、別号;青了閣/等山人/白双、法号;開演院

六次(ろくじ・月形) → 鷗窠(しゅうか・月形つきがた、藩士/儒者) F 2 2 7 2

六次(ろくい・砂村) → 弘素(ひろもと・山本やまと/久保田/近藤、国学/尊攘) J 3 7 6 1

碌二(ろくじ・栗本) → 義貫(よしつら・栗本くりもと、国学/教育) M 4 7 6 3

六師園(ろくしえん) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1

六字吟社(ろくじぎんしゃ) → 雲阿(うんあ・円竜、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3

- 六止草堂(ろくしそうどう) → 竹田(ちくでん・田能村、儒/絵師/詩人) D 2 8 5 4
 鹿室(ろくしつ) → 残夢(ざんむ・高橋、国学/歌学) 2 0 5 7
 六字堂(ろくじどう) → 宗恵(そうけい・内海うつみ、商家/俳・歌人) B 2 5 1 8
- 5290 **六車**(ろくしゃ・梅津うめづ、益清男) 1755-1829 75歳 伊勢度会の書家/歌・俳諧を嗜む、「大和日記」著、
 [六車(;)号)の名/字/通称/別号]名;益守、字;器甫、通称;宇蔵、別号;無能
 六種庵(ろくしゅあん/りくしゅあん、六種園) → 巨石(きよせき・関本せきもと、学者/俳人) P 1 6 7 3
 六種園(ろくしゅえん) → 如髮(じよはつ・関本、巨石の養子/俳人) M 2 2 7 7
- 5291 **鹿洲**(ろくしゅう・加藤かとう、秋田藩士本木もととき和兵衛孝恭2男) 1765-1830 66 羽後秋田藩士、
 儒者:秋田藩儒滑川北溟門/江戸で山本北山門/京の皆川淇園門;古註学修学、加藤に改姓、
 肥前大村・長崎で私塾を開設、1790大村藩校五教館の学頭に招聘され教授、
 文化1804-18頃建言して罪を得て蟄居;1年で赦免;山奉行・郡奉行を歴任/用人、
 「鹿洲遺稿」あり、
 [鹿洲(;)号)の名/字/通称]名;守徳、字;魯蔵、通称;左司馬
- C5278 **鹿洲**(ろくしゅう・山本やまもと、元持男) 1770-1841 72 常陸牛渡村の医者、1784江戸遊学/儒;諸葛琴台門、
 薬学;太田大洲門、1789(寛政元)父病弱のため帰郷;医業に専念;患者多し/門人多し、
 1800(寛政12)京・広島に遊ぶ;京の和田東郭門;癖囊病(胃拡張・胃癌の類)の治法修学、
 1820(文政3)家督を息子の豊に譲り薬園の小屋五柚庵に住(;)庭の5枝の大柚に因む)、
 のち諸葛琴台により陽春館と命名、患者は倍増;簡易な薬品せ劇症を治癒、
 「橘黄医談」「癖囊編」「四大病医」「蟄居庵一家言」「類症弁疑」「今方試効」「詩文草若干卷」著、
 貧困者に衣食・旅費を与える/盲目の孤児を養育し五十年間世話をするなど逸話あり、
 [鹿洲(;)号)の名/字/通称]名;正、字;子直、通称;貞惇
- 鹿住(ろくじゅう・齋藤) → 盛喜(もりよし・齋藤さいとう、湯屋/歌人) K 4 4 0 6
 六十九種草堂主人(ろくじゅうきゅうしゅそうどうしゅじん) → 安任(やすとう・広沢、藩士/牧畜) C 4 5 2 0
 鹿住里人(ろくじゅうさんじん) → 季茲(すえげ・久保くぼ/源、幕医/国典) B 2 3 1 9
 六十郎(ろくじゅうろう・土肥) → 延平(のぶひら・土肥どひ、藩士/歌/武術) J 3 5 2 6
 六十六庵主(ろくじゅうろくあんしゅ) → 養虫山人(みのむしさんじん、土岐源吾/絵師) H 4 1 4 0
 六樹園(ろくじゅえん) → 雅望(まさもち・石川、国学/狂歌) 4 0 2 1
- 5292 **六女**(ろくじょ/ろくにょ・大澤おおさわ、常夢の女) ?-? 山城嵯峨の歌人/俳人、
 1666貞室「玉海集」58「俳諧拾玉集」入、1684西鶴「俳諧女哥仙」よかせん入;
 [心あら葉はちらすな秋の木々の風](女哥仙;30)
 六如(ろくじょ;字) → 六如(りくにょ;字/慈周:法諱、天台僧/詩) 4 9 8 1
 鹿沼(ろくしゅう・萩原) → 広道(ひろみち・萩原/藤原、藩士/国学/歌) 3 7 2 8
- 5293 **六条**(ろくじょう・八条院はちじょういんの、源師仲女) ?-? 平安末・鎌倉初期;女房歌人、
 八条院暲子(鳥羽天皇皇女)に出仕、歌人;1178廿二番歌合、95藤原良経家女房8人百首参加、
 勅撰7首;千載(1006)新古今(350)新勅撰(17/295/690)玉葉(2351)続後拾遺(539)、雲葉集入、
 [待つほどもいとゞ心ぞなぐさまぬ姨捨山の有明の月](千載;雑1006、
 古今1006読人しらず;「わが心慰めかねつ更科や姨捨山に照る月を見て」を踏まえる)
- 5294 **鹿城**(ろくじょう・華岡はなおか、直道4男) 1779-1827 49 紀伊那賀郡西野山平山の医者;
 祖父尚親より医者、早く父を失い兄華岡清洲により養育される/医;清洲門/のち清洲の嗣、
 古医方;1796京の吉益南涯門、儒;佐野山陰門、1804帰郷;清洲より華岡流外科を修得、
 和泉堺で開業/大坂中の島で開業、外科手術に長ず/合水堂を開設;後進の指導に尽力、
 「鹿城医譚」「鹿城先生治法摘要」「鹿城先生三木附辨」著、良平の父
 [鹿城(;)号)の名/字/通称/別号]名;文献、字;子徴、通称;良平、別号;中洲、
 諡号;靖節先生
- 六条(ろくじょう・前斎院[宮]) → 堀河(ほりかわ・待賢門院/前斎院) E 3 9 8 2
 六条(ろくじょう;号) → 実時(さねとき・藤原、廷臣/歌人) D 2 0 2 7
 六条(ろくじょう;号) → 重家(しげいえ・藤原、廷臣/歌人) 2 1 1 0
 六条(ろくじょう;号) → 経家(つねいえ・藤原、重家男/廷臣/歌人) B 2 9 6 9
 六条(ろくじょう;号) → 光頼(みつより・葉室/藤原、廷臣/歌人) F 4 1 2 5
 鹿城(ろくじょう・西) → 周(あまね・西にし、洋学者) F 1 0 0 8

- 鹿城(ろくじょう・三好) → 俊平(しゅんぺい・三好みよし、文筆家) L 2 1 8 3
 六条院(ろくじょういん・媞子内親王) → 郁芳門院(いくほうもんいん、歌人) 1 1 0 7
 六条院宣旨(ろくじょういんのせんじ、藤原顕良女) → 宣旨(せんじ、六条院) F 2 4 7 3
 六松園(ろくしょうえん) → 羽洲(うしゅう・松浦、商家/俳人) C 1 2 8 1
 六勝園(ろくしょうえん) → 広海(ひろみ・早川/安田、医者/国学/俳) H 3 7 2 1
 六条齋院(ろくじょうさいいん) → 祿子内親王(ばいしなしいんのう、後朱雀皇女) 3 6 0 5
 六条齋院宣旨(ろくじょうさいいんのせんじ、源頼国女) → 宣旨(せんじ、六条齋院) F 2 4 7 4
 六条齋院物語合の甲斐(ろくじょうさいいんものがたりあわせのかい) → 甲斐 ① I 1 5 3 0
 鹿杖山人(ろくじょうさんじん) → 眞顔(まがお・鹿都部、狂歌) 4 0 0 1
 六乗子(ろくじょうし) → 元孚(もとのお・遠藤えんどう、国学/歌・俳) J 4 4 4 2
 六条修理大夫(ろくじょうすりのだいは) → 顕季(あきすえ・藤原、六条祖/歌) 1 0 0 4
- C5282 **六条天皇**(ろくじょうてんのう、名; 順仁のふひと、二条天皇第2皇子) 1164-76 夭逝 13歳 実母; 伊岐致遠女、
 公称の母; 二条天皇中宮藤原育子、2歳で親王宣下・立太子; 其の日のうちに踐祚、
 在位1165-68、即位式に泣出し中断; [儀式より乳]と乳母の藤原邦綱女成子が授乳、
 政務は外祖父近衛基実と邦綱が執る、
 1168祖父後白河上皇の意向で叔父憲仁親王(高倉天皇)に譲位、1176(安元2)病没(赤痢)、
 最年少の即位・最年少の上皇
- 六条入道前太政大臣(ろくじょうにゅうどうさきのだいじょうだいじん: 新勅下) → 頼実(よりざね・大炊御門) I 4 7 6 6
 六条宰相(ろくじょうのさいしやう) → 康能(やすよし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 4 5 4 6
 六条少将(ろくじょうのしょうしやう) → 通有(みちあり・源みなもと、廷臣/歌) B 4 1 1 6
 六条中納言(ろくじょうのちゅうなごん) → 有忠(ありただ・六条、廷臣/歌人) B 1 0 7 6
 六条内大臣(ろくじょうのないだいじん) → 有房(ありふさ・六条/千種、歌人) 1 0 3 8
 六条右大臣(ろくじょうのうだいじん) → 顕房(あきふさ・源、歌人) 1 0 1 2
 六条右大臣北方(ろくじょうのうだいじんのきたのかた) → 顕房室(あきふさのしつ、源隆子) 1 0 8 1
 六条入道太政大臣(ろくじょうのにゅうどうのだいじょうだいじん) → 頼実(よりざね・大炊御門/藤原、歌人) I 4 7 6 6
 六条判官(ろくじょうのほんがん) → 為義(ためよし・源、武将/保元乱敗北) S 2 6 8 8
 六条宮(ろくじょうのみや) → 敦実親王(あつみしんのう、音曲/歌人) B 1 0 3 8
 六条宮(ろくじょうのみや) → 具平親王(ともひらしんのう、詩人) Q 3 1 3 9
 六条宮(ろくじょうのみや) → 雅成親王(まさなりしんのう、配流/歌人) F 4 0 4 6
 鹿書堂(ろくしどう) → 静之(せいし・枝芳軒しほうけん、書肆) B 2 4 8 5
 六次郎(ろくじろう・野田) → 忠肅(ただまさ・野田のだ、国学者/歌人) F 2 6 8 5
 鹿心園(ろくしんえん) → 糠人(ぬかんど・岡田、酒造家/俳人) 3 4 0 5
 鹿心斎(ろくしんさい) → 鶴山(かくざん・亀田、詩人) J 1 5 9 2
- B5201 **六水**(ろくすい) ? - ? 江前中期俳人、摂津の俳人
 1714月尋「伊丹発句合」; 四季発句入、
 [道ばたや女夫喧嘩を柳陰](伊丹発句合; 春)
 [広沢は月より外の鴨ぞ鳴く](伊丹発句合; 冬)
- 鹿水(ろくすい・田所) → 千秋(ちあき・田所/三輪、藩士/国学) 2 8 0 0
 六水観(ろくすいかん) → 徐暁(じよぎやう・村上むらかみ、俳人) M 2 2 2 7
 六水舎(ろくすいしゃ) → 光輝(みつてる・畑中はたなか、歌人) D 4 1 9 6
 録生(ろくせい; 初法諱) → 円澄(えんちやう; 法諱、真宗大谷派僧) F 1 3 2 2
 六清真人(ろくせいしんじん) → 琴山(きんざん・村井/邨井、医者/詩文) J 1 6 0 1
 六成堂(ろくせいどう) → 馬仏(はぶつ・六成堂、藩士/俳人) F 3 6 6 0
- 5295 **渤石**(ろくせき・森もり、名; 惟良) ? - ? 江中期京の篆刻家: 高芙蓉門、文章家、
 1785(天明5)「芙蓉軒私印譜」編、
 [渤石(;号)の字/通称/別号]字; 顕哉、通称; 礼蔵、別号; 東壑とうがく
- 六石(ろくせき・釧) → 雲泉(うんせん・釧くしろ、絵師) D 1 2 8 7
 六石(ろくせき、六石陳人) → 冲堂(ちゅうどう・片山かたやま、儒者/詩文) G 2 8 6 7
 六石(ろくせき・奥村) → 六石(ろくせき・奥村おくむら、藩士/儒者) 4 9 7 7
 六石(ろくせき・星野) → 六石(ろくせき・星野ほしの/土岐、藩医) B 4 9 7 9

- 六洗居士(ろくせんこじ) → 玄泰(げんたい・草鹿くさか、医者/詩人) K 1 8 9 1
 六仙堂(ろくせんどう) → 霜後(そうご、俳人) B 2 5 3 3
- 5296 **六窓**(ろくそう/りくそう;号、別号;橘庵・群牛)1702-7271 江中期江戸の俳人:初め江戸座/のち蓼太門、1751「老の鶯」73「六窓句集」著
 六巢(ろくそう) → 一蝶(初世いっちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8
- C5280 **六蔵**(ろくぞう・谷たに、字;元啓/号;篠山しょうざん)1842-190059 安藝賀茂郡莊野村の神職、国学者、国学;片岡正占まさむら門、維新後;権中講義
 六蔵(ろくぞう・吉良) → 子礼(しらい・吉良きら、儒者) Q 2 2 4 7
 六蔵(ろくぞう・加藤) → 広正(ひろまさ・加藤かとう、詩歌人) H 3 7 1 3
 六蔵(ろくぞう・加藤) → 東岡(とうこう・加藤かとう、書肆/歌人) D 3 1 8 6
 六蔵(ろくぞう・渡辺;変名)→ 喜内(きない・飯泉いひずみ、勤王派志士) L 1 6 6 8
 六蔵(ろくぞう・春田) → 九阜(きゅうこう・春田はるた、藩士/儒者) I 1 6 7 3
 六蔵(ろくぞう・衣笠) → 鳩陵(きゅうりょう・衣笠きぬがさ/蓋、儒者) M 1 6 9 8
 六蔵(ろくぞう・関口) → 東嶺(とうれい・関口せきぐち、藩士/歌人) I 3 1 4 5
 六蔵(ろくぞう・岡田/岩垣)→ 月洲(げっしゅう・岩垣いわがき、儒者) E 1 8 7 8
 六蔵(ろくぞう・土屋) → 為雄(ためかた・土屋、藩士/歌人) G 2 6 6 8
 六蔵(ろくぞう・古筆) → 了珉(りょうしゅう・古筆こひつ;5世、鑑定家) L 4 9 9 5
 六蔵(ろくぞう・都賀つが) → 庭鐘(ていしょう・都賀、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0
 六蔵(ろくぞう・服部) → 蘇門(そもん・服部はつとり、漢学/伝典) E 2 5 4 2
 六蔵(ろくぞう・村岡) → 良毅(りょうき・村岡むらおか、藩士/家老) H 4 9 0 3
 六蔵(ろくぞう・渋川) → 敬直(ひろなお・渋川しぶかわ、幕臣/暦算家) G 3 7 5 8
 六蔵(ろくぞう・児島) → 清文(きよふみ・児島こじま、絵師/国学) U 1 6 3 4
 六蔵(ろくぞう・加藤) → 正柔(まさなり・加藤かとう、船問屋/国学) O 4 0 6 9
 六蔵(ろくぞう・大村/村田)→ 益次郎(ますじろう・大村、藩士/兵学) J 4 0 0 4
 六蔵(ろくぞう・宗) → 重計(しげかず・宗そう、藩士/国学者) Z 2 1 2 3
 六蔵(ろくぞう・平山) → 敬忠(よしただ・平山らやま/黒岡、幕臣/神道) O 4 7 8 0
 鹿蔵(ろくぞう・萩原) → 広道(ひろみち・萩原、藩士/国学者/歌) 3 7 2 8
 録蔵(ろくぞう・串木;変名)→ 隼之助(じゅんのすけ・池上いけがみ、藩士) L 2 1 7 3
 六蔵庵(ろくぞうあん) → 其角(きかく・榎本/宝井、俳人) 1 6 0 5
 六倉園(ろくそうえん) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9
 六草園(ろくそうえん) → 春里(はるさと・山蔭やまかげ、国学者) J 3 6 3 2
 六窓軒(ろくそうけん) → 幸隆(ゆきたか・松井/山田、国学/歌人) E 4 6 6 0
 六蔵亭(ろくぞうてい) → 浅草庵守舎(2世あさくさあん・もりや、狂歌) E 1 0 3 2
 六孫王(ろくそんおう) → 経基(つねもと・源、武将/清和源氏の祖) D 2 9 9 6
- 5297 **鹿太**(ろくた・桐淵きりぶち)1777-183660歳 貞山の玄孫/上州藤岡の医者/俳人、1832(天保3)「さかふくろ」、1832友人桜井浦人ぼんしの追善集「初夢」編、[鹿太(;号)の名/通称/別号]名;貞寿、通称;佐治右衛門、別号;文翁
 六太(ろくた・楠瀬) → 大枝(おおえ・楠瀬くすのせ、藩士/国学/画) C 1 4 7 4
 六太山人(ろくだいさんじん) → 大枝(おおえ・楠瀬くすのせ、藩士/国学/画) C 1 4 7 4
- 5298 **六朶園二葉**(ろくだえんふたば、荒井/吉田)?-1858 江戸霊巖島陶器商住吉屋奉公人、狂歌と和学;石川雅望門、1830頃芝宇田川町に移住;木櫛を商う、のち新吉原の妓楼主人、狂歌;五側判者、吉田に改姓、1838「狂歌双調集」編/40「竹紫波八景」著/49「伊達茂夜雨」、1851「狂歌花鳥むすび」編、「錦葉集」「八犬伝画面狂歌集」編、[六朶園二葉(;号)の名/字/通称/別号]名;雅重、字;子松、通称;槌屋文四郎、別号;梅檀二葉/南山人/寿松軒、法号;善養院
- 5299 **六大夫**(ろくだゆう;通称・中島なかじま、名;忠僚)1773-184068 安藝広島藩士;徒士より代官に至る、「反古籠」著
 六大夫(ろくだゆう・佐々木)→ 柳庵(りゅうあん・佐々木ささき/青山、儒者) C 4 9 6 8
 六大夫(ろくだゆう・今泉) → 千春(ちはる・今泉いまいずみ、歌人) F 2 8 1 8
 六大夫(ろくだゆう・堀池) → 敬久(たかひさ・堀池ほりいけ、藩士/和算家) M 2 6 9 6

六太夫(ろくだゆう・堀池) → 久道(ひさみち・堀池、敬久男/藩士/和算) B 3 7 9 9
 六太夫(ろくだゆう・広中) → 養安(ながやす・広中ひろなか、歌人) O 3 2 5 5
 六太夫(ろくだゆう・矢野) → 幸賢(ゆきやす・矢野やの、藩老/国学) H 4 6 4 0
 六太郎(ろくたろう・上原) → 和世(まさよ・上原うへはら、神職/歌人) N 4 0 9 2
 六太郎(ろくたろう・橋村) → 正因(まさより・橋村はむら/度会/上部、神職) R 4 0 6 3
 六湛(ろくたん) → 月潭(げつたん; 道号・全竜、曹洞僧) H 1 8 2 4
 六竹軒(ろくちくけん/むちくけん) → 竜山(りゅうざん・宮原みやはら、藩儒) E 4 9 1 9

B5200 鹿庭(ろくてい・山田やまだ、町医山田玄又男) 1756-1836⁸¹ 讃岐高松の儒者; 菊地五山・柴野栗山門、
 経学・詩文に長ず、高松藩儒に登用; 藩校講道館で教授、1833致仕、
 「山田鹿庭手記文稿拙稿五服変除図」著、

[鹿庭(;号)の名/字/通称/別号]名; 汝翼、字; 政輔、通称; 政助/正助、別号; 蕉雨
 禄天居(ろくてんきよ) → 東山(とうざん・山地やまじ/千早、儒者) E 3 1 6 3
 禄天居(ろくてんきよ) → 蕉窓(しょうそう・山地/山路、儒者/詩) T 2 2 9 9
 鹿洞(ろくどう・佐和) → 荻斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧) O 2 2 4 4
 六如(ろくにょ: 字) → 六如(りくにょ: 字/慈周: 法諱、天台僧/詩) 4 9 8 1
 六女(ろくにょ・大澤) → 六女(ろくじょ・大澤、俳人) 5 2 9 2
 六任文房(ろくにんぶんぼう) → 思亭(してい・丹羽にわ、儒者/家塾教育) V 2 1 1 8
 六之右衛門(ろくのえもん・石原) → 存古(そんこ・石原いしはら、藩士/俳人) E 2 5 8 1

B5202 六之丞(ろくのじょう・宇都木うつぎ、古沢六右衛門4男) 1809-62^{斬首} 54 宇都木景俊養子、近江彦根藩士、
 藩主井伊直弼に重用され長野儀言と共に公用人となる; 安政の大獄に関与、
 幼主直憲を推し権勢を振う/のち1862禁固斬首される、「月の光」編/「公用方秘録」著
 [六之丞(;通称)の幼名/名/法号]幼名; 留吉、名; 景福、法号; 眞月院

六之丞(ろくのじょう・近藤) → 西涯(せいがい・近藤こんどう、藩儒者) 2 4 8 7
 録之丞(ろくのじょう・鈴木) → 政辰(まさとき・鈴木すずき、和算家) L 4 0 3 3
 六之進(ろくのしん・佐成) → 千尋(ちひろ・佐成さなり/藤原、藩士/歌) M 2 8 6 0
 六之助(ろくのすけ・三輪) → 信善(のぶよし・三輪/鈴木、藩士/歌人) D 3 5 9 7
 六之助(ろくのすけ・佐治) → 成爲(なりため・佐治さじ、藩士/歌人) M 3 2 1 8
 六之助(ろくのすけ・伊藤) → 定敬(さだたか・伊藤いとう、藩士/和算家) I 2 0 3 7
 六之助(ろくのすけ・三井) → 高猷(たかのり・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 9
 六之助(六之介ろくのすけ・渡) → 正元(まさもと・渡わたり/田中、洋学/官僚) T 4 0 8 8
 六之介(ろくのすけ・正木/越智) → 通堯(みちたか・正木、藩士/鷹匠/歌) B 4 1 7 2
 録之助(ろくのすけ・中沢) → 凡化(ほんげ・中沢なかざわ/池田屋、俳人) F 3 9 2 8
 録之助(ろくのすけ・松平) → 親貴(ちかとう・松平まつだいら、藩主/歌人) L 2 8 5 7
 六宮(ろくのみや・宇多天皇皇女) → 誨子内親王(かいしないしんのう、歌人) E 1 5 4 0
 六宮(ろくのみや) → 智仁親王(としひとしんのう・八条宮、歌/連歌) N 3 1 5 5

B5203 六馬(ろくば; 号・屋号; 樽屋、通称; 弥蔵/吉左衛門)?-? 1797^存 摂津矢田郡福原の商家/俳人;
 播州福原の沙月さげの庵の跡を継嗣、1786(天明6)「沙月菴追福集」編

六波羅殿(ろくはらのどの、六波羅入道) → 清盛(きよもり・平たいら、武将/権勢) D 1 6 6 7

C5252 六波羅二臈左衛門入道(ろくはらのじろうざえもんにゅうどう)?-? 京六波羅北の北条長時・時茂の家臣/出家、
 1252東山山麓の庵で「十訓抄」著?(妙覚寺本奥書/序)、
 紀伊豪族湯浅宗業と同一か?(永井義憲説)

六波羅入道前太政大臣(ろくはらのにゅうどうさきのだいじょうだいじん) → 清盛(きよもり・平、武将) D 1 6 6 7
 六轡(ろくひ・高橋) → 世南(せいなん・高橋たかはし、俳人) J 2 4 3 4
 六不庵(ろくふあん; 号) → 吐丈(とじょう; 号/隆苗; 法諱、浄土僧/俳人) O 3 1 1 8
 六部庵(ろくぶあん) → 不言斎(ふげんさい・斎藤、日蓮僧) B 3 8 8 0
 六不知庵(ろくふちあん) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8
 勒文(ろくぶん) → 勤文(きんぶん・勝木、俳人) E 1 6 6 5
 禄平(ろくへい・青山) → 秀堅(ひでかた・青山あおやま、幕臣) C 3 7 9 6
 碌平(ろくへい・石坂) → 常堅(常賢つねかた・石坂/山田、藩士/天文) B 2 9 9 5
 六平(ろくへい・小津) → 俊資(としたか・小津おづ/松本、国学/歌) U 3 1 4 2

- 六平齋(ろくへいさい) → 亦夢(えきむ・黒川、俳人) 1 3 5 6
- B5204 六平太(ろくへいた・12世喜多きた、名;能静、11世喜多七大夫長景男) 1814-6956 能楽師;喜多流12世、
1825家督継嗣/将軍家茂の庇護で井伊・山内・藤堂家に喜多流が流行、維新後は官吏、
「公儀へ差出御写」、13世勝吉は離縁/14世六平太能信(母は能静女の松千代)の祖父
六平太(ろくへいた・初世喜多)→長能(ちやうのう・喜多きた、七大夫/能役者) J 2 8 6 5
- 六壁庵(ろくへきあん) → 康工(こうこう・沢屋、俳人) B 1 9 0 5
- B5205 六兵衛(ろくべえ・石川屋) ? - ? 江前期;万治天和1658-84頃江戸の豪商、
妻は衣装道楽/1681家財没収;江戸追放:[鳶魚全集]に逸話
- B5206 六兵衛(ろくべえ・そろま) ? - ? 江中期:京の宇治加賀掾座の道化のそろま人形遣、
そろま人形の芸は松井七郎兵衛の創始、
→ 七郎兵衛(しちろうべえ・そろま/松井) E 2 1 7 1
- 六兵衛(ろくべえ・土井) → 六郎兵衛(ろくろべえ・土井とい、庄屋) B 5 2 2 4
- 六兵衛(ろくべえ・荻野) → 安重(やすしげ・荻野おぎの、砲術家) B 4 5 6 6
- 六兵衛(ろくべえ・吹田屋) → 直政(なおまさ・森田、商家/古書画鑑定) C 3 2 4 3
- 六兵衛(ろくべえ・深江屋) → 直樹(なおき・森もり、酒造業/国学/歌) K 3 2 1 4
- 六兵衛(ろくべえ・深江屋) → 直里(なおさと・森、直樹男/酒造業/国学) P 3 2 1 0
- 六兵衛(ろくべえ・窪田) → 政好(まさよし・窪田くぼた、俳人) B 2 4 4 0
- 六兵衛(ろくべえ・大澤) → 路青(ろせい・大澤おおさわ、俳人) B 5 2 9 7
- 六兵衛(ろくべえ・万尾まお) → 時春(ときはる・岡田/万尾、藩士/和算) J 3 1 7 9
- 六兵衛(ろくべえ・俵屋) → 梅通(ばいつう・堤つみ、俳人) B 3 6 8 2
- 六兵衛(ろくべえ・清水) → 宗川(そうせん・清水しみず、歌人) C 2 5 3 6
- 六兵衛(ろくべえ・荒木) → 万籟(ばんらい・荒木、俳人) I 3 6 5 7
- 六兵衛(ろくべえ・永田) → 舟泉(しゅうせん・永田ながた、俳人) H 2 1 9 1
- 六兵衛(ろくべえ・石塚) → 克孝(かつたか・石塚いしか、藩士/和算家) N 1 5 4 9
- 六兵衛(ろくべえ・升屋) → 升六(しょうろく/ますろく;号、商家/俳人) C 2 2 1 5
- 六兵衛(ろくべえ・浅田) → 上山(じょうざん・浅田あさだ、儒者/詩/書) J 2 2 3 8
- 六兵衛(ろくべえ・三升屋) → 亀玉(きぎょく・亀玉堂きぎょくどう、狂歌) J 1 6 4 1
- 六兵衛(ろくべえ・岡田) → 啓(けい・岡田おかだ、藩士/国学/地歴) D 1 8 3 2
- 六兵衛(ろくべえ・林/永田) → 知章(ともあき・永田/林、藩士/郷土史) P 3 1 0 9
- 六兵衛(ろくべえ;越前屋/宇野) → 柳壺(りゅうこ・宇野うの、俳人) D 4 9 7 1
- 六兵衛(ろくべえ・畑中) → 光輝(みつてる・畑中はたなか、歌人) D 4 1 9 6
- 六兵衛(ろくべえ・恩田) → 敬休(たかやす・恩田おんだ、儒者) N 2 6 5 4
- 六兵衛(ろくべえ・大原) → 正敷(まさのぶ・大原おおはら/源、国学/歌) O 4 0 4 2
- 六兵衛(ろくべえ・永富) → 定群(さだむら・永富ながとみ、庄屋/歌人) O 2 0 9 9
- 六兵衛(ろくべえ・大藪) → 文雄(あやお・大藪おおやぶ、神職/詩歌) H 1 0 3 0
- 六兵衛(ろくべえ・口羽) → 通博(みちひろ・口羽くちは、藩士/国学者) I 4 1 9 6
- 六兵衛(ろくべえ・鈴木) → 貞寧(さだやす・鈴木すずき、国学/歌人) O 2 0 7 2
- 六兵衛(ろくべえ・森) → 信好(のぶよし・森もり、藍玉商/国学者) K 3 5 1 7
- 六壁庵(ろくへきあん) → 康工(こうこう・尾崎おさき、沢屋/俳人) B 1 9 0 5
- 六不庵(ろくふあん/りくふあん) → 吐丈(とじょう・六不庵、浄土僧/俳人) O 3 1 1 8
- 鹿峯(ろくほう・西尾) → 為忠(ためただ・西尾、漢学/勤王家) D 2 6 1 2
- B5207 六味(ろくみ・甘) ? - 1762? 江中期俳人、
1762(宝暦12)俳文撰集「李撰文選」桃溪(有李)・交桜と共編;
李撰文選には六味の「愛蝶の辞」「菅の論」「移居の辞」「雪の辞」「季の辞」等入
- 六無翁(ろくむおう) → 常樹(つねき・橘/長谷川/淡輪、国学者) C 2 9 0 0
- 六無齋(ろくむさい) → 台山(たいざん・広瀬、藩士/絵師/詩) K 2 6 0 7
- 六無齋(ろくむさい) → 脩造(しゅうぞう・阿波加あわか/佐渡、医者) X 2 1 8 8
- B5208 鹿鳴(ろくめい・沢田さわだ、光寛男) 1726-7954歳 伊勢度会岡本の儒者:若年に遊蕩生活、
1750(25歳)無学を恥じ上京;西依成斎門、帰郷;著述、晩年;蓮台寺山に方閑荘を建て閑居、
「鹿鳴詩文集」「南垠詩草」「漢書通」「左伝通」「世説通」「世説砂磔」「尺牘描勢」「南垠詩草」著、

「世説新語」補校、「方閑荘日抄」著、

[鹿鳴(；号)の名/字/通称/別号]名；永世、字；君孝、通称；庄蔵、別号；田山人

- B5209 **鹿鳴**(ろくめい・土肥どひ) 1744 - 1816 73歳 因幡の浪人/江戸住、儒；易説を主唱、のち鳥取藩儒となるか?、1793「易学手引」1810「易学要領」14「和漢類聚暗誦録」著、「易学示蒙」「周易便覧」「易経韻字句読考」「左国易解」「万物活象談」「鹿鳴漫語」外著多数、[鹿鳴(；号)の名/通称/法号]名；貫雅、通称；周太郎/秀太郎、法号；葆道宗真居士
- B5210 **鹿鳴**(ろくめい・中村屋/小林?) ?-1860 上州碓氷郡坂本の旅宿業、碓嶺の甥、俳人；おじの碓嶺門；碓嶺没後その庵号を継嗣、「新雨夜集」「野笠集」著、[鹿鳴(；号)の通称/別号]通称；中村屋仲右衛門、別号；九ま岐/小蓑庵3世/小粒堂/碓嶺居
- 鹿鳴(ろくめい・都賀) → 庭鐘(ていしょう・都賀つが、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0
鹿鳴花園(ろくめいかえん) → 篤好(あつよし・五十嵐、測量/国学/歌) 1 0 2 5
鹿鳴社(ろくめいしゃ) → 良温(よしほる・河合かわい、医者/儒者) G 4 7 1 1
鹿鳴草舎(ろくめいそうしゃ) → 広道(ひろみち・萩原、国学者/歌) 3 7 2 8
六勿園(ろくもつえん) → 唐磨(からまろ・千柳亭/錦織、綾彦、狂歌) F 1 5 9 6
- B5211 **鹿門**(ろくもん・望月もちぎ、丸亀藩医望月雷山男) 1698-1769 72 本家望月元椿(幕府医官)の養嗣子、医；吉益東洞門、1702家督；幕府医官/1726番医/33寄合医/37奥医師；法眼、文；服部南郭門、漢方医学における折衷・考証の基礎を築く、1727-58「南郭先生文集」33「救民薬方」編、「勸医抄」「又玄余草」、1752「医官玄稿」69「証類本草序」、「鹿門随筆」(維則編)、外多数、[鹿門(；号)の幼名/名/字/通称/法号]幼名；吉之助、名；秉、字；君彦、通称；三英さんい、法号；地僊院
- B5212 **鹿門**(ろくもん・小倉おぐら/坂、山本孝純男) 1703-76 74 周防三田尻の儒者、萩藩士の坂時存の養子、次に藩儒小倉尚斎の養嗣子、儒；河野養哲門/長門萩藩校明倫館入学/都講、山県周南門、萩藩侍講/明倫館祭酒/1775(安永4)致仕、「閑義論」「遺徳談林」著、[鹿門(；号)の名/字]名；実廉(さねかど?)、字；彦平
- B5213 **鹿門**(ろくもん・河合かわい) ? - ? 江戸期大阪の儒者/詩・書に長ず、「涵海万象」「唐詩選詮解」「艸堂別録」著、[鹿門(；号)の名/字]名；維名、字；子南
- B5214 **鹿門**(ろくもん・通称；松島屋常十郎、別号；静嘯廬) ?-? 江後期安藝大崎下島御手洗の俳人；樗堂門、1812樗堂「萍窓集」；才馬と共編、16一瓢「俳諧西歌仙」参加、[梅が香を嗅かぎに夜出る兔かな](1812筵史「やまかつら」入)
- B5215 **鹿門**(ろくもん・岡おか、蔵治男) 1833-1914 82歳 代々陸前仙台藩大番士の家、儒；藩校養賢堂修学、1852江戸の昌平黌に修学/舎長、1861大阪で双松岡塾を開設(松林飯山・松本奎堂と)、のち帰郷；仙台藩校養賢堂指南役/教授、戊辰戦争に尊王論を唱え入獄、維新後；修史館協修/東京図書館長を歴任/私塾綏猷堂を開設、1852「望雲紀程」著、1853「禺于日録」55「奉歓紀行」59「熱海游記」/60「啓輔記」「西遊日録」/60・61「雪泥鴻爪」著、「在臆話記」「尊攘紀事」「蔵名山房雑著」「岡氏筆記」外著多数
[鹿門(；号)の名/字/通称/法号]名；千仞ちひろ、字；子文/振衣/天爵、通称；慶輔/啓輔/敬助、法号；眉山千仞居士
- 鹿門(ろくもん・本多) → 忠升(ただたか・本多ほんだ、藩主/儒/詩歌) F 2 6 2 3
鹿門(ろくもん・河野) → 恕斎(じよさい・河野こうの、藩儒者/詩人) C 2 2 5 0
鹿門(ろくもん・小田村) → 麴山(ろくざん/ぶざん・小田村/山本、儒者) 5 2 8 4
鹿門(ろくもん・錦織) → 義昌(よしまさ・錦織にしごり、藩医/和学) O 4 7 3 8
鹿門(ろくもん・桜井) → 元茂(もとしば・桜井さくらい、藩士/国学者) C 4 4 6 2
- B5216 **鹿野**(ろくや・熊沢くまざわ/旧姓；奥田) ?-? 熊沢意澄の養子/尾張名古屋藩士、俳人；士朗門、1808(文化5)「蘿蔓集」著、11「ぬのふくろ」編、[鹿野(；号)の名/通称]名；意暉、通称；浅之丞/平三郎
- 鹿野山人(ろくやさんしん) → 竜原(りゅうげん・佐々木/国重、藩儒員) D 4 9 6 6
六弥太(ろくやた・西原) → 公和(よしかず・西原、一甫、藩士/国学) C 4 7 5 0
六喩(ろくやう・無曲軒) → 長伯(ちやうはく・有賀あるが、歌学者) 2 8 2 5
六有(ろくやう；剃髮号) → 元貞(もとさだ・長谷川はせがわ、国学者/書) C 4 4 5 2

六友居(ろくゆうきよ) → 安道(やすみち・堀ほり/賀陽/香屋、国学) D 4 5 0 9
 六有齋(ろくゆうさい・伊藤) → 蘭岨(らんぐう・伊藤いとう、藩儒) B 4 8 7 7
 六有齋(ろくゆうさい・伊藤) → 輪齋(りんさい・伊藤いとう、儒者/古義学) B 4 6 8 0
 六幽書楼(ろくゆうしよろう/りくゆう-) → 東山(とうざん・青木、儒者/詩) E 3 1 6 4
 六有堂(ろくゆうどう) → 黙齋(もくさい・桑名くわな、藩儒) 4 4 7 9
 六陽軒(ろくようけん) → 柳壺(りゅうこ・宇野うの、俳人) D 4 9 7 1

B5217 鹿里(ろくり・伊藤いとう) 1778 - 1838 61歳 信濃春日村の儒者:江戸の大田錦城門、
 のち京で医;吉益南涯門、講説業、1817「刺絡聞見録」18「傷寒論張義定本」22「中庸聞書」編、
 1827「孝経国字解」/「傷寒論国字解」類聚方序解「大学図解」「一貫俚諺抄」著/外編著多数、
 [鹿里(;号)の名/字/通称/別号]名;祐義、字;忠岱、通称;大助、別号;仰継堂

B5218 六林(ろくりん・堀田ほた、名;方致/方旧まさひさ、正央男/本姓;紀) 1710-91 82 名古屋藩士;1745家督;
 寄合/足軽頭、小納戸/岐阜奉行、儒;松平君山門;高弟として諸生を教導/詩文、俳諧/狂歌、
 横井也有・大田南畝らと親交、南畝「一話一言」に「六林翁伝」あり、1763詩集「護花関録稿」、
 1764「まにふんで」也有序、65「俳諧漢和手引草」66「峨洋篇」也有序と共編、
 1768「茜部孝子伝」73「芭蕉翁鏡塚」75「角つ文字」、1778「蓬左狂者伝」;金竜道人敬雄序、
 1780-86「護花関随筆」82「夏こもり」、1787-8也有序「鶉衣」前後編を編纂、
 [六林(;号)の字/通称/別号]字;維新、通称;兵蔵/忠右衛門/文右衛門/治右衛門/紀六、
 別号;恒山(こうざん/其六きろく/未足齋/蝙蝠庵/護花関/森々園/芋印亭、法号;靈亀院

六隣荘(ろくりんそう) → 嶠南(きょうなん・平部ひらべ、藩士/儒者) O 1 6 4 0

B5219 六郎(ろくろう・雲寸うんすん) ? - ? 江中期狂文作者;
 1770滑稽本「自慢先生問答」著(金挺屋かなてこや助兵衛版/1770序)

B5220 六郎(ろくろう・小山おやま、名;喜昌、村役人小山喜貞男) 1835-71 自決 37歳 但馬朝来郡大月の勤王家、
 1863但馬の農兵組織に参加;美作で同志を糾合、但馬生野義挙で農兵を指揮;長州に敗走、
 遊撃隊に属す/のち眼病で帰郷、1871豊岡県新設の際人民新法に服せず上表文提出し自決、
 「但馬義挙実記」著、
 [六郎(;通称)の別通称] 六右衛門

六郎(ろくろう・南部/波木井) → 実長(さねなが・波木井はきい、日円、武将/日蓮僧) L 2 0 1 2

六郎(ろくろう・細川) → 持春(もちはる・細川/源、武将/歌人) B 4 4 5 6

六郎(ろくろう・細川) → 政国(まさくに・細川/源、武将/詩歌人) C 4 0 3 6

六郎(ろくろう・細川) → 澄元(すみもと・細川/源、戦国武将) D 2 3 9 8

六郎(ろくろう・細川) → 勝元(かつもと・細川、武将/連歌) F 1 5 4 8

六郎(ろくろう・細川) → 高国(たかくに・細川、武将/歌人/連歌) C 2 6 7 2

六郎(ろくろう・細川) → 晴元(はるもと・細川、武将/連歌) H 3 6 0 0

六郎(ろくろう・細川) → 成之(しげゆき・細川/源、武将/歌・連歌) D 2 1 2 6

六郎(ろくろう・東) → 行氏(ゆきうじ・東とう/平、武将/歌人) E 4 6 3 1

六郎(ろくろう・大内) → 義興(よしおき・大内/多々良、武将/歌学) C 4 7 3 9

六郎(ろくろう・丹羽) → 氏次(うじつぐ・丹羽にわ、武将/藩主) C 1 2 4 6

六郎(ろくろう・今川) → 貞世(さだよ・今川、武将/幕臣/歌・連歌) 2 0 2 8

六郎(ろくろう・明智) → 政宣(まさのぶ・明智あけち/源、幕臣/連歌) F 4 0 5 1

六郎(ろくろう・小笠原) → 康広(やすひろ・小笠原おがさわら、武将) C 4 5 8 5

六郎(ろくろう・黒沢) → 節齋(せつか・黒沢くろさわ、藩士/儒者) E 2 4 0 5

六郎(ろくろう・竹尾) → 正靱(まさとも・竹尾/本姓;大江、神職) E 4 0 7 6

六郎(ろくろう・荒井) → 六郎左衛門(ろくろうざえもん・荒井、養鷹家) B 5 2 2 3

六郎(ろくろう・二宮) → 兼善(かねよし・二宮にのみや、藩士/和算/地誌) P 1 5 0 9

六郎(ろくろう・服部/野呂瀬) → 秋風(しゅうふう・野呂瀬のりせ、藩士/歌) I 2 1 2 4

六郎(ろくろう・小曾根) → 乾堂(けんどう・小曾根こそね、書/篆刻家) L 1 8 7 5

六郎(ろくろう・三島) → 政行(まさゆき・三島、幕臣/地誌家) I 4 0 3 0

六郎(ろくろう・青柳) → 高靱(たかとも・青柳あおやぎ、国学者) D 2 6 2 8

六郎(ろくろう・伴林) → 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) 4 1 3 0

六郎(ろくろう・小野寺/山口) → 泰款(たいかん・山口やまぐち、藩士/記録) J 2 6 5 2

六郎(ろくろう・城) → 隆経(たかつね・城じょう、藩士/馬術) M 2 6 3 0
 六郎(ろくろう・細) → 義知(よしとも・細ほそ/糸田川、武術家) F 4 7 0 4
 六郎(ろくろう・宇野) → 柳壺(りゅうこ・宇野うの、俳人) D 4 9 7 1
 六郎(ろくろう・大塚) → 巢南(そうなん・大塚おおつか/水落、詩人) I 2 5 6 3
 六郎(ろくろう・金子/橘) → 杜俊(杜駿もりとし・金子かねこ/橘たちばな、国学者) F 4 4 9 6
 六郎(ろくろう・柴) → 秋村(しゅうそん・柴しば、儒者/藩儒) I 2 1 0 5
 六郎(ろくろう・坂尾) → 清風(せいふう・坂尾/阪尾さかお、藩儒) J 2 4 5 4
 六郎(ろくろう・万沢) → 正並(まさなみ・万澤まんざわ、藩士/歌人) S 4 0 8 1
 六郎(ろくろう・上杉) → 篤興(あつおき・上杉うえずぎ、庄屋/国学者) H 1 0 0 6
 六郎(ろくろう・西野/西宮) → 宣明(のぶあき・西宮にしのみや、藩士/国学) 3 5 7 7
 六郎(ろくろう・榛沢はりさわ) → 藍香(らんこう・尾高おだか、里正/勤王家) C 4 8 0 7
 六郎(ろくろう・石川) → 貞幹(さだみき・石川いしかわ/源、尊攘) N 2 0 8 5
 六郎(ろくろう・海上) → 胤平(たねひら・海上うながみ、藩士/剣術/歌) T 2 6 7 3
 六郎(ろくろう・柳田) → 清雄(すがお・柳田やなぎだ、里正/国学者) J 2 3 3 3
 禄郎(ろくろう・小原/中川) → 漁村(ぎよそん・中川なかがわ、藩士/儒者) P 1 6 7 8
 碌郎(ろくろう・宇野) → 柳壺(りゅうこ・宇野うの、俳人) D 4 9 7 1
 碌郎(ろくろう・石坂) → 常堅(常賢つねかた・石坂/山田、藩士/天文) B 2 9 9 5
 略九郎(ろくろう→らくくろう・森田) → 道成(みちなり・森田もりた/湯口、大庄屋/歌) K 4 1 8 2

B5221 **六郎右衛門**(ろくろうえもん・松永まつなが) ?-? 元禄正徳1688-1716頃;歌舞伎役者/作者:
 初め役者;若衆方から敵役に転じ大阪を中心に活躍、1707(宝永4)頃より作者を兼ねる、
 上方諸座で制作活動;自作に実悪として出演、
 1710「新染雛形長者」/11「女猩々」/「舞鶴嫁入鏡」/12「女今川制詞条々」著

B5222 **六郎右衛門**(ろくろうえもん・根津ねづ/本姓;滋野、旧姓;渡辺) 1705-93⁸⁹ 幕臣の根津光長の養子
 根津家は信濃禰津氏の後裔、1717(享保2;14歳)家督継嗣、幕臣;1733鷹匠、
 1746鷹匠能勢河内守支配組頭に昇進、1767賄頭、1773天守番頭となる、
 「御鷹部屋御修復仕様帳」著、

[六郎右衛門(;通称)の幼名/名/法名]幼名;熊之丞、名;光利、法名;栄松
 六郎右衛門(ろくろうえもん・上野山/咲山) → 飛塵馬蹄(とぶちりのばてい、狂歌) O 3 1 7 2
 六郎右衛門(ろくろうえもん・小串) → 範秀(のりひで・小串、雲岩聖秀、歌/早歌) F 3 5 5 3
 六郎右衛門(ろくろうえもん・林) → 安平(やすひら・林はやし、武術家;柔術) C 4 5 8 1
 六郎右衛門(ろくろうえもん・芝原) → 春房(はるふさ・芝原しばはら、商家/国学者) G 3 6 7 8
 六郎右衛門(ろくろうえもん・芝原) → 春道(はるみち・芝原、春房養嗣/国学) K 3 6 2 7
 六郎右衛門(ろくろうえもん・辻) → 守棚(もりしげ・辻つじ、歌人/連歌) K 4 4 5 8
 六郎右衛門(ろくろうえもん・井坂) → 松石(しょうせき・井坂いさか/井/坂東、商家/詩人) K 2 2 3 0
 六郎右衛門(ろくろうえもん・釜屋) → 正好(まさよし・釜屋かまや/秦、国学者) O 4 0 9 5
 六郎右衛門(ろくろうえもん・松島) → 松圃(しょうほ・松島、俳人/大鼓) L 2 2 6 2
 六郎右衛門(ろくろうえもん・福田) → 眞直(まさなお・福田ふくだ、旅籠業/国学) S 4 0 2 5
 六郎右衛門(ろくろうえもん・小野) → 剛(ごう・小野おの/鶴見、国学者) Q 1 9 4 4
 六郎右衛門(ろくろうえもん・花輪) → 昌富(まさとみ・花輪はなわ/塙/源/中島、国学) R 4 0 8 4
 六郎五郎(ろくろうごろう・伊東) → 義祐(よしすけ・伊東いとう、戦国武将) D 4 7 7 7
 六郎五郎(ろくろうごろう・松田) → 定晴(さだはる・松田まつだ、官吏/和学) P 2 0 4 1

B5223 **六郎左衛門**(ろくろうざえもん・荒井あらい、別通称;六郎) ?-? 江前期陸奥?の養鷹家:荒井豊前守の甥、
 「荒井六郎左衛門鷹書拔書」著、「鷹之書」「鷹之名所之事」「十二顔の次第」伝、
 荒井藤七良の師

六郎左衛門(ろくろうざえもん・飯尾) → 信快(しんかい;法諱、武士/法師/歌人) D 2 2 6 4
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・伊庭) → 常智(じょうち;法諱・伊庭いば、僧/連歌) K 2 2 8 2
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・荒木) → 珂雪(かせつ・正山[庄山]しょうやま、医者/俳人) M 1 5 6 9
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・林) → 安平(やすひら・林はやし、武術家;柔術) C 4 5 8 1
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・組屋) → 恒久(つねひさ・組屋くみや、国学者) D 2 9 4 1
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・狩野) → 春湖(しゅんこ・狩野/黒沢、絵師) J 2 1 5 2

六郎左衛門(ろくろうざえもん・久須美)→祐邦(すけくに・久須美/久住/藤原、幕臣)G 2 3 2 9
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・久須美)→祐光(すけてる・久須美/藤原、祐邦男/幕臣/文筆)G 2 3 5 4
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・久須美)→祐明(すけあきら・久須美/藤原、祐光男/幕臣/文筆)F 2 3 9 9
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・久須美)→祐篤(すけとし・久須美/藤原、祐明男/幕臣/文筆)G 2 3 6 5
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・辻)→守参(もりみつ・辻、幕臣/文筆家)G 4 4 6 2
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・楠瀬)→清蔭(きよかげ・楠瀬くすのせ、藩士歌人)T 1 6 9 8
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・新庄)→直親(なおちか・新庄しんじょう、幕臣/国学)N 3 2 4 2
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・平栗)→徳馨(とくけい・平栗、庄屋/詩歌)K 3 1 6 0
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・美代)→清相(きよすけ・美代みしろ、藩士/歌)V 1 6 3 5
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・羽生)→道潔(みちきよ・羽生/菅原、藩士/養蚕)B 4 1 4 1
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・羽生)→信英(のぶひで・羽生はにゅう、藩士/歌人)J 3 5 6 4
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・植原)→正方(まさかた・植原/広川、藩士/水練)B 4 0 9 9
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・福沢)→直治(なおはる・福沢ふくざわ、国学者/歌)O 3 2 5 7
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・桂)→誉草(たかあき・桂かつら、大庄屋/国学/俳諧)W 2 6 5 1
 六郎左衛門(ろくろうざえもん・三枝/辻/源)→守静(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人)F 4 4 3 6
 六郎左衛門尉(ろくろうざえもんのじょう・二階堂)→成藤(なりふじ・二階堂/藤原、廷臣/歌)I 3 2 1 0
 六郎左衛門尉(ろくろうざえもんのじょう・伊勢)→貞順(さだのり・伊勢/平、幕臣/故実家)F 2 0 4 5
 六郎左衛門尉(ろくろうざえもんのじょう・伊勢)→貞久(さだひさ・伊勢/平、故実家)F 2 0 4 9
 六郎次(ろくろうじ・長谷川)→夜白(やはく・長谷川はせがわ、商家/俳人)D 4 5 9 6
 六良二(六郎治ろくろうじ・亀井)→重範(しげのり・亀井かめい、藩士/神職/国学)O 2 1 0 8
 六郎太(ろくろうた・小曾根)→乾堂(けんどう・小曾根こそね、書/篆刻家)L 1 8 7 5
 六郎太夫(ろくろうだゆう・齋藤)→永保(ながやす・齋藤さいとう/鈴木、藩士/連歌)N 3 2 2 3
 六々(ろくろく・藤田)→長孟(ながたか・藤田ふじた、国学者)O 3 2 5 9
 六々(ろくろく・藤田)→長年(ながとし・藤田/横橋、神職/国学)O 3 2 6 0
 陸々(ろくろく)→梅室(ばいしつ・桜井、俳人)3 6 0 4
 碌々庵(ろくろくあん)→許六(きよろく/きよろく・森川、俳人)1 6 5 5
 碌々庵(ろくろくあん)→也魯斎(やろさい・川崎/工藤、藩士/儒者)E 4 5 3 9
 六々庵(ろくろくあん)→紹由(じょうゆう・宮村/今村、俳人)B 2 2 7 9
 六々庵(ろくろくあん)→巴静(はじょう・太田、俳人)3 6 1 3
 六々庵(ろくろくあん)→春章(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師)J 2 1 9 4
 六鹿庵(ろくろくあん)→亀選(きせん・六鹿庵、俳人)B 1 6 4 1
 六々園春香(ろくろくえんしゅんこう)→春足(はるたり・遠藤、狂歌/戯作)G 3 6 5 1
 鹿々斎(ろくろくさい)→玄良(はるよし・山下やました、医者)K 3 6 9 2
 六々山人(ろくろくさんじん)→丈山(じょうざん・石川、儒/詩人)S 2 2 5 7
 陸々山人(ろくろくさんじん)→梅室(ばいしつ・桜井、俳人)3 6 0 4
 碌々山人(ろくろくさんじん)→幽眠(ゆうみん・三国みくに、尊攘/詩歌)D 4 6 8 2
 碌々子(ろくろくし)→湖寂(こじゃく、俳人)C 1 9 8 1
 六々主人(ろくろくしゅじん)→諦霊(たいれい:法諱、真宗大谷派僧)L 2 6 3 0
 六々生(ろくろくせい・安田/山県)→璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者)S 2 6 2 3
 六々生(ろくろくせい・江邨)→磊堂(らいどう・江邨えむら/田中、藩医)4 8 8 7
 六々亭(ろくろくてい)→雪中(せつちゅう・日下くさか、商家/俳人)E 2 4 5 5
 六六堂(ろくろくどう)→凉台(りょうだい・日高ひだか、蘭医者/詩)I 4 9 8 0
 六々道人(ろくろくどうじん)→黙雷(もくらい;法諱・島地/清水、真宗僧)B 4 4 1 2
 六々野人(ろくろくやじん)→一馬(いちば・貞松斎、米沢、華道家/俳)G 1 1 3 7
 六呂堂(初世ろくろくどう)→土方(しほう・三笠屋平助、商家/俳人)H 2 1 9 6
 六呂堂(2世ろくろくどう)→祖木(そぼく・山脇、医者/俳人)C 2 5 2 4

B5224 六郎兵衛(ろくろべえ・土井い、別通称;六兵衛)?-? 安桃期;備前下土井村の庄屋、
 虎倉城主伊賀久隆の家臣、伊賀氏落城後;賀茂郷に土着す、「虎倉聞書」著
 六郎兵衛(ろくろべえ・東)→行澄(ゆきずみ・東とう、戦国武将/連歌)G 4 6 3 3
 六郎兵衛(ろくろべえ・赤石)→浄心(じょうしん・赤石あかい、藩士/儒者)K 2 2 0 5

- 六郎兵衛(ろくろべえ・福沢)→ 憲治(のりはる・福沢ふくざわ、農業/歌人) F 3 5 4 4
 六郎兵衛(ろくろべえ・加藤)→ 重昌(しげまさ・加藤かとう、藩士/文筆家) S 2 1 7 0
 六郎兵衛(ろくろべえ・矢田)→ 四如軒(しじょけん・矢田やだ、藩士/絵師) T 2 1 8 7
 六郎兵衛(ろくろべえ・美代)→ 清相(きよすけ・美代みしろ、藩士/歌人) V 1 6 3 5
 六郎兵衛(ろくろべえ・小泉)→ 則之(のりゆき・小泉、和算家) G 3 5 1 4
 六郎兵衛(ろくろべえ・荳戸)→ 太華(たいか・荳戸のぞき、藩士/藩再建) B 2 6 0 7
 六郎兵衛(ろくろべえ・西山)→ 昌春(まさはる・西山、幕臣) G 4 0 3 9
 六郎兵衛(ろくろべえ・杉森)→ 憲正(のりまさ・杉森すぎいもり、藩校館長) I 3 5 7 4
 六郎兵衛(ろくろべえ・菱屋)→ 定満(さだみつ・宮村みやむら、商家/国学) P 2 0 5 4
 六郎兵衛入道(ろくろべえにゅうどう)→ 蓮行(れんぎょう; 法諱、絵師/鑑真東征絵伝) 5 1 2 1
 六和(ろくわ; 号・宮田) → 謙養(けんよう; 法諱・宮田/役、修験/和学) N 1 8 9 8
 六湾(ろくわん・林) → 也籟(やらい・林はやし、商家/俳人) E 4 5 5 3
 六盃仙(ろくわんせん) → 青峨(初世せいが・鴛田、俳人) 2 4 8 2
- B5225 露計(ろけい) ? - ? 京の俳人; 1690言水「新撰都曲みやこぶり」3句入、
 [散る柳一葉あらそふ氏子かな](都曲; 127/一葉も残さず氏子たちが競うように清掃)
- B5226 呂圭(ろけい・中沢なかざわ、探竜斎)?-? 江前期和泉堺の文筆家、1698「亀島眺望集」著
- B5227 魯鷄(ろけい) ? - ? 江前期和泉堺の俳人、雑俳点者、
 祇空・才磨と交流、1704(元禄15)「俳諧鏡之間」編、
 中沢呂圭と同一か?
- B5228 路圭(ろけい・通称; 博多屋久左衛門)?-? 肥前長崎の商人/俳人; 1717長崎訪問の野坡門、
 野坡の高弟となる/1719(享保4)師の再訪記念集; 自作筑後吟行と合わせて編纂;
 「市の海」編/「柿袴」著、1725「雪齋ゆきさなな集」編、「市の海」編/
 [路圭の別号] 奇玉堂/以来庵/蕨亭きよくてい/棘亭
- B5229 呂圭(ろけい・桂川かつらがわ) ? - ? 大阪の俳人; 雑俳; 1757律中「耳勝手」入
- B5230 蘆溪(ろけい・村松むらまつ/修姓; 松) 1715-87 73歳 越後頸城郡山直海村の農家の生、
 1735(享保20; 21歳)江戸に出て儒者; 服部南郭門、1754越後高田藩主榊原政永の招聘;
 藩儒となる、藩の儒学を従来の朱子学・仁斎学から徂徠学に転向させる、果卿の父、
 1774「松氏文草」、「松氏文草後編」「農星書」「儀礼図」「古押式」「近世儒家人物誌」著、
 [蘆溪(;号)の名/字/通称/別号]名; 貞吉/文蔚ふい、字; 子永/子悟/叔豹、
 通称; 与右衛門、別号; 梅亭、
- B5231 路景(ろけい、初号; 東陌とうはく)?-? 江中期丹後宮津の俳人; 「丹後の名寄」編、
 1782蕪村「花鳥篇」/83維駒「五車反古」各1句入、
 [炭がまのけぶりも消えて山ざくら](花鳥篇; 9/煙に代って桜の白い花)
- B5232 蘆溪(ろけい・浅山あさやま) ? - ? 江後期化政1804-30頃大阪の絵師; 風俗画、
 1806「放家僧談」09「敵討氷上霜」24「根篠雪」画、浅山蘆国あしくにの父説あり
- 芦卿(ろけい・景山) → 青子(せいせん・景山かげやま/田中、俳人) J 2 4 0 5
 露卿(ろけい・高屋) → 繁樹(しげき・高屋たかや、藩士/歌人) Z 2 1 3 0
 路卿(ろけい・西郷/平尾) → 芹水(きんすい・平尾ひらお、儒者/詩) J 1 6 0 3
- B5233 露月(ろげつ・豊島とよしま) 1667- 1751 85歳 江戸本石町三丁目の観世流謡曲師匠、
 俳人; 露沾門; 露月に改号、画; 絵俳書を刊行/1731(享保16)剃髪、軸兄・秀圃の兄/露夕の父、
 1724「露月集」25「鄙鶴」編、歳旦帖・月次集; 27「句霊宝くれいほう」27「宮遷みやうつり」「寄進能」著、
 絵俳書; 1722「俳度曲はいどぶり」27「閨の梅」30「二子山」32「倉の衆あつまり」33「名物鹿子」、
 1734「二重染ふたえぞめ」37「卯月庭訓」45「宝の槌」著、1740露沾7回忌「跡農錦あとのにしき」編刊、外多、
 [露月(;号)の名/通称/別号]名; 貞休、通称; 治左衛門、別号; 識月しきげつ/五重軒/鶺鴒翁
- B5234 芦月(ろげつ) ? - ? 摂津兵庫の雑俳点者; 1748一葉「兎の目」入
 芦月庵(ろげつあん) → 似船(じせん・富尾、俳人) E 2 1 4 0
 露月庵(ろげつあん) → 朱玉(しゆぎよく・黒沢くろさわ、俳人) I 2 1 5 6
 蘆月園(ろげつえん) → 範正(のりまさ・飯田、藩士/連歌) F 3 5 7 6
 蘆月堂(ろげつどう) → 湖竹(こちく・斎藤さいどう、俳人) D 1 9 2 4
- B5235 露軒(ろけん) ? - ? 京の俳人; 1687言水「京日記」入; 言水らと歌仙

- B5236 **路健**(ろけん・直海なほみ) ? - ? 江中期1688-1736頃越中井波の蚕種業、俳人：蕉門、1699句集「旅袋」編、浪化集団に属す、「浪化日記」(1699一門百韻)入、伊勢の涼菟・支考/尾張の露川・素覧/大坂の舍羅・諷竹/京の風国・野童を訪れ歌仙を巻く、[路健(；号)の別号/通称]別号；清花堂、通称；ノミヤ(能美屋)宗左衛門
- B5237 **露硯**(ろけん) ? - ? 撰津伊丹の俳人；1702轍士「花見車」入、[鶴鴿せせらいの落葉誦行よみゆくふもと哉](花見車；四179/尾で落葉を数えるしぐさ)
- 魯軒(ろけん・林) → 守篤(もりあつ・林はやし、絵師) F 4 4 1 0
 魯軒(ろけん・田中) → 信謹(さねもり・田中/若林、儒者/医) L 2 0 4 4
 蘆軒(ろけん・本多) → 思斎(しさい・本多ほんだ、藩儒官) T 2 1 4 9
- B5238 **露言**(ろげん・福田ふくだ) 1630 - 1691 62歳 江戸の俳人；調和門、内藤露沾門；露の1字賜る、江戸南伝馬町住、1678言水「江戸新道」/79調和「富士石」才丸「坂東太郎」入、1678不ト「江戸広小路」/80心友「江戸宮筋」幽山「誹枕」入、81言水「東日記」入、1682未達「関相撲」風黒「高名集」如扶「三ヶ津さんかのつ」入、没後に不角「芦分船」/轍士「花見車」入、[恋ふる妻戸かきつくしてよ猫の爪](広小路/高名集；新古今；1786源頼朝/みちのくのいはで忍ぶはえぞ知らぬ書き尽くしてよ壺の碑いぶみ)[櫟ゆづりはの座に等閑なぼりの友ならず](花見車；三67)、[露言(；号)の別号] 調也ちやうや、風琴子
- 魯彦(ろげん・山県) → 洙川(しゅせん・山県/県、藩士/儒者) Y 2 1 9 4
 露元(ろげん・辻、露元斎) → 守遊(しゅゆう・辻/前田、役人/詩歌) 2 1 8 1
 鷺彦(ろげん・大川) → 鷺彦(さぎひこ・大川おおかわ、歌人) O 2 0 1 1
 露原翁(ろげんおう) → 中侖(ちゅうろう・中村、藩士/医/儒者) G 2 8 5 6
 魯玄南溟(ろげんなんめい) → 南溟(なんめい・亀井、儒医/詩人) 3 2 3 7
- 5203 **蘆元坊**(ろげんぼう・佐野/仙石せんごく) 1688-1747 60 美濃北方の俳人；支考門、美濃派獅子門道統3世、各地行脚し美濃派の拡大に尽力、1727三越行脚；「桃の首途かどで」、西国旅；1730「藤の首途」、越前行脚；34「卯花笠」、1742芭蕉五十回忌催；「花供養」編、42「夏氷」編、「短歌行」編、支考追善集；1732「文星観」(1周忌)/37「渭江話」(7回忌)、追悼集；「梅雨志めり」(五竹坊編)、「黄鸝こり園句集」がある、[相宿のものうき蚊帳の軒かな](藤の首途/岡山駅)、[住みあいた世とは嘘なり月よ花]、[蘆元坊(；号)の通称/別号]通称；八三郎/与兵衛、別号；里紅/黄鸝こり園/茶話窟、法名；明誉
- B5239 **露江**(ろこう；号・内藤ないとう、名；義孝よしとか、義概よしむね[義泰/風虎]3男) 1669-1712 44 母；三条実秀女、義英(露沾)の異母弟；廃嫡/父に寵愛され嫡子/陸奥磐城平4代藩主；1685(貞享2)襲封、従五下・能登守、室；土屋政直女、松賀族之助一派を抑え藩政の安定に尽力、俳人；1701沾徳「文蓬莱」入、能楽(猿楽)を愛好、1712(正徳2)病没；2男義稠よしじげが藩主を嗣、
- B5240 **蘆江**(ろこう；道号・海旨かいし；法諱) 1679-? 1747存 黄檗僧；1696(18歳)肥前の鉄面寂鍊門；出家、山城宇治万福寺6世千呆性佞門；1703嗣法、1720(享保5)尾張名古屋東輪寺4世；27退隠、撰津東成郡東高津村の仏性庵に住；のち同庵を藤竜寺と改名；1741退隠、「蘆江禅師語録」著
- B5241 **路巧**(ろこう) ? - ? 江中期俳人；1776樗良「月の夜」2句入、[汐川や月に棹さす柴小舟しばをぶね](月の夜；23)
- B5242 **芦江**(ろこう) ? - ? 京の俳人；1777江涯「仮日記」2句入、[三井寺；鐘の声聞きなれて花の盛りかな](仮日記；120)
- B5243 **露香**(ろこう；号・三熊/三隈みくま) 1731?-1814 84? 京の鳴滝村の絵師；松村月溪門/桜花画に長ず、三熊花顔かてんの妹、「倭花やまどのはな名品」「糸桜図」画、1798花顔草稿「近世畸人伝続編」画 織田瑟瑟しつしの師
- B5244 **蘆興**(ろこう) ? - ? 羽前山形の俳人；雑俳、1780楓呉「田舎曲紅島いなかぶりにばたけ」入
- B5245 **露厚**(路考ろこう・佐伯さえき) ? - ? 江後期文化1804-18頃大阪の俳人；雑俳；1804「清鉤」/09「あらひよね」編、[露厚(；号)の別号]路考/漁竹庵

- B5246 **呂蛤**(ろこ・西村にむら) ? - 1825? 京の俳人:去舟・几董門、夜半亭を継嗣、
足疾のため行脚できず人々の吟を得て名所を知る、1791「はつすゝり」92「初はつすゝり」編、
1794「鴈風呂」編、95几董追悼集「金剛心」編、1809「蕪村七部集」刊、
[呂蛤(;)の別号] 若夢/大菊庵/山鳥房/晋溪/夜半亭4世
- B5247 **鱸香**(ろこ・内村うむら、本郷屋儀八3男) 1821-1901 81 出雲松江の酒造家の生/儒;京の貫名海屋門、
大阪の篠崎小竹門/江戸昌平齋に修学、内村姓、一時松本奎堂ら勤王家と交流/1864帰郷、
松江藩儒に登用される;藩主の侍読、維新後;中学師範齋教授/家塾相長舎を開設、
「通鑑肇要つがらんよう補注」著、
[鱸香(;)の名/字/通称/別号]名;篤斐あつげ、字;子輔、通称;音之助/与三郎/友輔ゆうすけ、
別号;倉山
- 路考(ろこ・浜村屋) → 菊之丞(初世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者) 1 6 0 9
路考(ろこ・王子) → 菊之丞(2世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者) 1 6 1 0
路考(ろこ・仙女) → 菊之丞(3世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者) 1 6 9 9
路考(ろこ・猿屋) → 菊之丞(4世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者) B 1 6 0 2
路考(ろこ・多門) → 菊之丞(5世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者) B 1 6 0 3
露香(ろこ・平瀬) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1
蘆鴻(ろこ・中島) → 眞兵衛(しんべえ・中島なかじま、本草学者) P 2 2 7 8
蘆江(ろこ・曾谷) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8
蘆江散人(ろこさんじん) → 環中(かんちゅう・高宮たかみや、医者/国学) G 1 5 5 3
露紅亭(ろこうてい) → 一匆(いっく・島野、俳人) G 1 1 8 8
- B5248 **鷺谷**(ろこ) 1684前生- ? 肥後馬見原の俳人・乙語門、「誹諧老乃杖」著
- B5249 **魯谷**(ろこ) ? - ? 江中期俳人;1776樗良「月の夜」1句入、
[汐風や一羽の雁の乱れ飛ぶ](月の夜;132)
- 呂国(ろこ・松木) → 淡々(たんたん・松木/曲淵、渭北、俳人) 2 6 9 4
蘆国(ろこ・浅山) → 蘆国(あしくに・浅山、絵師) C 1 0 2 8
霜骨軒(ろこつけん) → 章行(あきゆき・松野尾まつのお/松野、藩士/史家) J 1 0 4 7
魯佐(ろさ・大田) → 晴軒(せいけん・大田、錦城男/漢学者) B 2 4 2 6
- B5250 **魯齋**(ろさい・今井いまい、宗柏男) 1652-89 38歳 江戸の儒者;朱舜水門;漢語学、常陸水戸藩に出仕、
藩儒/彰考館入;史官、光圀命により大日本史編纂基礎資料の修史、
1689「参考保元物語」「参考平治物語」編/「参考源平盛衰記」「参考太平記」など校訂、
「壘筭説」「舜水先生行実并略譜」「魯齋稿」「病余援筆」著、今井桐軒(順)の弟、
[魯齋(;)の名/字/通称/別号]名;弘濟ひろすみ、字;将興、通称;小四郎、別号;松庵/宋柏、
法号;魯齋将興居士
- B5251 **魯齋**(ろさい・菊池きくち) 1718 - 1800 83歳 日向の儒者;初め1736上京し医学修学、
日向佐土原藩命で儒学;三宅尚齋・久米訂齋門/帰国;佐土原藩藩儒、家塾を開設;子弟教育、
闇齋学を主唱、「芻蕘録」著、
[魯齋(;)の名/通称]名;武敏、通称;一学
- B5252 **魯齋**(ろさい・生駒にま、旧姓;岡野) 1729-83 55 丹波柏原藩家老の生駒晴農の養子、岡野利有の弟、
柏原藩士;1749(寛延2)養家を継嗣;禄4百石/のち家老、儒/詩歌人、博覧強記;撃剣に長ず、
刀流首座派と兵学北条流の師範、「魯齋詩集」「魯齋漫録」「案山子伝」著、
[魯齋(;)の名/字/通称/別号]名;頼寛よりひろ、字;太古/利積、
通称;造酒みき/彦左衛門/蔵人、別号;心叟
- B5253 **魯齋**(ろさい・河野こうの、赤松滄洲2男) 1759-86 早世 28 播磨赤穂藩儒の家の生、赤松蘭室の弟、
儒・詩;幼時より父滄洲門/詩に長ず、1775赤穂藩太夫河野鉄虎の養子;
1777(安永6)家督継嗣、赤穂藩校博文館教官、河野家伝の兵書を修学;
城郭溝池の制・器械用兵など精通、刀槍騎射術も習得、「赤水郷談」編、
「魯齋詩稿」「魯齋詩抄」「魯齋漫稿」「魯齋閑話」「八島懐古七律三十首」「義人遺詠」著、
[魯齋(;)の名/字/通称]名;通綸/綸、字;大経、通称;二郎平/次郎平/次郎
- B5254 **魯齋**(ろさい・鴉田ときた) ? - 1793 武蔵の儒者/1771(明和8)加賀金沢藩儒江戸詰、
禄2百石、経史に精通/書・篆刻を嗜む、1781「脇正彙攷」84「間謙縦言」、「春秋正月論」著、

「唐詩選講義」「唐詩選質疑」「唐詩選俚諺講義」著、
[魯齋(；号)の名/字/通称/別号]名；忠厚、字；敬夫、通称；喜内、別号；東臯とうこう

B5255 魯齋(ろさい・馬嶋まじま) 1766 - 1836 71 尾張の眼科医/寛政1789-1801頃近江彦根藩に客居、
彦根に開業/詩歌人、彦根藩儒竜玉淵と親交、1795「渡江春」編、
[魯齋(；号)の名/字/通称]名；寿、字；万年、通称；立庵

B5256 魯齋(ろさい・酒井さかい) ? - ? 江後期紀州和歌山藩士/伊勢一志郡小川に住、
俳人・1826(文政9)「活動集」著/30「盆の月」補訂、
[魯齋(；号)の通称/別号]通称；縫右衛門、別号；寧一館/亭一館/其則きそく

魯齋(ろさい・内藤) → 尚賢(なおかた・内藤、本草家) 3 2 9 7
魯齋(ろさい・工藤/川崎) → 也魯齋(やろさい・川崎/工藤、藩士/儒者) E 4 5 3 9
魯齋(ろさい・佐々木) → 親覽(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌) B 2 8 8 5
魯齋(ろさい・植村) → 早苗(さなえ・植村うえむら、藩士/歌人) N 2 0 9 5
魯齋(ろさい・国方) → 文啓(ふみひろ・国方くにかた、国学者) I 3 8 1 7
魯齋(ろさい・大高坂) → 南海(なんかい・大高坂おたかさか/山本、藩士/詩/画) O 3 2 9 4
魯齋(ろさい・梅本) → 敏鎌(とがま・梅本うめもと/岡田、売薬/歌) U 3 1 3 6
蘆齋(ろさい) → 釣雪叟(ちようせつそう、漢学) J 2 8 2 6
蘆齋(ろさい・宇夫方) → 広明(ひろあき・宇夫方うぶかた、儒者/神職) F 3 7 4 9
路齋(ろさい・根本) → 一峨(いちが・根本ねもと、俳人) G 1 1 1 0
路齋(ろさい・近藤) → 景高(かげたか・近藤、藩士/兵法家) K 1 5 9 5
露齋(ろさい・草間) → 正雄(まさお・草間、藩士/茶華道/日記) B 4 0 4 1
廬作(ろさく・高田) → 備寛(びかん・高田たかた、地誌編纂) 3 7 4 8
魯三郎(ろさぶろう・大田) → 晴軒(せいけん・大田、錦城男/漢学者) B 2 4 2 6
輅三郎(ろさぶろう・田辺) → 明庵(めいあん・田辺たなべ、儒者) 4 3 0 5
路産(ろさん・養老館、林鮒主) → 養老館路産(ようろうかんろさん、狂歌) B 4 7 6 5
魯参(ろさん；道号) → 魯山(ろさん；道号・益主；法諱、黄檗僧) B 5 2 5 8
露傘(ろさん・佐久間) → 信満(のぶみつ・佐久間/三浦、藩士/謡曲) D 3 5 4 8

B5257 魯山(ろざん・並河なみかわ/なびかわ/修姓；並、藩医並河芳庵男) 1629-1710 82 尾張の儒者；堀杏庵門、
宋学に精通；易・太極説に通ず/医も修学、尾張藩儒となる；藩主徳川光友・綱誠に出仕、
「甲申闘記」「中山日録」「帰尾日録」「東行日録」「武家系図」「魯山雜集」著、
1695(元禄8)「源敬公御行状」「源敬公御別伝」著(敬公は初代藩主義直よしなお)、
[魯山(；号)の名/字/通称/別号]名；子健/健、字；徳修、通称；自晦/自悔、
別号；東洋/東陽/釣耕軒

C5270 魯山(ろざん/ろさん；道号・存策そんさく；法諱) ?-? 江中期曹洞僧；讃岐見性寺14世徳巖養存門/法嗣、
1697(元禄10)「科註妙法蓮華経」著

B5258 魯山(ろざん/ろさん；道号・益主えきしゅ；法諱、俗姓；塩田) 1798-1856 59 豊前築上郡八屋の黄檗僧；
竜文梧昇門；出家/1819(22歳)嗣法、儒；筑前の亀井昭陽門/塾頭となる、
妙心寺派の月珊古鏡より印可を受/1849豊前小倉藩主の招聘；小倉福聚寺18世に就く、
「魯山益主禅師語録」著、
[魯山益主の初号]初道号；魯参、初法諱；益智

B5259 廬山(ろざん・深見ふかみ、別号；玉青堂) ?-? 江後期三河碧海郡新堀村の素封家/博物蒐集、
特に古瓦奇石・異禽竺蘭を好む、1837(天保8)「松蘭譜」編

B5260 魯山(ろざん・古家ふるや、名；殷富、太郎兵衛[魯嶽]男) 1822-43 早世 22 堺の詩人、
「西游記事」「檀陰余香」著、
[魯山の通称]通称；辰之助/辰之輔、法号；釈清信

魯山(ろざん・森) → 文作(ぶんさく・森/朝間、書家/寺子屋) F 3 8 3 6
鷺山(ろざん・酒井) → 忠恭(ただすみ・酒井、藩主/和漢学) P 2 6 6 8
廬山(ろざん・字) → 道阿(どうあ；法諱、僧/歌人) V 3 1 8 3
檀山(ろざん・緒方) → 弘国(ひろくに・緒方おがた、神職/国学) I 3 7 7 7
露残齋(ろざんさい、露残坊) → 巽我(そんが、俳人) E 2 5 6 7
鷺山人(ろざんじん・杜) → 遷介(せんかい・杜、漢学者/狂文) G 2 4 1 3

- 露山莊主人(ろざんそうしゅじん)→弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0
 鷺傘亭(ろさんてい) → 盛住(せいじゅう・鷺傘亭、俳人) C 2 4 0 7
 櫓山堂(ろざんどう) → 惟正(これまさ・安永やすなが、和算家) O 1 9 8 4
 路子(ろし・牧野) → 路子(みちこ・牧野まさの、藩主室/歌人) B 4 1 4 4
 露地和尚(ろじおしょう) → 長意(ちやうい;法諱、天台僧) H 2 8 1 5
- B5261 路治口志万里(ろじぐちのしまり・柳和、本名不詳)?-? 江戸小伝馬町の狂歌作者・四方連
 魯七郎(ろしちろう・岩瀬/小野)→ 清春(きよはる・菱川、役者/絵師) Q 1 6 1 7
 魯実(ろじつ・佐々木) → 親覧(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌) B 2 8 8 5
 鷓鴣坊面龍(ろじぼうがりゅう)→ 杏助(いちすけ・津田、随筆家) G 1 1 2 9
 芦舎(ろしや→あしのや) → 利和(としかず・吉田よしだ、歌人) M 3 1 1 4
- B5262 芦尺(ろしやく・中村なかむら)1748-1825 78 相模半繩の俳人:丈水門、
 「蕉風諧門記」、「門葉記録」著、
 [芦尺(;)号)の名/別号]名;栄蔵、別号;潜月斎、法号;丈雲芦尺上座
- B5263 路舟(ろしゅう) ? - ? 俳;1691北枝「卯辰集」1句入、
 [山吹やよりむく岸の舟はやし](卯辰集;山吹の岸に寄り向かうが早くて過ぎてしまう)
- B5264 鷺洲(鷺舟/魯洲ろしゅう・長野ちやうの)1691-1763 73 越後新潟の俳人:七里と交友、
 弟此柱しちゅうと共に新潟俳壇の重鎮、1723七里「淡雪」序、
 1726七里3回忌追善集「其鑑」葉圃と共編、
 [鷺洲(;)号)の別号] 江西坊/一閑人/柳月庵
- B5265 蘆舟(ろしゅう・深江ふかえ、庄左衛門男)1699-1757 59 父は銀座役人、京の生/絵師;尾形光琳門、
 俵屋宗達の影響が大きい、「蔦の細道図屏風」(六曲屏風)画、
 [蘆舟(;)号)の名/別号]名;庄六、別号;青白堂
- C5255 呂舟(ろしゅう・米田屋よねだや)?- ? 安藝の俳人:野坡門、
 1750素蝶「ぬれ若葉」入/56「素蝶追善集」入
- B5266 魯洲(ろしゅう;法諱・愚公ぐこう;道号、竹村治左衛門了齋2男)1735-79 45 出羽の臨濟僧;
 京の相国寺の顕常門/詩に長ず、羽後仙北郡六郷の臨濟宗太桂寺6世住持、
 陸前松島の瑞巖寺で仙台藩主に仏書・漢書を講ず、「山居詩」著、
 [愚公魯洲の号] 大河/魯洲碩愚
- B5267 露秀(ろしゅう・佐々木ささき、治右衛門の長男)1735-1807 73 岩代郡山の大町妓楼佐土屋の主人、
 和漢学;安藤重央門、俳人;露仏庵沾圃門;内藤露沾の遺品を継承、俳人冥々の兄、
 明和1764-72以後;浅香不孤園社を営み多くの門人を養成、松平定信の知遇を得る、
 1797(寛政9)岩代田村郡逢瀬村妙音寺境内に蟬塚建立;97「蟬塚集」著、98「諷詠集」編、
 [露秀(;)号)の名/通称/別号]名;本秀、通称;文右衛門、別号;不孤園/謙斎/希声破人
- B5268 蘆洲(ろしゅう・長沢ながさわ、名;鱗)1767-1847 81 長沢蘆雪の養子、丹波の絵師/京柳馬場四条北住、
 円山派、1810(文化7)蘆雪翁追薦展覧を主催;「蘆雪翁追薦展覧画録」編、蘆鳳の父、
 [蘆洲(;)号)の字/法号]字;吞江、法号;松林院
- B5269 蘆州(初世ろしゅう・小金井こがねい、本名;小林太郎兵衛)1799-1864 66 講釈師;初め初代東流齋馬琴門、
 のち桃林齋東玉門、小金井北海と改名し小金井派の祖/のち蘆州と名乗る、
 [初世蘆州の別号] 琴花/玉梅/鏑井北海/小金井北海など
- B5270 盧舟(ろしゅう・渡辺わたなべ、友水ゆうすい男)1814-54 41 佐渡相川の地役人の家/山方役助を勤める、
 剣術家;尾張浪士鷺尾甚助門/無念流剣術を修得;印可を受、
 俳人;安田花狂門、父と妹の沖津も同門俳人、「俳諧風車」著、
 [盧舟(;)号)の名/通称/別号]名;鎮、通称;舎人、別号;自来舎/佳友
- B5271 鷺秋(ろしゅう・橋井はい) ?- ?1848-54 没 伊賀上野の俳人・古郷連、
 1843(天保14)「風の葉」「声の葉」編/46「類題花筏集」編、
 [鷺秋(;)号)の通称/別号]通称;佐奈具屋又三郎、別号;薄墨庵
- B5272 蘆洲(ろしゅう・井上いのうえ、鶴洲男)1800-? 1828 存 大阪の儒者/易学(家学);父門、醍醐家家臣、
 歌を嗜む、1828平田篤胤門、「左国一家言」「質問易話」「周易辨義」「読易鈔説」著、
 1828「神祇事項類雑記」著、
 [蘆洲(;)号)の名/字/通称/別号]名;観国、字;孟光、通称;主税ちから、別号;葦廬舎あしのや

- B5273 **鷺洲**(ろしゅう・上村うゑむら、勝之丞昌長男)1827-71⁴⁵ 土佐宿毛の儒者;国老伊賀氏固の家臣、
儒;郷儒の三宅大蔵門/のち安藝広島に遊学:頼山陽門の坂井虎山門、
帰途に備後福山の江木鱒水門/さらに伊勢の斎藤拙堂門、帰郷後私塾を開設、
1870土佐藩校致道館教授、「鷺洲詩文集」著、
[鷺洲(;号)の名/字/通称/別号]名;昌質、字;求信/彬卿ひんけい、通称;修蔵、別号;螻齋かくさい
- B5274 **蘆洲**(ろしゅう・植村うゑむら)1830-1889⁶⁰ 江戸の幕臣;代々与力、詩:大沼枕山門、
「詠史百絶」編/1851-54「浪華集」著/60「六名家詩鈔」編/62「蘆洲詩鈔」著、「蘆洲吟稿」著、
[蘆洲(;号)の名/字]名;正義まさよし、字;子順/俊利
- 5211 **露萩**(ろしゅう、通称;柳屋茂吉)?-? 江後期備後上下の俳人;風外と同族、
[揚雲雀眼にとまるより消えにけり](短冊)
- 蘆州(ろしゅう・添川) → 廉斎(れんさい・添川そえかわ、染色/儒者) B 5 1 0 8
 蘆洲(ろしゅう・青木) → 鳳毛(ほうもう・青木/広瀬、藩儒者) C 3 9 6 0
 蘆洲(ろしゅう) → 蘆国(あしくに・浅山、絵師) C 1 0 2 8
 蘆州(ろしゅう・小田) → 眞卿(しんけい・小田おだ/田、儒者) O 2 2 0 0
 蘆州(ろしゅう;号) → 法宣(ほうせん;法諱、真宗大谷派僧) C 3 9 1 1
 蘆州(ろしゅう・億岐) → 幸生(さちなり・億岐おき、国造/神職/歌) O 2 0 1 0
 蘆舟(ろしゅう・清月楼) → 蓬壺(ほうこ・高島、俳人) F 3 9 6 4
 路舟(ろしゅう;俳名) → 高助(2世たかすけ・助高屋、歌舞伎役者) C 2 6 9 1
 鷺洲(ろしゅう・赤尾) → 秀澄(ひでずみ・秀實・赤尾あかお、漢学/詩) M 3 7 3 9
 露秋(ろしゅう;号) → 龜(かめ・井上いづえ、歌人) T 1 5 5 1
 魯宗(ろしゅう;法諱) → 洞嶽(とうがく;道号・魯宗、曹洞僧) C 3 1 2 1
- B5275 **鷺十**(路時雨ろじゅう;号・恵乗えじょう;法諱)1715-90⁷⁶ 丹後橋立の真宗本願寺派真照寺住職、
俳人・与謝滞在中の蕪村と親交、1766(明和3)「はし立のあき」編、
没後大祥忌(3回忌)に「鷺十上人発句集」刊、[月雪の住居も与謝のわたし守]、
[鷺十(;号)の別号] 閑雲楼
- B5276 **露十**(ろしゅう・志村むら、別号;竹葉城)?-? 江中期安永1772-81頃江戸の俳人;晋阿門、
初め江戸点取俳諧の一漁座に属す/のち古例座に移る、1775「若眼鏡わかめがね初篇」編
- 芦充翁(ろじゅうおう) → 金毛(きんもう・芳沢、俳人) I 1 6 2 8
 露柔軒(ろじゅうけん・沢田) → 由健(ゆうけん・沢田さわだ、俳人) B 4 6 4 0
 蘆洲斎(ろしゅうさい) → 蘆国(あしくに・浅山、絵師) C 1 0 2 8
 鱸重常(ろじゅうじょう) → 重常(しげつね・鱸すずき、歌語研究) C 2 1 4 9
 魯洲碩愚(ろしゅうせきぐ) → 魯洲(ろしゅう;法諱・愚公;道号、臨濟僧) B 5 2 6 6
- B5277 **露宿**(ろしゅう・河久かわひさ、別号;一叢軒)?-? 江中期豊後臼杵城下唐人町の戯作者、
1782(天明2)「教訓嘶艸はなしぐさ」著/86「善悪業報因縁集」編
- B5278 **路春**(ろしゅん・隅田/角田すみだ、通称;江戸屋加兵衛)?-? 江前期大阪の商家/俳人:宗因門/西鶴門、
1656「玉海集」/73西鶴「哥仙大坂俳諧師」/73西鶴「生玉万句」第五梅雨第三句入、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入/1700笑種「俳諧師手鑑後集」入、
狂歌;1666「古今夷曲集」3首入、
[善光寺それにはあらず巡る日の牛に引かれて参る天神](夷曲集;303/丑の日天神参り)
[いかほども鐘撞けばつけ作り花](難波色紙;37/作り花は紙や布製の造花)
- 蘆渚(ろしよ・菅沼) → 斐雄(あやお・菅沼すがぬま、歌人) B 1 0 5 8
 鷺助(ろじよ) → 鷺助(さぎすけ・木村、俳人) B 2 0 3 5
- B5279 **露章**(ろしゅう) ? - ? 俳人;芭蕉門、1683其角「虚栗みなぐり」入
- B5280 **芦沼**(ろしゅう) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」入;
[打払ふ扇子にうつる蚊遣哉](卯辰集;234)
- C5262 **露昌**(ろしゅう) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」3句入
[庭に立つ身はしのぶ夜の姫水鶏ひめくひな](前句;骨まで濡るる雨あめ震動雷電じだらでん)
(二葉之松308、激しい風雨の中でも恋人の家の戸を叩く、震動雷電は大風雨)
- C5269 **露松**(ろしゅう) ? - ? 江前期江戸俳人;1693不角「二息」入
呂少(ろしゅう・沢田) → 員矩(かずのり・沢田さわだ、地誌家) M 1 5 3 8

- B5281 芦丈(ろじょう) ? - ? 尾張熱田俳人;祖月門、1703祖月「蓬萊嶋」入
- B5283 路丈(ろじょう・馬場ばば/or馬島うまし) ?-? 江後期化政1804-30頃越後高田の医者/俳人、
「もゝつか」編、[路丈(;号)の通称] 玄珍/玄陳
- B5284 蒨丈(ろじょう、別号;宝雪) ? - ? 江後期羽後秋田の俳人:御風門、
1851(嘉永4)蒨丈と改号、「さし柳」著
- B5285 蘆城(ろじょう・井上いづえ) 1831-1891 61 江戸の医者/俳人:「月二夜」著、
[蘆城(;号)の名/別号]名;玄泰、別号;稻掛庵
蘆丈(ろじょう・菅波) → 扶好(ふこう・菅波すがなみ/菅、茶山父/商家/俳人) B 3 8 8 6
蘆城(ろじょう・鐫木) → 雅直(まさなお・鐫木かぶらき、藩士/砲術/歌) O 4 0 9 4
- B5286 路春(ろしゅん・角田、通称;江戸屋加兵衛) ?-? 摂津の俳人・1656貞室「玉海集」入、
1676西鶴「俳諧史手鑑後集」入/「歌仙大坂俳諧師」入、狂歌:1666古今夷曲集3首入、
[善光寺それにはあらずめぐる日の牛に引かれて参る天神]
(夷曲集;303/丑の日の天神参り)
- B5287 露心(ろしん・青木あおき、別号;現在庵) ?-1874 江後期江戸の俳人、1862(文久2)「草わか葉」著
蘆臣(ろしん・佐々木) → 蘆臣(あしおみ・佐々木ささき、藩士/歌人) H 1 0 6 3
- B5288 魯人(ろじん) ? - ? 俳;1776樗良「月の夜」1句入、
[名月や更けても更けても宵の月](月の夜;22/いつまでも宵の明るさを失わない)
- B5289 魯人(ろじん・只野ただの) ? - ? 江後期安政1854-60頃陸前仙台の俳人、
「俳諧雑集」著、
[魯人(;号)の通称/別号]通称;丈輔、別号;鈍々舎
魯人(ろじん・西) → 周(あまね・西にし、洋学者) F 1 0 0 8
路人(ろじん) → 米居(べいきよ、俳人) 2 7 2 3
- B5290 露吹(ろすい) ? - ? 山城伏見の俳人;1690言水「新撰都曲」4句入、
[長き夜や来ぬ人によむ鐘の数](都曲;183/来ない恋人を恨みつづ数える)
- B5291 蘆水(ろすい) ? - ? 加賀鶴来の俳人;1691北枝「卯辰集」4句入、
[ひさごがちに蚊やりの細き住まみ哉](卯辰集;281、
壁や屋根の瓢箪に沿って煙の立上る我が家/源氏の夕顔の宿をもじる)
- B5292 芦錐(ろすい) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」1句入、
[板橋の継目継目や春の草](蓮実;153)
- 5204 鷺水(ろすい・青木あおき) 1658 - 1733 76 京の御幸町通二条上ル町の俳人:信徳or立圃門、
1691点者;1601-1704頃俳諧・雑俳点者の活動、元禄後期宝永1704-11頃浮与草子作者、
誹諧;1691「こんな事」編/92「春の物」著/95「誹諧寄垣諸抄大成」編/96「古事辨義」著、
1697「俳諧指南大全」「誹林良材」/98「誹諧新式」「万葉仮名遣」著/1700「三才節用集」編、
1700「誹諧御田植」(笠附集)/02「若ぬびす」編/05「和漢故事要言」著、
1725「誹諧をくるま」編、「誹諧節用集」「誹諧極秘伝抄」著、「誹諧八重垣抄」編、
「誹諧八重垣諸抄大成」編、「芭蕉翁諸国物語」著外編著多数、
1701「徒然草集説」(閑寿名)(;平家作者行長を行隆男に比定)、
浮世草子;1706「御伽百物語」07「諸国因果物語」08「新堪忍記」09「新玉櫛箭」、
1710「吉日鑑曾我」著外多数、
[八宝はっぼうの篆てん冥加みょうがあれ宿やどの春](轍士「花見車」入、
家宝の篆書付の香炉を点じ家運を祈る)、
[鷺水(;号)の通称/別号]通称;次右衛門、若松梅之助
別号;五省ごせい/歌仙堂/白梅園/梅園散人/三省軒、閑寿
- B5293 路水(ろすい) ? - ? 江戸雑俳点者、1702松淵「冠独歩行かんむりひとりあるき」入
- B5294 露水(ろすい) ? - ? 江戸雑俳点者、1702松淵「冠独歩行かんむりひとりあるき」入
- B5295 蘆水(ろすい・野口のぐち) ? - ? 江中期大阪の俳人;雑俳点者:
1723(享保8)評「五千句集」(:卯の菊月集に入)、1716「豹の皮」著
- B5296 蘆水(ろすい・鶴岡つるおか) ? - ? 江中後期天明1781-1830頃江戸下谷金杉の絵師、
1781(天明元)「隅田川兩岸一覽」画/82「歌仙百錦集」画、
[蘆水(;号)の通称/別号]通称;金次、別号;翠松齋

- 蘆水(ろすい・北沢) → 久興(ひさおき・北沢きたざわ/喜多沢、幕臣/歌人) J 3 7 2 8
 鷺水亭(ろすい) → 如水(にすい・鷺水亭、俳人) G 3 3 0 1
 露吹庵(ろすいあん) → 和及(わきゅう・三上みかみ/高村、俳人) 5 3 1 5
 露吹庵(2世ろすいあん) → 酉生(ゆうせい・山口やまぐち、和及門/俳人) I 4 5 6 5
 魯輔(魯助/魯介ろすけ・工藤/川崎) → 也魯斎(やろさい・川崎/工藤、藩士/儒者) E 4 5 3 9
 魯輔(ろすけ・渡辺) → 樵山(しょうざん・渡辺わたなべ、藩儒) S 2 2 5 6
 魯介(魯助ろすけ・東条/花笠) → 文京(ぶんきょう・花笠はながさ、歌舞伎作者/戯作) F 3 8 0 2
 鷺助(ろすけ・木村) → 鷺助(さぎすけ・木村きむら、俳人) B 2 0 3 5
- B5297 路青(ろせい・大澤おおさわ、通称;六兵衛)?-? 江前中期越中阿尾の旧家/俳人;
 路通(1649-1738)より俳号を授与される
 呂成(ろせい・宮城) → 玄魚(げんぎょ・梅素亭、絵師/狂歌) B 1 8 5 4
- B5298 蘆夕(ろせき) ? - ? 美濃の俳人;1689「あら野」1句入、
 [淋しさは櫃かの実落つる寝覚め哉](あら野;卷四/晩秋老の寝覚の闇の中の音)
- B5299 魯石(ろせき・以静堂、文弘堂)?-? 江中期伊勢白子の俳人:知石門、
 1726「桜美人」編/29「錦のつと」編、「名月」編
- C5240 露石(ろせき) ? - ? 江中期美濃の俳人、
 1750「雪の獅子」編、「重足袋」著
- 5205 魯石(ろせき・木村きむら、思藻男)1752-181463 三河吉田呉服町の商人;富商/俳人;木朶と交流、
 「萩の露」編、
 [魯石(;号)の名/通称/別号]名;正芳、通称;伊左衛門、別号;溪雲亭
 魯石(ろせき・山本) → 若麟(じゃくりん・山本/河村、絵師) G 2 1 4 1
 露石(ろせき・本庄) → 重政(しげまさ・本庄/本莊/泉、兵法/藩士) S 2 1 5 7
 露石(ろせき・倉手) → 潔雄(きよお・倉手くらて、和漢学者) U 1 6 2 3
- C5200 驢雪(ろせつ;道号・鷹瀬ようは;法諱)?-1558 越前曹洞僧:東林如春門、京建仁寺洞春庵に止法、
 東林如春に嗣法、越前弘祥寺/善応寺住持、1536(天文5)建仁寺279世、「驢雪和尚法語」著、
 「驢雪詩集」「驢雪和尚建仁寺入寺法語」、1551「古岳大和尚道行記」著、
 [驢雪鷹瀬の初号] 初道号;霖伯
- C5201 蘆雪(ろせつ・長沢ながさわ、名;政勝/魚、上杉和左衛門男)1754-9946 丹波篠山生/藩士長沢氏の養子、
 絵師;京で円山応挙門;駒井琦と双壁、1786(33歳)南紀に長期滞在し新画境を開く;
 無量寺・草堂寺に多くの水墨障壁画;「虎図」「竜図」「牛図」「虎溪三笑図」等々、「花鳥游魚図」、
 巖島奉納大絵馬「山姥図」、1794「宮島八景図」、「京洛年中行事図画帖」、「月夜山水図」(掛軸)、
 多趣多芸で自由奇抜な画法、一説に晩年広島藩主浅野家の御絵師、大阪藩邸で同僚に毒殺?、
 [蘆雪(;号)の字/通称/別号]字:氷計/引袖、通称;主計かづえ、
 別号;子緝/于緝/于洲/于漁者/漁者、法号;南舟院
- C5202 露節(ろせつ) ? - ? 伊賀上野俳人;1672宗房(芭蕉)「貝おほひ」2句入、
 [鎌できる音やちよいちよい花の枝](貝おほひ;九番左、
 ちよいちよいは切る擬音と褒め詞を掛る)
- 蘆雪(ろせつ;号) → 鉄外(てつがい;道号・呑鷺どんさく;法諱、曹洞僧) C 3 0 1 7
 蘆雪(ろせつ;号) → 嬾菴(らんあん;道号・大淳;法諱、曹洞僧) B 4 8 5 5
 蘆雪(ろせつ;号) → 竺瑞(じくずい;法諱、真宗僧/歌人) O 2 1 7 4
 魯雪(鷺雪ろせつ・金谷) → 春坡(しゅんぱ・金谷/高橋、商家/俳人) L 2 1 7 4
 魯拙(ろせつ・桂) → 誉恕(たかひろ・桂かつら/平、神職/国学) W 2 6 5 3
- C5276 蘆雪尼(ろせつに) ? - ? 江後期;歌人、古筆了仲(1820-91/鑑定家)の母、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(息子古筆了仲と共に入集)、
 [我が恋はすみゑにうつす松風のそよとばかりに音づれもなし](大江戸倭歌;恋1619)
- 5206 露沾(ろせん・内藤ないとう、名;義英/政栄、磐城平藩主義泰[風虎]2男)1655-173379 江戸赤坂溜池生、
 母;松平忠国女、兄の義邦夭折;1670従五下/下野守、父の寵臣家老松賀族之助により讒言、
 さらに弟義孝を父が溺愛;1676病弱を理由に父により1682廢嫡・幽閉/磐城平高月に退去、
 家中内紛;江戸麻布六本木に移住、以後風月に遊び俳人を優遇、1685(貞享2)父没;
 義孝(俳号;露江)が4代藩主、1695義英は高月に移住、1712(正徳2)義孝没;

義孝の嫡子義稠よしげが嗣、藩政は家老松賀族之助(俳号;紫塵)父子が専横、
 1718(享保3)藩主の義稠没(家老父子の毒殺説あり)、義稠に子なし;
 義英の息子豊松(政樹1703-66)が磐城平6代藩主となる;義英は後見人となり藩政代行、
 家老松賀父子を処断;藩政の混乱を鎮静し隠退、国学・歌;武者小路実陰門、
 俳人:宗因門、蕉門の其角や諸派と交流;[露沾門]を形成、芭蕉と親交、
 江戸俳壇の一角を占める:[猿蓑]春の冒頭に入句、
 「高月集」「のぼりつる」「露沾俳諧集」「露沾句抄」/1727「俳諧宮遷」著、
 一門の画俳書「倉の衆」序、追善集「都の山路」、
 [梅咲て人の怒りの悔ひもあり](猿蓑;卷四春卷頭句)、
 [梅咲てはや布施詣鹿島舟]
 [露沾(;号)の幼名/別号]幼名;五郎四郎義英よひで、別号;遊園堂/傍池亭

C5203 露泉(ろせん;号・宥義ゆうぎ;法諱)?-1699 讃岐三野郡笠岡の真言僧/俳人:
 讃岐訪問の才麿と交流、1698(元禄11)「網代笠」著

5207 露川(ろせん・沢さわ/渡辺、源内男)1661-1743⁸³ 伊賀友生の人
 名古屋札の辻の数珠商渡辺家婿養子、のち旧姓に戻る、
 俳人;季吟・蘭秀・荷兮門/1691芭蕉門/丈草・惟然と交流、1706隠居;
 俳諧専念;行脚と撰集編纂、美濃の支考と対立論争、門弟多数、茶;太郎庵門/画;黄朴孤門、
 1689「花虚木」93「流川集」95「やはぎ堤」98「記念題」1701「枕かけ」07「庵の記」10「船庫集」編、
 1715「飴日記」17「西国曲」19「華の春」22「北国曲」29「天浮橋」35「色の花」36「諷そめ」編、
 「俳諧露川伝」「水鶏塚」外多数、続猿蓑入、追善集;「秋の水」(馬州編)/7回忌「和須連寿」外、
 [柿包む日和ひりもなしやむら時雨](続猿蓑/青柿を熟すために包む)
 [露川(;号)の通称/別号]通称;藤屋市郎右衛門、別号;月空庵/月空居士/霧山軒/鱈山窟、
 法号;月空庵露川居士

C5263 芦撰(ろせん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」2句入、
 [討ち留めて義に水向むくる父の敵あは](二葉之松;290/敵の霊前にも水を手向ける)

C5204 蘆船(ろせん) ? - ? 江中期俳人、
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
 [名は昔富貴は給はず冬牡丹](しぐれ碑/発句)

C5206 呂川(ろせん・小有軒、高橋敬義/民則、紀伊国屋喜平治男)?-? 笠亭仙果(2世種彦1804-68)の父、
 熱田神宮領の庄屋/俳人

C5205 魯仙(魯僊/蘆川ろせん・平尾ひらお、三郎次男)1808-80⁷³ 陸奥弘前紺屋町の魚商小浜屋の主人、
 絵師;工藤五鳳・毛内雲林門/儒・経史;松田駒水門/国学;平田鍊胤門/書;松井如菜門、
 俳諧;内海草坡門、さらに画;百川学庵・今村溪寿門、1837家業を弟に譲渡、
 1855(安政2)松前を遊歴;極貧の中絵筆を奮う;郷土の風物に題材、
 尊皇思想家/寺子屋経営;子弟指導、蘆川と号し俳諧を嗜む:句集「笠の蝶」編、
 「家訓提要」「新論草藁」「鬼神論」「当末の遊久遍」著/1855「松前紀行」「箱館夷人談」著、
 1855「函館異国人物図」「松前風景」画、「函浦紀行」編、66「草木絵本」、「幽府新論」著、
 維新後;「谷の響」「合浦奇談」「宏斎抄誌」著、
 [魯仙(;号)の名/通称/別号]名;亮致けむね、通称;八三郎/初三郎、
 別号;宏哉[斎]/雄山/蘆川(俳号)

C5259 魯先(ろせん・姓;築、雁来庵)?- ? 江後期江戸築地鉄砲洲俳人;仲雁鳧門、江戸座点者、
 1848沾山7世「俳諧鱷はいかいけい」27点句入

路銭(ろせん・南楼坊:「南客先生文集」著)→ 南畝(なんぼ・太田) 3 2 3 3

路仙(ろせん:俳号) → 菊之丞(5世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者/戯作者) B 1 6 0 3

魯仙(ろせん;法諱) → 大忍(だいにん;道号・魯仙、曹洞僧/詩) T 2 6 8 4

魯瞻(ろせん・小林) → 筋堂(せつどう・小林こばやし、儒者) L 2 4 3 3

露川(ろせん・鈴木) → 金谷(きんこく・鈴木すずき、藩士/蘭学者) Q 1 6 9 4

蘆泉子(ろせんし) → 見休(けんきゅう・松本まつもと、有楽流茶人) I 1 8 4 2

C5207 路草(ろそう・久保倉くぼくら、別号;乙孝おとたか)?-? 外宮権禰宜の師職/貞享元禄1688-1704頃の俳人;
 芭蕉門、1698「続猿蓑」入、

1700「一幅半ひとのはん」編(自邸逗留の芭蕉の一幅半の袖の衣の縁の書名;芭蕉との歌仙等入)、
[食時めしどきやかならず下手の鉢扣はちたき](続猿蓑;卷下、
冬11月13日空也忌から年末まで京空也堂の僧が念仏和讃を唱え瓢を叩き夜間に歩く)
[路草(;号)の名/通称]名;盛僚、通称;右近/路草亭/路草庵

C5208 呂叟(ろそう・小坂こさか) 1769 - 184880 下総の俳人;鳳朗門、江戸住、
1842「家つと集」43「尻長鳥集」44「しもころも」編、
[呂叟(;号)の名/通称/別号]名;教忠、通称;清左衛門、別号;露草庵/露草園

魯蔵(ろぞう・堀井) → 簡亭(菅亭かてい・堀井ほりい、儒者) R 1 5 4 5
魯蔵(ろぞう・加藤) → 鹿洲(ろくしゅう・加藤/本木、藩士/儒者) 5 2 9 1
路草庵(ろそうあん) → 路草(ろそう・久保倉、乙孝/神職/俳人) C 5 2 0 7
露草庵(ろそうあん・露草園) → 呂叟(ろそう・小坂こさか、俳人) C 5 2 0 8
蘆箏斎(ろそうさい) → 心前(しんぜん・蘆中、僧侶/連歌師) 2 2 4 5
露桑堂(ろそうどう) → 馬耳(ばに・佐藤さとう、本陣役人/俳人) E 3 6 3 6
蘆村(ろそん・新井) → 直務(なおつか・新井あらい、里正/国学者) K 3 2 8 9
蘆村(ろそん・鱸) → 有鷹(ありたか・鱸すずき、宿屋経営/国学) H 1 0 7 8
蘆村(ろそん・南城) → 蘆村(あしむら・南城なんじょう、和漢学者) I 1 0 1 9
魯台(ろだい) → 延年(えんねん・山口墨山・余、篆刻/俳) C 1 3 1 9

C5209 路宅(ろたく・通称;山代屋清兵衛)?-? 江後期文化1804-18頃安藝広島島の俳人:篤老門、
同門で雨組結社、1807「鮎汲集」(雨組で共編)/10「反古供養」、12篤老「巖島奉納集」撰、
[跡を来る声新しや鉢叩](1812「やまかつら」入)/[夜いつはい月をかゝへて鳴蛙](短冊)

露地和尚(ろぢおしょう) → 長意(ちやうい;法諱、天台僧/座主) H 2 8 1 5
露竹(ろちく・平野) → 庸修(つねなが・平野、医/暦算/史家) C 2 9 8 5
魯竹(ろちく・風興坊) → 甫寛(ほかん・近藤、儒者/俳人) C 3 9 8 1
露竹庵(ろちくあん) → 文晔(ぶんぎやう;法諱・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
芦竹庵(ろちくあん) → 流美(りゅうび・間野まの、俳人) F 4 9 4 6
露竹斎(ろちくさい) → 正章(まさあき・朝岡、儒/故実/俳) B 4 0 0 5
蘆竹斎(ろちくさい) → 烏川(うせん、俳人) C 1 2 9 8
露竹舎(ろちくしゃ) → 雪成(初世せつせい/ゆきなり・染跡園、俳) E 2 4 4 6
魯竹窓(ろちくそう;書齋名) → 鵬子(かかし・岡橋、狂俳文) G 1 5 3 4

C5210 蘆中(ろちゅう・古沢ふるさわ) 1701-174444 京の俳人:知石門/和漢聯句;四時堂其諺門、
1742「園の莖立ち」著/44「歳旦集」「俳諧袖匏集」編、「筆の結葉」「狂連千句」著、
[蘆中(;号)の別号]牛麿/芸暉堂うんきどう

5208 魯中(ろちゅう・富士松ふじまつ、加賀八太夫、鶴賀若狭掾?) 1797-186165 新内節;富士松家を再興

蘆中庵(ろちゅうあん) → 心前(しんぜん、僧侶/連歌師) 2 2 4 5
露柱庵(ろちゅうあん) → 一字(いちじう・俳人) F 1 1 9 8
露柱庵(4世ろちゅうあん) → 烏酔(ちやうすい・白井、俳人) 2 8 2 4
露柱庵(5世ろちゅうあん) → 雨塘(うとう・下河原、俳人) 1 2 7 6
露柱庵(ろちゅうあん) → 白雄(しらお・加舎かや、俳人) 2 2 1 4
露柱庵(ろちゅうあん) → 湖十(3世こじゅう・深川、2世養子/俳人) C 1 9 8 4
露柱庵(ろちゅうあん) → 春鴻(しゅんこう・美濃口、俳人) 2 1 5 7
露柱庵(ろちゅうあん) → 政二(まさじ・佐々木、藩士/俳人) C 4 0 6 4
蘆中人(ろちゅうじん) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
露柱堂(ろちゅうどう) → 烏酔(ちやうすい・白井しらい、俳人) 2 8 2 4

C5256 路衛(ろちやう) ? - ? 備後三原の俳人;1768無名庵「鳳節」入

C5211 露鳥(ろちやう・英はなぶさ) ? - ? 京の歌舞伎作者(合作者)、1753「中富三大臣」、
1759「けいせい花鳥山」/60「忠臣四十八字蔵」64「源平通宝丸」65「惟喬親王魔術冠」著

C5212 路蝶(ろちやう・瀬川せがわ、桃花亭)?-? 歌舞伎役者:3世菊之丞門、
狂歌「瀬川仙女追善集」

C5213 蘆朝(ろちやう・水野みずの/本姓;源/修姓;水、元長男) 1748-183689 幕臣旗本;江戸浅草鳥越の生、
西丸御小姓組入/1767家督嗣;千4百50石、幕府御使番/大坂目付、

絵師;歌川豊国or北尾重政門/俳人;谷素外門、肉筆美人画・俳諧絵本を著作、
 1793「誹諧世吉の物競」画、「盲文画話」「俳諧絵本多能志美種」著、
 [廬朝(;)号)の名/通称/字/別号]名;元敏/元休、通称;敬次郎/小十郎、字;美卿、
 別号;路眺/路てう/水廬朝/長久斎/清線館/猿水洞/攀鱗斎/鳥巷斎/長久散人/長久叟、
 卿山、入道号;源元休、法号;元休院

魯町(ろちよう・向井) → 元成(げんせい・向井、儒/医/俳) E 1 8 2 7

露朝(ろちよう・毛利) → 斉熙(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作) I 3 2 0 7

路鳥斎(ろちようさい) → 文十(ぶんじゅう・高橋/宇陀野、俳人) F 3 8 7 2

C5214 魯直(ろちよく・中島なかじま) ? - ? 江中期豊前中津の郷土史家、
 1765「豊前故城誌」「両豊記」著

魯直(ろちよく・岡橋) → 鵬子(かんし・岡橋、俳人/詩文) G 1 5 3 4

魯直(ろちよく・森) → 春濤(しゅんとう・森もり、詩人) K 2 1 3 2

5209 路通(露通/呂通ろつう・斎部いむべ/八十村やそむら) 1649-1738長寿90 生地に諸説;京・美濃・筑紫など、
 神職の家に生/若くして僧形、1674乞食僧として漂泊行脚/俳人;1684近江膳所で芭蕉門、
 1688江戸芭蕉庵近くに住、1689細道の旅の芭蕉を敦賀に迎え大垣に送る、
 1690不祥事で奥羽へ、1691京で「俳諧勸進牒」出版、奔放で芭蕉の勘気に触れ疎遠、
 晩年勘気を解かれ1694遺言で門人となる、宝永1704以後は京に定住/22大阪に移住、
 1689素堂亭観菊会参加/芭蕉庵十三夜句会参加、91「月山句合」95「芭蕉翁行状記」編、
 1696「桃舐集」序(長水編)/99「彼岸の月」編、1691北枝「卯辰集」4句/1702轍士「花見車」入、
 [芭蕉葉は何になれとや秋の風](猿蓑)、
 [路通(;)号)の名/通称]名;伊紀これり、通称;与次右衛門

C5253 呂通(ろつう) ? - ? 広島蕉門系俳人;1705支考「三日歌仙」入、
 1706涼兔「潮とろみ」/支考「東山万句」入

六花庵(初世ろっかあん) → 乙児(おつじ・松木、俳人) 1 4 8 7

六花庵(2世ろっかあん) → 官鼠(かんそ・山南、乙児門俳人) E 1 5 1 0

六花庵(3世ろっかあん) → 雁赤(がんせき・神田、俳人) E 1 5 0 4

六花園(ろっかえん) → 忠成(ただしげ・山根やまね、藩士/俳人) P 2 6 5 9

C5264 六角(ろっかく) ? - ? 江前期出羽庄内俳人;1691不角「二葉之松」入
 [夫つまの留守心に錠をおろす閨ねや](前句;あまり淋しく文ぶみの徒書むだがき、二葉之松445)

六角(ろっかく) → 親経(ちかつね・藤原、廷臣/詩文) B 2 8 2 3

六角左衛門尉(ろっかくさえものじょう) → 氏頼(うじより・六角、歌/連歌) 1 2 5 9

六角寂濟(ろっかくじやくさい) → 光益(光増みつます・土佐/藤原、絵師) E 4 1 9 1

六角中納言(ろっかくちゅうなごん) → 親経(ちかつね・藤原、廷臣/詩文) B 2 8 2 3

六花庵(初世ろっかあん) → 乙児(おつじ・松木/矢入、商家/俳人) 1 4 8 7

六花庵(2世ろっかあん) → 官鼠(かんそ・山南やまなん、俳人) E 1 5 1 0

六花庵(3世ろっかあん) → 雁赤(がんせき・神田、俳人) E 1 5 0 4

六花苑(ろっかえん) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7

六華亭(ろっかてい) → 盤古(ばんこ・六華亭、俳人) H 3 6 5 6

六花亭(ろっかてい) → 六花亭富雪(ろっかていとみゆき、絵師) B 4 9 6 4

六花堂(ろっかどう) → 東柳(とうりゅう・六花堂、俳人) I 3 1 2 1

六華坊(ろっかぼう) → 子鷹(しょう・松村、俳人) Q 2 2 6 4

六氣所(ろっきしょ) → 碩布(せきふ・川村、俳人) 2 4 1 1

六橋園渡(ろっきょうえんわたる) → 渡(わたる・六橋園ろっきょうえん、狂歌作者) 5 3 4 5

六極園(ろっきよくえん) → 南北(なんぼく・東西庵、狂歌/合巻) 3 2 3 4

C5215 鹿谷(ろっこく・勝田かつた、名;濟、東門男) 1777-184973 讃岐丸亀藩士の家/学問;父門、儒者、
 儒;江戸の井上四明門、私塾を開設、学僧雲室の推挙で1826諏訪高島藩校長善館の訓導、
 侍講/教授に昇進、茶事・書画を嗜む、亀田鵬斎・大田南畝・大窪詩仏・菊池五山と交流、
 原五岳の甥、「鹿谷詩文集」「鹿谷隨筆」「鹿谷樵話」「逸史考」「姓名考」/1829「猷喧野語」著、
 [鹿谷(;)号)の字/通称/別号]字;寧卿、通称;九一郎、別号;梅月居、正履せいの父

- 麓谷(ろくく・谷) → 麓谷(ろくく・谷、儒/詩人) 5 2 8 0
 六壁庵(ろっぺきあん) → 康工(こうこう・沢屋、俳人) B 1 9 0 5
- C5216 鷺汀(ろてい) ? - ? 尾張鳴海の俳人;1689「あら野」2句入、
 [雪の日や川筋ばかりほそぼそと](あら野;卷一;雪の平原をよぎる一筋の川)
- 5210 露程(ろてい・貝田かだ) ? - ? 元禄1688-1704頃狂歌作者・狂歌咄、
 1698「諸国落首咄」著?
- C5217 蘆汀(ろてい・伊藤いとう/旧姓;川越) 1776-1821⁴⁶ 儒者;伊藤竹坡の養嗣子/伊藤梅宇家5代目継嗣、
 備後福山藩校弘道館の教授、上京し伊藤宗家の家学を補助、
 「家伝記」、「蘆汀遺稿」、川越光崇(備後福山藩士)の弟、伊藤長文ちやうぶんの父、
 [蘆汀(;号)の名/字/別号]名;良炳、字;文佐、別号;蘆東、諡号;棗恭先生
- C5218 蘆堤(ろてい・松岡まつおか、名;唯懿、重則2男) 1815-86⁷² 備後市村の儒者;小寺廉之・藤井暮庵門、
 易学に通達、諸国歴遊/安政1854-60頃帰郷;備後福山に開塾;子弟教育、諸芸を好む、
 簫・琴に長ず;京の近藤宗悦の印可を受、狂歌も嗜む、
 「蘆堤詩集」「蘆堤狂歌集」「雑著」著、
 [蘆堤(;号)の幼名/字/通称]幼名;兵次郎、字;文徳、通称;退蔵
- C5219 落亭(ろてい・菊池/菊地きくち) 1837- 1900⁶⁴ 陸前仙台藩士;江戸で文武を修学、
 安政1854-60頃再び江戸で医を開業/西洋式兵法を修学、尊攘派に加担;幽閉、1865脱藩、
 蝦夷松前で医業、のち帰藩;戊辰戦争に従軍し官軍と戦闘/藩論が恭順に転ず;
 武士を捨て生糸・茶の貿易を行う/仙台に帰り養蚕伝習・機織業振興に尽力、
 小笠原の開拓にも功績、1856「蝦夷地養生考」著、
 [落亭(;号)の名/字/通称/別号]名;修文、字;公郁、通称;弥太郎/虎太郎、別号;謙斎
- 蘆汀(ろてい・井上) → 常之(つねゆき・井上/小原、端木/商家/歌/画) E 2 9 1 5
 鱸亭(らうてい・鈴木) → 秀外(しゅうがい・鈴木ずき、商家/俳人) W 2 1 8 2
 露底(ろてい・谷) → 景井(かげい・谷たに、医者/国学) K 1 5 7 5
 露底軒(ろていけん) → 宗好(そうこう/むねよし・岡本、歌人) B 2 5 4 9
- C5220 蘆笛(ろてき・鹿島かしま、貞喜男) ?-1733 摂津伊丹の俳人;才磨門、
 1703「塵の香」編-05「留主ごと」編、1705「伊丹酒壺五歌仙いたみさかつぼのごかせん」入;百丸序
- C5221 蘆笛(ろてき・雄崎おさき) ? - ? 大阪の俳人;雑俳点者;笠付点の指導的地位、
 1843「折句机の塵」「こと葉の種」編/44「冠附玉の光」編/45「花むらさき」「折句六玉川」編、
 [蘆笛(;号)の別号] 戯坊/竹窓
- 露滴齋(ろてきさい) → 斉恒(なりつね・松平、藩主/茶/俳人) H 3 2 6 4
- C5265 芦掉(ろとう) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
 蘆東(ろとう・伊藤) → 蘆汀(ろてい・伊藤/川越、藩儒者) C 5 2 1 7
- C5222 露堂(ろどう) ? - ? 江前中期備中の俳人;盤古/除風らと親交、
 1701「追鳥狩おとがり」舎羅と共編/舎羅行脚の句を編集、1702轍士「花見車目録」入
- C5223 魯堂(ろどう・那波なば、祐胤男) 1727-89⁶³ 播磨姫路の儒者;1743京の岡白駒門;徂徠学修学、
 京の聖護院村に草堂を設け教授/1756聖護院宮忠誉法親王の侍講、
 師白駒より破門;朱子学に転ず、京で開塾、1778阿波徳島藩儒;60赴任;徳島朱子学の基礎、
 宋学に傾き性理の説を主唱/古学を非難、
 1764「東遊篇」、「学問源流」「魯堂文集」「道統問答」「左伝標例」著、「春秋左伝」30巻校本、
 「魯堂先生手録」「魯堂先生学則」著
 [魯堂(;号)の名/字/通称/別号]名;師曾、字;孝卿、通称;与蔵/主膳、別号;鉄硯道人
- C5224 魯堂(ろどう) ? - ? 大阪絵師;戯画、1796「今様俄選」編/序/狂画、
 1796嘶本「雅興春の行衛」画、99「新製欣々雅話」序
- C5225 臚童(ろどう・正木まさき、名;守) 1765-? 1844^存 肥前長崎の俳人、
 1833(天保4)「寝ころも集」-44「眼かけ集」編
- C5226 芦道(ろどう・馬屋原まやはら、別号;保庵、野橋男) ?-? 江中期備後福山の俳人、父追善集「雪の梅」編
- C5227 魯堂(ろどう・松本まつもと/本姓;源、秀処男) 1785-1838⁵⁴ 代々羽前米沢藩士/儒;神保蘭室門、
 父に随い江戸藩邸に住、古賀精里・穀堂・頼杏坪と交流、1822家督継嗣、藩儒;世子伴読、
 藩校都講/1723(文政6)米沢新田藩の家老/25藩主上杉勝義の駿府加番に随行/28城代、

1837致仕、詩人；「魯堂詩文集」著、1818「自怡録」編、「玄鑑録」「猷芹録」「丹泉日記」著、
「遼東豕」「豆相自遊紀行」著、
[魯堂(；号)の名/字/通称/法名]名；秀美/肅、字；春雍、通称；徳之助/彦左衛門、
法名；松峯

C5279 **魯道**(ろどう；法諱、岡本善作3男)1791-1844⁵⁴ 出羽平田郷漆曾根の大庄屋の生、
1797(7歳)酒田亀ヶ崎の曹洞宗青原寺住職金龍門、加賀大乘寺の潜龍・天龍2師に参禅、
1817(27歳)師金龍を嗣；青原寺住職、(41歳)飽海郡新田目村の曹洞宗梵照寺住職、
(51歳)大本山能登総持寺の輪番、能書家、国学者/歌人；庭田重嗣・鈴木重胤門、
商家越前屋の白崎一実(正たじ)と流浪の服部菅雄を援助、
梵照寺境内に佐藤一斎筆[圓通魯道禅師塔碑]あり、
[魯道の号] 円通/壁観/蛙磨かわずまろ

秀美(しゅうび/ひでみ・松本)→ 魯堂(ろどう・松本まつもと/源、藩儒/城代) C 5 2 2 7
露堂(ろどう) → 氷花(ひょうか・露堂、俳人) F 3 7 1 5
魯堂(ろどう；号) → 香具屋主人(こうぐやしゅじん、文筆家) I 1 9 3 7
魯堂(ろどう・山口) → 延年(えんねん・山口墨山・余、篆刻/俳) C 1 3 1 9
魯堂(ろどう・下里) → 延平(のぶひら・下里、国学/歌) D 3 5 0 6
魯堂(ろどう・碓井) → 梅嶺(ばいれい・碓井うすい、酒造業/儒/俳) C 3 6 3 2
魯道(ろどう・内田) → 内新好(ないしんこう/うち、俳人/戯作者) 3 2 5 3
魯堂(ろどう・釧) → 雲泉(うんせん・釧くしろ、絵師) D 1 2 8 7
魯堂(ろどう・杉村) → 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7
魯堂(ろどう；号) → 場山(ようざん；道号・楚軾；法諱、臨濟僧/勤王) B 4 7 0 6
魯堂(ろどう・百瀬) → 吉員(よしかず・百瀬ももせ、国学/歌人) P 4 7 6 1
鑪堂(ろどう；号) → 塞淵(そくえん；法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 4 5

C5228 **ロドリゲス**(Ioaño Rodriguez)?-1634? ポルトガルのセルナンセラ出身、
1560イエズス会入会/77来日、豊後コレジョで学習/91秀吉謁見/家康との交渉、
1610マカオに追放、語学書「日本大文典」「日本小文典」著

魯鈍翁半空(ろどんおうはんくう)→ 文京(ぶんきやう・花笠、歌舞伎作/合巻) F 3 8 0 2
魯鈍斎(ろどんさい) → 利明(としあき・本多/本田、経世家) L 3 1 9 9
魯鈍斎(ろどんさい) → 正恭(せいきやう・吉田よしだ、医者/蘭学) H 2 4 9 3
魯南(ろなん・野) → 桃源(とうげん・人見ひとみ/野、幕府儒官) D 3 1 4 2
露入道(るにゅうどう) → 湖十(こじゅう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1
露入道(るにゅうどう) → 湖十(3世こじゅう・深川、2世養子/俳人) C 1 9 8 4
露仁斎(るにんさい) → 雪鼎(せつてい・月岡つきおか/木田、絵師) E 2 4 6 0
芦馬(ろば) → 土芳(どほう・服部/木津、藩士/俳人) 3 1 5 7

C5229 **芦亮**(ろばい) ? - ? 大阪の俳人、

倡和・知童と三吟歌仙；1691賀子「蓮の実」19句入、
[蓮の実の飛ぶ間ま度絶とだえて夕ゆふ哉](蓮実；第四歌仙の発句91)

C5230 **呂梅**(ろばい・桂川かつらがわ) ? - ? 俳人；雑俳点者；1729?書肆「玉磨」笠付評入

C5231 **露白**(ろはく) ? - ? 京の俳人；

1683高政亭で三千風らと一座俳席；「日本行脚文集」入

C5232 **魯白**(ろはく・佐藤さとう)1744 - 1823⁸⁰ 筑前福岡本町の商人、1768福岡町年寄となる、
俳人；1793蝶夢門、1797「遠山の雪」/1811「月のひかり」/「後のひかり」/「筑紫貝」編、
追善集「磯の藻屑」(門人五橋編)、

[魯白(；号)の名/通称/別号]名；繩直、通称；綿屋太左衛門、別号；幾霜庵、法号；皚誉魯白

C5233 **廬白**(ろはく) ? - ? 江中期京の俳人；關更門、1777江涯「假日記」1句入、
[夏近き日かげに麦の脊丈せけ哉](假日記；91/伸びた麦の影を移す晩春の景)

C5234 **鷺白**(ろはく・黒岩くろいわ)1746- 1824⁷⁹ 上州草津の温泉宿主人/俳人；1773關更門、
白雄来訪時にその一派にも参加/1790以来一茶と交流、十返舎一九・鈴木牧之とも交流、
1809「古今綾囊」編、「秘伝書」「芳草帖」著、
[鷺白(；号)の通称/別号]通称；忠右衛門、別号；芳草舎/老狸窟/雪嶺庵

- 路博(ろはく/みちひろ・前田)→ 道済(みちなり・前田また、藩士/記録) C 4 1 1 4
 魯伯(ろはく・中原) → 三治(みはる・中原、神道家/教育) F 4 1 7 5
- C5235 芦帆(ろはん・高津たかつ) ? - ? 大阪の俳人、1723(享保8)娘の喜佐没(23歳)、
 娘に寄せられた才磨派の追悼句を編纂:1834(享保19)「捨火桶すてひおけ」編
 蘆帆(ろはん・渡辺) → 直昌(なおまさ・渡辺/渡部、医者/歌) C 3 2 4 1
 芦父(ろふ・浪速) → 昌喜(-熹まさよし・入江、国学者)
 露布庵(ろふあん) → 菊童(きくどう・峽田はざまだ、雨夜庵、俳人) J 1 6 2 8
- C5236 呂風(ろふう・水西舎すいゆうしや) ? - ? 江前期越中井波の俳人;浪化集団に属す、
 「浪化日記」1699一門百韻入
 蘆風(ろふう・吉田;歌舞伎作者)→ 十郎兵衛(2世じゅうろべい・吉田、歌舞伎役者) I 2 1 4 7
 驢風(ろふう・川喜田) → 重盈(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) O 2 1 1 0
 魯風(ろふう;俳名) → 南北(4世なんぼく・鶴屋、歌伎作者) 3 2 3 5
 芦風坊弁阿(ろふうぼうべんあ)→ 一叟(いっそう・並木、俳人) B 1 1 5 6
- C5237 芦文(芦蚊ろぶん・佐野さの) ? - 1725? 美濃関の俳人:蕉門/丈草門、
 師丈草没後は支考・露川門、美濃関の三羽鳥の1(角呂・箕十と)、
 1688(元禄元)「つばさ」・1718(享保3)「ふではじめ」編、1700角呂「雪月花集」百韻入、
 1705「国の華」支考らと共編、
 [芦文(;号)の通称/別号]通称;佐左衛門、別号;一忍堂
- C5238 魯文(ろぶん) ? - ? 大阪の俳人;1773几董「明鳥」1句/76「続明鳥」1句入、
 [やぶ入りの児ちごに馳走や釣小ぶね](あけ鳥;230/魚を釣って食べさせようという親心)
- C5239 魯文(ろぶん・豊田とよた) ? - ? 浄瑠璃作者;
 1779源平藤橘(森羅万象・森島中良)・吉田鬼眼ら合作「驪山比翼塚めぐりよくづか」の筆者
- C5241 魯文(ろぶん・仮名垣かながき、姓;野崎のさき、魚屋左吉の長男)1829-9466 江戸京橋の魚屋の生、
 学;父門、火災で家傾く/1837新橋竹川町鳥羽屋に丁稚奉公;
 同居の通人香以こう山人より俳諧指導、戯作;花笠文京門;号;英魯文、放蕩の末放浪生活、
 1853湯島妻恋町住;演劇取材の草双紙著、鈍亭魯文の名でかわら版・流行歌も執筆、
 1860仮名垣に改名;「滑稽富士詣」刊で評判、
 文久1861-64頃三題嘶の粹狂連を結成(;山々亭有人・河竹新七[黙阿弥]・三遊亭円朝と)、
 維新後;開花期の風俗を描く花形作家/1877「仮名読新聞」創刊、転じて神奈川県庁に出仕、
 「安政風聞集」/1860「滑稽富士詣」61「万国人物図絵」「童絵解おきなえとき」/63「粹興奇人伝」共編、
 滑稽本;1870「西洋道中膝栗毛」71「安愚楽鍋」72「胡瓜遣きゆうりづかい」外著多数、
 [仮名垣魯文(;号)の名/別号]名;兼吉/庫七/文蔵、
 号;英魯文はなぶさろぶん/鈍亭/野狐庵/猫々道人みょうみょうどうじん/日本坊/金花猫翁/和堂開珍、
 玩仏居士/金屯道人/野狐庵黒蔵/慕々山人/仁田山仁田次/妻恋閑人/妻恋淫士、
 菊亭文理/蟹廬屋主人/当書山人/当垣慕文/大珍坊阿奈垣主人/和堂弥海阿/鈍通子、
 鈍道人/骨董屋、法号;仏骨庵独魯草文
- 露分庵(ろぶんあん) → 千之(せんし・望月/大原、商家/俳人) F 2 4 6 5
 呂平(ろへい・馬屋原) → 重帯(しげお・馬屋原、史家/教育) D 2 1 3 4
 魯平(ろへい・ト田) → 清明(きよあき・ト田しめだ、国学者) U 1 6 4 9
 蘆平(ろへい・大平) → 蘆平(あしひら・大平おおだいら/鎮西、神職/詩歌) H 1 0 2 5
 路甫(ろほ・河浪) → 質斎(しつさい・河浪かわなみ/野田、儒者) E 2 1 8 9
 盧甫(ろほ) → 友輔(ともすけ・久世くぜ、心学/俳人) P 3 1 6 1
 盧甫(ろほ・神野) → 曙庵(しやあん・神野/柴田、美濃派俳人) G 2 2 4 3
- C5266 露峯(ろほう) ? - ? 江前期江戸の俳人;1691不角「二葉之松」入
 路方(ろほう・月夜房) → 月夜房(つきよぼう、路方、狂歌作者) 2 9 6 4
 路芳(ろほう・養老館) → 養老館路芳(ようろうかんろうほう、林、狂歌) B 4 7 6 6
 魯峰(ろほう;初道号) → 高峰(こうほう;道号・東峻/東峻、臨濟僧) L 1 9 2 5
 魯宝(ろほう・中村) → 鼎山(ていざん・中村/前川、書肆・俳人) 3 0 9 3
- C5271 鷺房(ろぼう) ? - ? 撰津の俳人、
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、

[鉄の柄に小春の汗や麦の床]

路芳斎林老(ろほうさいりんろう)→ 養老館路芳(ようろうかんろう、狂歌) B 4 7 6 6

- C5267 露卜(ろぼく) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
- C5242 蘆本(ろほん・浦田うらた)1664 - 173673 美濃の俳人;木因門/伊勢山田に住、涼菟門、乙由と共に伊勢派の中心、「第四伊勢墨なをし」編、1717師涼菟追善集「其暁そのあかつき」編、19涼菟句集「それも応」編、1694「枯尾花」98「続猿蓑」1句入/1739原松「星月夜」(;没後入)、[燕つばらの居るなじむ空やほとゝぎす]、「続猿蓑/卷下/季節と人々の関心の推移」[蘆本(;号)の字/通称/別号]字;相雄まさお、通称;藤兵衛、別号;東向斎/葎(律)門亭
- C5243 鷺眠(ろみん・後藤ごとう) ? - ?(文久1861-64頃没) 越後水原の俳人、1847「すかみの」52「そでの羽」編、[鷺眠(;号)の通称/別号]通称;嘉兵衛/嘉一兵衛、別号;霽庵せいあん/霽々庵/日日庵 芦明庵(ろめいあん・岡本) → 五休(ごきゅう・岡本/大岩、俳人) M 1 9 0 7 芦明庵(ろめいあん・海老原) → 新甫(しんぼ・海老原、揚屋主人/俳人) 2 2 7 8 魯黙(ろもく・安東) → 省庵(せいあん・安東、藩儒) 2 4 0 2
- C5244 廬門(ろもん・岡崎おかざき/本姓;平、信房男)1734-8754 儒者・詩人:伏見の竜草廬門、群書を涉猟、詩に長ず、多病のため生涯仕官せず、1771「詩学道標」78「題画詩選」79「麗沢詩集」編、1780「尺牘道標」著/82「本朝近世律詩選」編/86「平安風雅初編」著、「句題詩選」「韻譜」著、「古今讃彙」「詩苑適芳」「詩学摘要」「日本詩礎」「廬門詩集」著、外編著多数、「彭斎遺稿」、[廬門(;号)の名/字/通称/別号]名;信好、字;師古、通称;平太郎、別号;彭斎ほうさい
- C5245 露友(ろゆう) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」1句入、[翡翠かはせみのとまるか撓たはむ岸柳](蓮実;341/枝の撓みは翡翠がとまったからか)
- C5246 露融(ろゆう・村松むらまつ)1711- 179181 甲斐八代郡平塩岡の製紙業;將軍家御納戸御用、国学者/俳人、「ちよのふる道」著、定国(開業医)の父/進(白瀬南極探検隊員)の祖父、[露融(;号)の名/通称/別号]名;定好さだよし、通称;与左衛門、別号;楮堂/好山亭
- C5247 路友(ろゆう・平賀屋ひらがや)? - ? 江幕末期美濃関の書肆業/俳人;春湖と交流、1854「花の林」編、「善光寺奉納集」著、[路友(;号)の通称/別号]通称;平賀屋定右衛門、別号;露牛/清美軒 芦友(ろゆう・安藤) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、戯作者) H 1 5 0 8 露有(ろゆう・羽佐間) → 宗玄(そうげん・羽佐間はざま、医者) H 2 5 1 8 魯幽(ろゆう・梅本) → 敏鎌(とがま・梅本うめもと/岡田、売薬/歌) U 3 1 3 6 魯游(ろゆう・神野) → 曙庵(しよあん・神野/柴田、美濃派俳人) G 2 2 4 3 魯璵(ろよ・朱) → 舜水(しゆんすい・朱しゆ、儒者/水戸学祖) 2 1 5 9
- C5248 露葉(ろよう・桂影舎) ? - ? 大阪の俳人:楚石坊門、1804「葛濃阿楚飛」14「八千代の春」17「富士詣」19「蔦のあめ」編、「俳諧心の枝」著 露葉(ろよう・諏訪) → 忠晴(ただはる・諏訪すわ、藩主/詩人) F 2 6 6 5
- C5249 露笠(ろりゅう) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」入 [山茶花さんざかも落てや雪の散椿ちりつばき](続猿蓑;卷下/さざんかと早咲椿が雪に交る) 魯竜(ろりゅう;法諱) → 靈潭(れいたん;道号・魯竜、曹洞僧) 5 1 5 1 魯竜(ろりゅう・池内) → 蓴(ぬなわ・池内いけうち、藩士/歌人/茶) 3 4 1 4 露笠(ろりゅう・工藤) → 野松(やしゅう・工藤くどう、藩士/俳人) 4 5 7 0 魚寮(ろりょう) → 大潮(だいちよう・元皓、黄檗僧/儒者) B 2 6 8 8
- C5250 芦路(ろろ・尾谷おだに、通称;可左衛門、別号;昨飽庵)1701-7373 安藝大竹の俳人:野坡門、福岡の杏廬と親交、1748太宰府天満宮へ「五書転」を奉納、1762「四季の松」編(杏廬序)、「大竹集」著、大竹に野坡の浅生塚を建立、1750素蝶「ねれ若葉」/52野坡追善「十三題」入、1754武然「むくけつか」/56岱阿「思亭」/68蝶夢「かちたゝき」入、[浪花江なにはえや濤みおにとりつく五十から](野坡追善「十三題」)
- C5251 路々(ろろ) ? - ? 長崎俳人;1777江涯「仮日記」1句入、其両(きりょう;筑前篠栗住/福岡藩士)催「飛梅下俳諧」に参加、[宵月といふをちからや山桜](仮日記;78/月明かりを借りて桜の美が増す)

露々庵(ろろあん)

→ 有佐(ゆさ・富岡、俳人)

B 4 6 6 8

芦湾(ろわん)

→ 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人)

B 1 1 5 1